村會議員

菅原幸三郎氏

明治八年十二月二日生
宮城縣栗原郡尾松村榎田古戸十
農業

菅原家は天保年間に分家創立せられたるものにして、當主幸三郎氏はその第五代目に當る。代々農業を以て立ち廣大なる土地を監理せらる。氏は資性溫情に富み、實直なり。夙に家の主として農事に專念せらるゝ間、村治公共に盡力せらるゝ所大なり。村會議員として大正六年より今日に及び、幾多村政の問題に該博な所論を以て臨まる。國勢調査のこと始めて行はれたるときは撰ばれて國勢調査委員となり職責を完ふせらる。衞生組合に組合長、農會に評議員として努力せられ、また消防組々頭を昭和二年より勤め、村巖寺檀家總代として檀家一同の代行者たり。村民乃至檀家一同の信賴厚く氏また熱意を以て之に應へらる。妻女シゲヨ氏との間に一女あり、長女タリオ氏の養子を儀夫氏とす。

前村長

石川德三郎氏

動七等

安政元年三月一十二日生
宮城縣栗原郡尾松村八幡二七
農豪

石川家は郡内隨一の舊家にして名家、當主德三郎氏は古き傳說と歷史ある家系の第二十九代に當る。當家代々幕政制度上、庄屋肝煎を勤めたる豪農なり。德三郎氏また村政自治に關與せられたるは極めて古く、明治七年十月には地券調役として新土地制に益せらるゝ多く、町村制施行前に村議たり。明治二十二年より三十五年迄收入役たり、同年五月村長に就任せらる明治四十一年十月郡會議員に當選以來三期に亙り、また日本赤十字社の一員として功勞ありしにより松方正義總裁より感謝狀、宮城縣赤十字社支部栗原郡委員長より硯箱一個を授けらる。長男一郎氏は栗原郡栗駒村小學校に訓導として敎育の事業に專念せらる。資性溫厚、篤實にして鄕黨の輿望甚だ大なり。

村會議員

阿部長一郎氏

勳七等

明治六年八月五日生
宮城縣栗原郡矢崎村
農業 島谷里谷峰五〇

氏は亡父長太郎氏の長子に生る。氏の成年後の生涯は凱旋武士の稱光あり明治二十六年歩兵第十七聯隊に入營中日淸の國交斷絶するに遇ひ出征、威海衞に奮戰せらる。引き續き臺灣征伐の師に從ひ二十九年十一月凱旋と同時に勳八等に叙せらる。十年の後日露兩國戰を開くやまた出征して五聯隊に屬し兩嶺守備の任務に就き、三十八年國高臺に奮戰せらる。凱旋と共に勳七等に昇叙せられ靑色桐華章を授けられ一時金を下賜さる。その後鄕士團長の職に在ること多年、村在鄕軍人のため貢獻せらるゝ所多し。現在村會議員、氏子總代、檀家總代、衞生組合長として盡瘁せらるゝ所感激に値するものあり。軍隊に在る頃日常の行爲により善行賞狀その他表彰を受けられたること再三なり。

村會議員

千葉臺三郎氏

安政五年七月十二日生
宮城縣栗原郡文字村字葛峯
釀造業

千葉家は同地の舊家にして、代々肝入、庄屋等の職を勤め、名字帶刀を許されたる家柄なり。先代胤昌氏は代議士たること二期、縣會議員たること五期、郡會議員をも兼ね、中央政界に活躍すると共に、地方政界の牛耳を握りし人なり。同家代々長生にして同氏は七十四歲の高齡を以て沒せり當主臺三郎氏は胤昌氏の長男にして第十七代目の主たり。明治二十二年來今日に至るまで引續き村會議員に選ばれ、村長たる二期、郡會議員たること二期、其間郡會議長として地方政界に活躍せり。其他明治十三年以來宮城縣畜產組合總代議員として、又農會議員として、同氏が產業方面に盡せる功實に邉なし、又同氏は現在文字釀造株式會社々長として釀造業に其の異才を揮ひつゝあり、村內切つての切れ者として令名嘖々たり。

前信用組合長

加藤大三郎氏

正八位
勳八等

明治四年二月二十六日生
宮城縣栗原郡大岡村
字大林一四九

加藤家は土地の舊家にして氏の先考淸三郎氏は村長村會議員等の公職に就きて信望厚く八十三歲の高齡を以て逝けり。氏は先考の遺志を守り夙に敎育界に入り明治二十九年六月宮城縣管內に於ける尋常小學校本科正敎員たる免狀を受け同三十一年には大岡村尋常小學校長に榮進せり。進みて同三十五年同村農業補習學校長を兼任し三十八年更らに同村尋常高等小學校長を兼任し大正十年奏任官待遇を受け同十二年には多年敎育界に盡瘁せる廉に依り勳七等瑞寶章を授與せられたり。尙氏の薰陶を受けたる人々の手に依り其の偸德を顯彰し永久の記念とすべく大岡村小學校々庭に頌德碑を建設せられたり。氏の長子大亮氏は父祖を恥しめざる溫厚の君子にして現に村會議員の公職に就き村治の發展に努力しつゝあり。

信用組合長

煤孫逸平氏

慶應三年七月二十二日生
宮城縣栗原郡尾松村稻屋敷

遠く戰國の世に織田、朝倉の兩氏兵火を交へ朝倉氏戰利あらずして敗るゝや其の家臣たりし氏の祖先は花卷に落ち來りて時の城主和賀主馬の食客となりしが更らに和賀氏亡ぶに至り伊達家に隨臣し後栗原郡に移住せり。氏は明治三十四年村役場書記を拜命し其の後助役となり、同三十九年八月村長に就任し、引續き三期間其の職に在り大正十三年三月再び村長に選ばれ更らに一期を勤めたり。之より先明治四十三年十一月尾松村信用組合を創立し爾來引續き組合長の重職に就きて今日に至り又大正八年には郡會議員に當選し其の他村會議員に選ばれること二期に及べり。氏の多年に涉る功績は村民の齊しく禮讚惜く能はざるところにして村治並に產業組合に對する甚大なる功勞に對して表彰せられたること實に數回に達せり。

村會議員

土井永七氏

勳七等

明治三年四月十五日生
宮城縣栗原郡矢崎村島谷
農業

氏は先考永三郎氏の長子に生る。成年後の氏の經曆は明治の日本外征從軍に輝くものなり。明治二十三年歩兵第十七聯隊入營、二十六年除隊するや間もなく日淸戰役勃發し君國のために榮譽ある凱旋せられ、翌二十九年には臺灣征伐の軍に從軍せらる。戰禍止むこと十年にして日露の國交斷絶するや直に第五聯隊に編入せられて滿州の野に轉戰し、凱旋の後、勳七等白色桐葉章を授けらる。歸村の後專ら農事に專任せられ、現に村會議員として自治に盡力せらる。氏はまた子女の敎育には甚だ熱心にして、長男永一氏は中央大學法科出身高文司法科合格、現に日本橋區に辨護士を開業せらる。三男繁雄氏は畫家として立身し雄大なる作品を示されつゝあり。氏の親族中に多く有爲の靑年を持つ。

村會議員

阿部胞裏吉氏

慶應元年生
宮城縣宮城郡七井田村字北井田
農業

胞裏吉氏本姓は增子、阿部久助氏に養子したるなり。阿部家第五代に當る代々農を以て立つ。氏は資性快活にして圓滿、未だ嘗て無爲にして落膽の聲を聞かず。氏の公共への奉仕の生活はその專心誠一なる實にこの天成より來るものなり。村會議員、郡會議員、學務委員、農會議員たり。水利組合委員、參事會員、消防組頭たりしこと多年、氏の大小百般の自治村政の問題に妥當なる解決を與へられたること多大、その功により村を始め縣より表彰せらるゝの榮を有せらる。二柱神社氏子總代、善正寺檀家總代として村民の利を圖らるゝことまた深く村民の輿望厚し。大同生命保險株式會社の代理店の事務を扱はる。家庭內にありては妻女との間に一男三女あり、敎育のことに意を向けらる。

村會議員

若生直治氏

明治十二年一月十五日
宮城郡宮城郡七井田村野村一〇
青葉銀行頭取

若生家は土地屈指の舊家にして素封家、また名望家なり。氏は資性慧眼にして實務の才能に長け實業界に活躍せられし跡目覺しきものあり。大正九年宮城郡七井田村に青葉銀行を創立せられ、その頭取として現在に及ぶ。大正十一年には業務擴張せられて仙臺市元寺小路に青葉銀行支店を開設、仙臺市柳町に出張所を設けらる。その他白石町にまた出張所あり。同行資本金五十萬圓、宮城縣財界の重鎭たり。氏はまた森永製菓株式會社製品東北一手販賣株式會社取締役、東北無盡株式會社取締役たり。地方の名聲嘖々として氏に集るを見る。村會議員として多年の盡力せらるゝ所あり、郡制廢止前に郡會議員たること二期、現に農會長たり、土地賃貸價格調査員たり、常に氏の敏才を見る。

竹内直也氏

明治十九年一月八日
宮城縣柴田郡川崎村峨々一番地
溫泉旅館主

竹内家の祖充は代々德川家臣として謳はれたる人々なり。直也氏は二代目竹内時保氏の長孫に生る。二代前より大小佩持の武士を去り現在地に溫泉湧出し諸病に卓功あり將來發現せんことを豫見して旅館營業を開始せられたり。時は明治九年五月にして中央の權未だ確固たらず、新舊二流の相尅せるときに當る。當溫泉は村中最高燥の地を占め眺望また雄絶佳なり。諸般の設備整ひ湯治に便なり。清淹に遊ぶ人士の先づ當旅館に入るまた故あり。氏は資性溫厚、夙に中學校卒業後、家の溫泉旅館業の充實に專念せらる。氏また公共の事に深く意を留められ直接に村治の公職に就かれたれども諸般の日常村事に貢獻せらるゝこと沒すべからず。セツ子夫人との間に二男二女を擧げさせらる。

村會議員

高橋新助氏

宮城縣玉造郡川渡村
溫泉旅館主

川渡驛の西一里、鳴子驛の東南二十丁、川渡村鷲巣山麓の田圃内に田中溫泉あり。これ高橋家の所有にかゝり、王朝の末年壇浦に敗退せる平氏の家臣此處に遁れ鷲巣山に館を構へたりと傳へらるゝは氏の遠祖なり。鷲巣湯は仁治元年の開湯、田中湯は天保年間の發見にかゝる。泉質前者は炭酸泉後者は弱質類單純泉ありアルカリ泉あり、その効能神經性疾患、消化器病に特功あり。田中湯は孤立せる一の溫泉場にて客室六十疊敷五百疊あり邸内廣潤にしてテニスコート、スケートリンクあり。眺望に富み風光清雅なり。溫泉主新助氏は溫泉の發展を圖らるゝの傍ら、村治にも努力せられ、嘗て郡會議員、村會議員として自治に盡さるゝこと多く村内の敏腕有力家として知らる。

町會議員

大沼源藏氏

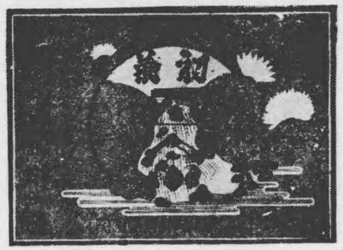
明治十一年九月一日生
宮城縣玉造郡鳴子町
溫泉旅館營業

口碑傳ふる所によれば遠祖は中山平に在りしが大沼彌治右衛門氏のとき當地に來る。當初この近邊七軒あり、鳴子町の風土史の第一頁たりと。源藏湯瀧之湯は當家の所有にして今より八百年前に溫泉神社を祀りたる記事あるを見れば既に當時に開かれたるものなりと見るべし。當溫泉は無色清澄にして硫化水素の臭氣を具へ酸味を有し皮膚病に卓効あることを以て知らる。亡祖父嘉太郎氏は天下の嘉太郎と稱して算筆に名あり。氏は溫泉の設備充實に盡力せらるゝ傍ら長く村會議員の公職にあり、町制施行後は引き續きて町會議員として現在に及ぶ。學務委員たること十八年、消防組頭としてまた多年に亘り、現に溫泉組合長として鳴子溫泉の宣傳とその設備の完全充實に努力せらる。

大江田博璘氏

明治二十二年十二月生
宮城縣宮城郡大澤村大倉
宗教家

氏は大江田慶源氏の長男に生る。山形縣の出身なり。幼より宗教の零圍氣中に人となり、物色假現の世界を離脱して菩薩の道、法の世界に淨土の自由を得べき教育を授けられ、東京に出でて巢鴨大正大學に學び、佛教哲理を究められ佛教の眞諦を修めらる。同大學卒業後宗教界に入り物慾に迷妄して浮動する衆生の濟度に盡さるゝこと多年、現に西方寺の住職たり。同寺には定義阿彌陀如來を安置す。同如來の緣起を見るに始め重盛の恭敬禮拜せしものなりしが治承三年病沒するに當り老臣平貞能に囑して後生の利益と菩提のため長く後生に殘さしめたるを貞能よく遺命を奉じ當地に落ち來りて居を卜し、從臣に命じて死後墳墓上に一宇の堂を建てしめしもの之なりと。西方寺の如來緣起記に詳し。



町會議員

三浦直治氏

明治十二年十月二十五日生
宮城縣栗原郡岩ヶ崎町
釀造業

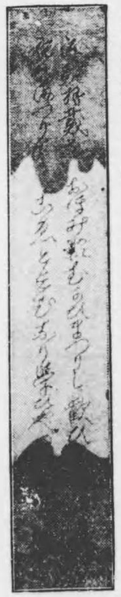
世に父祖資財を承繼するは易きことにして多し、されど單身努力以て產治むるは尠し。氏は若柳町の出身。實父辰次氏は煙草製造を營まれしことをあり。明治三十六年岩ヶ崎町に來りて酒小賣店を開きしが、氏の明敏なる商才と精勵とは逐次產をなし現に一大釀造家として若柳町に大なる支店を出さるゝに到れり。初菊正宗、岩清水は同家の釀造にかゝり共笑正宗は支店の商標なり。大正十年町會議員に當選して今日に到り町會に重きをなす。多年消防小頭たりしことあり。宮城縣酒造組合藥館支部長たり、岩ヶ崎町商工會創立發起人として產業自治に盡瘁さる。

村會議員

內馬場歲之助氏

明治十年四月生
宮城縣黑川郡富谷村明石
農業

內馬場歲人氏を當家の初代とし現在まで世數十五を數ふる村內の舊家なり嚴父文彌氏まで代々仙臺藩へ仕へて武功あり。文彌氏は七歲にして戊申役に加はり明治維新の戰亂に馳驅せられたり。歸鄉の後授業生として教育のことに盡瘁し實に二十有七年の長きに亘り、至誠を以て子弟の教育訓化に專念せられ、明治四十年職を退きて西田小學校內に建立せられたる頌德碑には有志の發起により永遠に氏の功勞と人格を傳へんとしたるものなり。因は和歌に堪能なり。當主歲之助氏は農事に勉勵せられ、業の傍ら村政自治に參じ現に農會議員たり。村內の有志家として知らるゝこと多し。



町會議員

增森義十郎氏

明治十八年一月生
宮城縣栗原郡岩ヶ崎町
六日町九七
呉服商

岩ヶ崎の有力家增森家は、德川幕府の基礎漸く確立し戰亂の消息絶えんとせる慶安の時代に起源を有す。町內屈指の舊家にして素封家、代々半農半商の姿なりしが、祖父義造氏のときより呉服商を創めたるものなり。義十郎氏は資性溫厚沈思の性、夙に農家に精勵して町を治め、町內第一流の大呉服商、老舗として町內一帶は勿論近郊諸村よりの顧客甚だ多く信用大なり。直接東京の呉服問屋と取引を有し地方僻遠の地に最新流行の衣裳紹介せらるゝを見る。氏は町治公益にまた熱心にして數多の公職に就きて貢獻せられしこと多年、昭和四年普通選擧によりて町會議員の改選行はるゝや立候補して當選し町政議場に冷靜明晳なる論陣を張る。長男義右衛門氏は仙臺第二中學出身、家業に從事せらる。

村會議員

小野寺小一氏

明治十年十二月五日生
宮城縣登米郡石越村北郷字中澤
農業

小野寺家は地方切つての舊家にして當主は實に其の十二代目に相當す代々肝入其の他の要職に就きたり四代前の祖肝入を務め其の以前は大肝入たり亡父文平氏は土木事業に明にして村會議員たること五期に及び又擧げられて助役となり土木事業方面に極力盡瘁せられ其の功績の就て見るべきもの今日に於ても甚だ多し、氏は其の長男として生を享け性着實勤勉にして家業の傍村會議員として村治の爲に努力を捧げらるゝこと二期に及び産業組合理事として地方の産業の爲に力を致さるゝこと多大なり又地方の舊家として名望鄕閭に普ねく押されて鄕社遠流志別石神社の氏子總代となり現在に及ぶ長男太郎氏は栗原郡農學校の出身にして家に在りて家業に勵まるゝ傍ら地方農事の改良進歩の爲努努せられをる由なり。

町會議員

菅原龜一氏

明治三十一年一月十六日生
宮城縣登米郡石森町字桑代
農業

菅原家は數百年の由緒ある舊家にして其の祖先は菅原忠次郎信宗と云ひ葛西家の家臣たりしも佐沼城主木村伊勢守の横暴にして下情を察せず苛斂誅求々事とし下を苦しむる事甚だしきに怒を發し百姓一揆の際に其の主領となりたる爲遂に亡命して百姓となりたるものなりと當主にて拾七代目にして父君龜次氏町會議員として町政に寄與する所甚だ大なるものあり氏其の後を受け大正十四年二十八歳にして町會議員に當選の榮を擔ひ今回の普選に際しても亦再度の當選を見たり氏は覇氣に富み抱懷するところのもの又大なり町治地方産業は氏を俟つて爲すところ甚だ多し氏は其の他信用組合理事、青年團在鄕軍人團、寺社等數ある要職に在りて其の中核をなす、家には母みさ子氏令閨きよの氏及三男一女ありて一家謐々たる家庭なり。

千葉家は凡そ四百年を數ふる舊家にして代々農を以て業とし庄屋肝入等の家柄なり氏の曾祖父甚兵衛氏又肝入たりしが明治八年の飢饉に際し其の藏する所の庫米を散じて村民の救助に資したるは古老間に今尙話題に上る所なり祖父熊藏氏は村長及議員として地方自治に貢獻し父甚十郎氏は地方に其の名隱れなき篤農家にして産業の興振に渾身の努力を獻げらる當主熊次郎氏は其の長男として生れ父君の質を享け溫良篤實にして又農事に厲心し産業の改良發達に力を濺ぎ小作人を撈はりて之を家人の如く遇すれば氏の德望は地方に遍ねく普選第一回に推されて町會議員となり其の他青年團、軍人分會等の榮職に在りて其の興隆に盡瘁せらる、家には母そよ子氏及令閨つるよ氏との間に二男一女ありて近隣の模範家庭として知らる。

町會議員

千葉泰四郎氏

明治三年四月十日生
宮城縣登米郡石森町阿彌陀岡
醫師

氏は石越村東鄕の出身にして夙に感ずる所ありて笈を負ひ東都濟生學舍に醫を學び業を卒へての後も更に志を奮ひて研鑽以て斯學の奥を極めんとし順天堂病院に入り其の實地に就きて醫に確信を持し更に帝國大學に理論を究明せられたり前途遼遠なる氏は望まれて同姓の千葉泰安氏の養子となれり同家は代々醫を以て其の盛名地方に隱れなき名家たり、當代泰四郎氏は嚢に神奈川縣船舶檢疫官及檢疫委員等の重職に在りしが感あり鄕黨に歸り眼科醫を開業し以て今日に及べり氏は只に眼疾を療するを念とせる、心眼の盲を啓くを念とせらる氏の如きは洵に國手の名に背かざるものなり、今や氏は同町校醫として衞生組合長、學務委員として又町會議員たること五期に及び地方自治開發の先達となりて努力を傾注し居らる。

村會議員

勳七等

上野雄平氏

明治十年九月二十二日生
宮城縣登米郡北方村
大字北浦地粮一七〇
農業

其の祖は上野久四郎氏に始まり當主にて六代目の舊家にして代々勤農の家を以て地方に知らる、先考雄之丞氏は晨に勵精するの傍長年區長其の他の榮職に在り村治の爲に區内の爲に大いに盡力せらるゝ所ありしが昨年七十八歳の高齢を以て逝去せられたり當主雄平氏は三十七八年の戰役に勳功あり歩兵軍曹に陞進勳七等々賜はりたり、爾來鄕黨に在りて父君を助けて地方農事の開發に意を用ひ又明治四十二年來軍人分會の爲に盡瘁せらるゝ所甚だ多く、推されて村會議員たること二期に及び村治の爲に粉骨の勞を厭はず又一町三ケ村組合會議員として地方産業の開發に力を致され其の他凡ゆる公職に在りて貢獻せらるゝ所甚だ大なるものあり長男幸雄氏は家に在りて專ら家業に勵精せられをる由。

助役

青木義夫氏

明治二十一年八月二十一日生
宮城縣登米郡石森町加賀野
農業

當家は大正二年青木家より分家して一家をなせるものにして氏の實父青木一平氏は地方政治に通曉し信望亦厚く擧げられて郡會議員となり或は村會議員となりて盡瘁せられたるは周知のことなり、氏は實に其の二男にして佐沼中學を卒業後家事に就き父君に奉仕せしが大正十二年衆人の懇請默し難く助役に就職し以て今日に及べり、氏は今や壯歳年々歳々隆盛に赴く町には缺くべからざるの人、資性謹直にして地方産業開發の爲には碎身を厭はざれば衆望は自ら厚く信用組合理事、農會副會長、氏子及檀家總代の要職を一身に擔ひて夫々の發展に努力を傾注せられつゝあり、母しづ子氏家に在りて業を助けられ、令閨をのえ氏との間に五男二女あり長男幹策氏は目下佐沼中學に在り孜々勤學中の由。

前町長町會議員

氏家孫助氏

明治八年八月八日生
宮城縣登米郡石森町
商業

諺に艱難汝を玉にすと之が具體的典型として氏を見る氏の生家は代々農家にして栗原郡宮野村に在り氏は儀作氏の長男に生れ幼にして石森町に出で地方の豪家にして舊家たる二木吳服店に奉公せられたり、素より資性忠實主家の爲に勞を吝まず日夜主家の繁榮をのみ之れ念として勤むること拾數年遂に報いらるゝの時至り明治三十年老舗二木吳服店の暖簾を引繼ぎ以て今日に至れり、今や氏は町内唯一の成功者として德望近隣に遍ねく加ふるに溫厚篤實なれば衆望は期せずして氏の身に鐘まり先には和氣藹々裡に町長の重職に就任せられたり恪勤以て其の任に當り町政一新面目を新にしたり現に町會議員、消防世話係其の他信用組合理事等の要職に在りて地方自治の振興産業の改善に努力せられつゝあり令閨なをこ氏は内助の功あり。

前區長

星捨治郎氏

明治八年七月八日生
宮城縣登米郡新田村新田上
農業

星家は十代以上を算する地方の舊家にして代々農を以て業とせり氏は守屋保藏氏の次郎に生れ養子となり星家を襲ひたるなり、養父吉太郎氏は地方人の信望厚く村會議員、區長其の他の公職に在ること多年村治の爲力を致せること甚だ多し當代捨治郎氏亦家業の傍村治産業の開發に努力せられ襲に長年期に亙りて區長、衞生組合長、私立消防組長として又現に伊豆沼治岸耕地整理組合會議員、第一區水利組合評議員、農事改良組合長、農事實行組合長として幾多地方農事改良向上發達の爲に貢獻し爲に村民の氏に感謝するところのもの甚だ大なり、氏に二男あり何れも軍籍に身を投じ長男登氏は陸軍騎兵軍曹たり次男捨男氏は近衞聯隊に歩兵伍長として衆に模範として將來を囑目せられ居る由。

村會議員

熊谷清之丞氏

明治十七年六月五日生
宮城縣登米郡石越村東郷
字十八引三
農業

當家は既に十代以上續き來りたる村内有數の舊家なり、清之丞氏は天性溫順にして實直、長ずるに從ひ益々其長所を現し衆人に模範として讃へられたり、千葉清左衛門氏の次男として生れたりしが、懇望されて熊谷家に養子に入り、養父喜三郎氏（六十歳）に事ふること殊の外篤く近隣の聲譽忽ちにして聚りたり、推されて村會議員に擧げらるるや、產業の發達の忽諸に付すべからざるを思ひ、特に農事に卒先精根を盡して範を垂れ改良に殁頭したり、甲斐あつて甚だ見るべきもの多かりしかば、更に六年前より新に商業の振興に力を向け自ら進んで商店を營む等村の繁榮の爲め精進しつつあり、長男誠太郎氏（二十一歳）亦岳父の志を體し、現に商業に熱心以て從事しつつあり。

前村會議員

高橋忠太郎氏

明治八年九月十七日生
宮城縣登米郡新田村大浦六二
農業

高橋家は氏を以て三代を數ふる舊家にして代々勤農の譽あり氏亦志を繼ぎて農を勤め家產を興し傍ら或は村治の爲或は地方產業興隆の爲に努力を惜しまざるを以て村民の傾倒厚く加ふるに資性篤實溫良なれば村治に關しては大小となく氏を俟つて始めて事を處する有樣なり村會議員、區長に擧げらるゝこと二回、其の他學務委員、消防組世話係、衞生組合長としての治績は今更贅言を俟たずして明なり又桑園基本調査員、家屋調査員、主婦會顧問、本郡乾繭組合總代等の要職に在りて村治に產業の發達向上に、風俗改善に極力盡力せられ今や其功着々現はれつゝあり氏の如き人ありてその先達となり地方改善の爲力を致さゞれば地方の進步發展など得て望むべからず長男志雄氏家に在りて農事に勵精只て父君をして後顧の憂なからしむ

村農會長

佐々木龜治氏

明治六年九月二十七日生
宮城縣登米郡豐里郡
字赤生津四九九番地
農業

氏は佐々木清之助氏の長男として出生したりしが十九歳の折父を亡ひしかば若くして佐々木家第十三代の主となる、爲めに早くより獨立心に富み奮鬪之努めたれば資產益々增し、克く土地の名家並舊家たるの名を辱しめざりき、二十七歳の若年にして既に村會議員に選擧せられ爾來二十二年間勤務し土地開發に鋭意努力し、衆望を擔ひて村長に推されて前年迄其職に在り、現在村農會長として農業の改善に盡瘁し兼て檀家總代たり、嘗ては國勢調査委員たり、斯て地方自治に力を致すと共に家に在りては養蠶、植林等に異常なる奮鬪を續けつゝあり、たみ子夫人との間に三男四女を擧げ長男屯氏は現に家事に勵み、三女くらの氏は目下縣立農蠶學校に在學中なり。

村會議員

岸浪勝司氏

正八位

明治十八年十二月五日生
宮城縣登米郡豐里村
大字鶏波宇山根一〇二番地
農業

曾て村長たりし岸浪虎治氏の長男として出生し家業を繼ぐ、代々農を以て家業と爲すも主として貸附にして勝司氏は馬四三頭、傭人二人從業員七人を使役して養蠶及植材業を經營しつゝあり、氏は仙臺市なる縣立農學校を卒業するや一年志願兵として青森步兵第五聯隊に入營し優秀なる成績を以て明治四十年步兵少尉に任ぜられ、正八位を賜る、除隊後在鄕軍人分會長となり、爾來十二箇年一日の如く勤續す、現に村會議員にして、登米郡乾繭販賣購買組合總代、村農會總代、學務委員を兼ぬ、たまの夫人との間に四男を擧げ、長男忠夫氏は縣立農學校卒業後家事に從事し、次男安之氏は目下仙臺市宮城縣立工業學校在學中。

信用組合理事

工藤熊吉氏

明治十五年二月一日生
宮城縣栗原郡清滝村小山田
字荻生田向九五
農業

多年村會議員、區長たりし實父清助氏齡五十二にして沒するや、長男なる熊吉氏は三十二歳を以て家長となる、爾今亡父の名を恥しむることなく家業たる農耕、養蠶に精勵すると共に公共事業に關與する頗る多く、不撓不屈の氣魄は以て諸事を有利に進展せしめ、農會評議員、養蠶組合長として或は國勢調査委員、區長として其手腕を認められ現に社寺總代及信用購買販賣理事として益々其力量を讃へられつゝあり、農業に對する造詣深き氏は屢々品評會に出品して入賞の榮譽を擔ひしことも數回に及べり、令閨き氏は家庭の人として內助の功著しく氏をして後顧の憂へなく公共事業に奔走せしむるを得るは一に夫人の力なり、夫妻の間に二男四女を設け長男俊雄氏（廿一歳）は家庭に在りて農業に從事す。

村農會議員

武川三吉氏

明治四年五月十五日生
宮城縣栗原郡清滝村荻生田
三森一五五番地
農業

氏は三十二歳にして武川家より分家して別に一家を創設す、農耕を以て身を立て更に近來は養蠶並植林事業に著眼し漸次其方面を開拓しつゝあり、進取の氣性と堅忍不拔の精神とにより次第に基礎を確實なるものとなし今や牢乎として拔くべからざるものあり、又區長代理として區內の和平を圖り、村農會總代としては村內農業の改良發達に身を捧げ、尙衞生、土木の委員として、社寺總代として、各方面に寸暇もなく活動を爲しつゝあり、村內の公共事業にして氏の力に依りしもの枚擧に遑なしと言ふも過言にあらず、その子夫人との間に二男あり、次男悅二氏は正に三十歳の壯年にして高清水高等小學校を卒業し當村消防手として現に副組長の職にあり。

正八位

小野寺忠孝氏

明治二十九年十二月十三日生
宮城縣登米郡石越村北郷
字長根九三番地
農業

當主は小野寺家の第九代目なり、先祖は代々肝入等を勤め、亡祖父清三郎氏は郡會議員、村會議員、村收入役等の公職に在りて多大なる貢獻を地方開發の爲めに致したり、忠孝氏は敎師たりし亡父正吉氏の血を引き讀書の嗜み深く縣立農學校に入りて、家業たる農事を研究し、修得したる智識を村內農作物改良の爲めに注ぎ、其効果尠しとせず、大正六年に至り一年志願兵として步兵第四聯隊に入營し研鑽すること年有り、期滿ちて除隊するや間もなく步兵少尉に任ぜられ正八位を授けらる、軍務に精勵したる推して知るを得べし、氏の至誠は是を以て意足れりとせず、農事の改良を圖ると共に在鄕軍人分會の爲めに表裏なく努力し、軍事思想の圓滿なる誘導には最も克く意を用ひつゝあり。

村會議員

勳八等

小野寺源治氏

明治十九年十月十九日生
宮城縣栗原郡萩野村字曹賢堂

明治三十九年第八師團弘前工兵隊に入營し、再役して大正九年に至る迄孜々として軍務に從事す、資性飽迄も謹嚴實直、新潟縣小千谷工兵大隊に勤務中の如きは成績拔群の廉を以て、皇太后陛下崩御の際及先帝陛下觀兵式に於ては特に隊より選拔されて參列の光榮を擔ひ、準士官として除隊後は同村在鄕軍人分會長に選任せられ、鋭意後輩の指導に努めて倦まず、其業績顯著なるものあり、昭和四年四月村會議員に擧げられ兼て衞生組合副會長、林野統一贊成委員、村道改修委員、敎育評議員、學務委員、區內貯蓄組合長として熱誠其事に盡瘁しつゝあり、當家は氏を以て第五代目となし實父は今尙區長の職に在り、併せて村會議員三期を勤む。

村會議員

勳七等 **門傳 正兵衛氏**

明治十年三月二日生
宮城縣栗原郡長崎村

門傳家は富士を以て十數代を重ぬる舊家なり、正兵衛氏は明治三十年始めて村役場書記として村務に携り、翌三十一年弘前砲兵隊に入營し軍務に精勵すること多年、曹長の位を以て除隊後は在鄕軍人分會長、青年會長、消防組頭、郡農會議員、郡養蠶同業組合議員、村役場助役等汎ゆる要職に擧げられ、現に村農會副會長、產業組合專務理事として活動すると共に、昭和四年四月再度推されて村會議員となるや、多年軍隊に於て鍛練したる進取的勇往邁進的なる鋭鋒一段と其輝きを增し著々として何れも改善せられつゝあり、豪放磊落なる一面願る敬神の念厚く氏子檀家總代の任に在りて克く村民の善導を誤らず、實弟清吾氏は目下福島縣平町に於て辯護士開業中にして名聲を高めつゝあり。

村農會議員

勳七等 **今野 虎之丞氏**

明治二十三年十月十五日生
宮城縣栗原郡清瀧村字清瀧內ノ目一ノ一
農業

當家は十數代を重ぬ代々肝入等を勤め來れる舊家なり、祖父慶吉氏時代に酒造業を營みたることあるも現在は農を以て家業と爲し、植林、養蠶をも併せ行ひ其著實なる施行振りは華々しからずと雖も、漸進的に基礎を固めつゝあり、氏は海軍に籍を置き曾て日獨戰役に出征しては勳功を樹てて勳七等に叙せらる、一等水兵曹として除隊するや在鄕軍人分會の役員となり更に昨年迄分會長に推され、現在村農會議員たると共に二三の組合長、評議員を兼ね國勢調査委員、氏子總代、社寺總代等手腕を揮ひつゝあり、又家業の傍、富國徵兵保險相互會社事務取扱所を營む、夫人ちよみ氏との間に四男一女あり、長男浩志氏（十二歲）は目下小學校に通學中。

前村會議員

尾形 英太郎氏

慶應三年十月十日生
宮城縣登米郡北方村大字日向字永田一〇〇番地
農業

尾形家は當主を以て第五代目と爲す、初代より代々肝入等を勤め、亡祖父清之助氏は村吏となり、亡父清八氏に至り村長、收入役、村會議員となる斯の如く代々村政に參與し其功績を遺したる頗ひ珍しと言ふべし、英太郎氏亦先代の血を承け繼ぎ前には村會議員、衞生組合長、區長に推されて一意專心力を致し、近來稍々老境に入ると雖も、村を顧る赤心は毫末も衰ふることなく、現に高石排水組合會議員、一町五箇村組合會議員、氏子總代檀家世話係、消防世話係等數多の名譽職に就き須臾も村を忘れず、爲めに寧日なしと言ふも過褒にあらず、就中消防、水利事業の功勞著るしく表彰を受けたること一再に止らず、長男清一郎氏（三十九歲）は家業に從事し餘念なし。

村會議員

佐藤 十五郎氏

明治十九年十一月生
宮城縣栗原郡長崎村上長崎
農業

當家は土地に於ける舊家にして代々農業を營む、十五郎氏は當家へ養子として入籍したるものなり、氏の實家も亦佐藤を名のり同村字小僧の舊家として知らる、實兄篤藏氏は現在村會議員にして曾ては收入役も勤めしことあり、十五郎氏は資性頗る溫厚にして圓滿、衆人の深く信賴する所なり、現に村會議員を始め區長、學務委員、國勢調査委員に擧げられ、其他氏子總代、檀家總代を永きに亘つて勤め、順調なる成績を上げつゝあり、信用篤ければ特に推されて信用組合監査役の職に就き顯著なる實績を見つゝあるは氏の然らしむる所なりとす、くま子夫人との間に三男一女を設け、圓滿なる家庭生活を營む、くま子夫人は良妻賢母として聞え、青年子女の範を乞ふ所なり。

村會議員

菅原 長兵衛氏

明治二十二年二月生
宮城縣栗原郡畑岡村
農業

菅原家は土地に於ける舊家として近隣に知られ累代農業を營む、實父は菅原長兵衛氏は明治四十二年仙臺第二師團工兵第二十八中隊に入營し翌年朝鮮守備隊に加りて渡鮮、翌四十四年期滿うて除隊を命ぜられ歸鄕す、昭和四年四月、曹通選擧初の施行に當り再度選ばれ村會議員となり、兼て陪審員候補者、農會總代、民力涵養實行組合長、一町五箇村伊豆沼耕地整理組合長等村の樞要なる椅子を與へられ、溫厚篤實なる資性と熱誠一徹の精神とに由て著々と好成績を擧げ其衆望愈々厚きを加へつゝあり、事を行ふに當りては熟慮し爲すに當りては斷行するの氣慨は天性の然らしむるは勿論、更に數年間軍隊に於て鍛へられたる軍人精神の發露に他ならずと言ふべし。

村會議員

勳七等 **大內 愼祐氏**

明治二十三年一月二十二日生
宮城縣栗原郡長崎村大川內上區

氏の實父常三郎氏は大正八年より同十四年迄村役場收入役を勤め、在職中五十五歲を以て病死す、日淸、日露の兩役に出征し勳七等を賜りたる人なり、愼祐氏は明治四十三年仙臺步兵第四聯隊に入營し、其間一箇年朝鮮守備隊として派遣せらる、除隊するや大正九年臺灣巡査を奉職し昭和二年に至りて退職の上歸鄕す、同四年四月に及んで村會議員に推選せられ、それと前後して檀家、氏子總代、農會總代、養鷄組合會計、大川內上區無盡講長、信用組合理事各方面に參與し業務の圓滑なる發達に盡しつゝあり、家庭は實母ホチヨ氏（五十七歲）を始め妻フミヂ氏（四十二歲）目下步兵第四聯隊に入營中の長男正一氏（二十三歲）築館中學校在學中の次男祐男氏（十五歲）次女キミヱ（十一歲）の六人なり。

村會議員

菅原 孫左衛門氏

明治八年生
宮城縣栗原郡文字村
農業

菅原家は氏を以て第十代目とす、氏は明治三十七年初めて村役場に出仕し同四十一年に至り收入役となる、大正十二年三月退職する迄恪勤精勵、殆ど二十年間恰も一日の如く村治の向上と村民の福利の爲に勤めて倦まざりき、現在農會副會長、衞生組合長、第四區役援團長、國勢調査委員、氏子總代、洞泉寺檀家總代等多數の職務に携り今尙壯者を凌ぐ活躍を續け居るは、惠まれたる健康も去ることながら一に氏の至誠の致す所なり、又仙臺畜產組合文字區取締役として畜產事業にも大いに力を注ぎ、赤十字社終身社員としては常に子女の愛國精神の涵養に意を拂ひつつあり、長男彌太郎氏（四十一歲）は宮城縣師範學校を卒業し目下同郡長崎村尋常高等小學校長として育英の道に從事す。

村會議員

勳七等 **三塚 忠三郎氏**

明治十四年十二月二日生
宮城縣栗原郡長崎村萩生
農業、商

三塚家の實家は同村字要害に在り、氏若くして獨立の氣性に富み拾數年前現住所に來りて雜貨店を開き、傍ら農事に精勵す、明治三十四年輜重兵として弘前第八師團輜重隊に入營し、再役して四十一年迄軍隊生活を營む、大正元年に至り仙臺聯隊區召集係に勤務し同三年退職するに及んで勳七等を賜り曹長に任ぜらる、爾來在鄕軍人分會長として殆ど十年間後進の指導敎育に從ひ、成績極めて良好なりしかば軍人分會より表彰を受く、大正十四年初めて村會議員に當選し二期間引續き村治に盡瘁し、尙農會總代として臨み、村の風敎上に非常なる好影響を與へ青年子女の感化さるる者尠からざりき、妻女トシノ氏との間に長女アヤ子あり。

會社重役

伊藤正人氏

明治二十三年一月十五日生
宮城縣登米郡石越村
農業

伊藤家は正人氏を以て八、九代を重ぬる土地の豪農なり、先代三郎氏は郡會議員、縣會議員、縣參事會員たりし人なり、村長在職中昭和二年病沒す正人氏は桃生郡北村遠藤今五郎氏の五男にして祖父溫氏は衆議院議員たりし人、實父今五郎氏は縣會議員、郡會議長たりし人なり、斯る名家に生れ早稻田大學政治經濟科を卒業し後伊藤家に養子として入籍す、幸運兒なる哉、現在栗原軌道株式會社重役の要職に在り、石越村消防組織當時其部頭を勤む、氏や未だ春秋に富む、多額納稅者として巨萬の富あり、加ふるに豐富なる學殖のあるあり、將來氏を待つこと蓋し多からん、はしめ夫人との間に三男二女を擧げ家庭に和氣橫溢す。

村會議員

岩淵貞三郎氏

明治二十四年一月二十日生
宮城縣登米郡石越村字峯一〇九
郵便局長

岩淵家は貞三郎氏を以て十五代を重ぬる村內有數の舊家なり、氏は多年郡會議員たりし先代友四郎氏の次男にして家督を相續す、縣立栗原農學校を卒へるや種々なる公職に就き現に板倉關水理組合會議員、信用利用組合長村會議員、宮城縣信用組合聯合會理事、同農業倉庫評議員、產業組合中央會支會評議員、社寺總代等廣汎なる公私の職務を帶び大正六年よりは石越郵便局長として勤續しつゝあり、公共事業の功績擧げて數ふべからず、就中消防組織者の一人として村內の信望頗る篤し、農業に力を致すこと亦甚だしく嘗て白米を陛下の御料として供進し、知事より表彰を受け又東北產業博覽會にては一等賞を授けらる、令閨ミドリ氏との間に三男五女あり家庭の團欒靄然として近隣の凝羨する所なり。

實業銀行築館支店長

大庭彥八郎氏

明治二十一年二月二十三日生
宮城縣栗原郡宮野村字留場四二
銀行築館支店長

氏は多額納稅者として著名なる大庭顯之助氏の三男に生れ、分家して新に一家を創む、早稻田大學政治經濟科を卒業するや直に金融界に身を投じ、現に東北實業銀行築館支店長、築館町金庫取扱主任、勸業銀行金庫取扱主任として郡內金融界有數の花形にして其人望愈々厚きを加へつゝあり、郡制廢止迄は郡會議員に選ばれ郡是に參與し湧くが如き人氣を博したりき、學識あり、經倫あり、併も財力あり、搗てゝ加へて內に燃ゆるが如き覇氣を藏す、鬼に金棒と言ふべし、少壯有爲の士として實に今や衆目の的たり妙子夫人は仙臺女子職業學校の課程を修め氏との間に一女あり、卽ち長女淑子孃（十二歲）にして目下小學校に通學中なり。

町會議員

佐藤東吉氏

明治十二年十二月二十七日生
宮城縣栗原郡一迫町
農業

惣造氏（八十歲）の長男に生れ佐藤家の第三代目を繼承す、資性極めて溫厚にして篤實、氏の一指の觸るゝ所諸事立ちどころに圓滿なる解決を見る昭和四年四月初めて町會議員に推擧せられ、區長在職中なるを以て區長を兼務する傍ら、農會總代、實行組合員、衞生委員、舊四箇村堰組合議員、龍雲寺檀家總代、氏子總代等公私の事務を央掌し、何れも堅實なる歩みを以て實績を揚げつゝあり、嘗て自警團長、消防小頭として自治團體を指揮監督し其發達に貢獻する所亦著しきものあり、令閨うめよ夫人との間に三男三女を設け、長男義智氏（二十三歲）は現に家業の農事に營々としていそしみつゝあり。

前村長
勳八等

佐々木喜作氏

弘化四年三月二十四日生
宮城縣加美郡廣原村城生字屋敷
農業

人格識見共に卓拔にして最も赫躍の治績に富む我が佐々木喜作氏は、明治十五年九月下多田川外一ヶ村議長を振り出しとし、次で村收入役に選れ三期間滿期退職と共に助役となり、村農會長其他を兼ね、同四十三年村會議員に選れ、翌四十四年遍き衆望を荷ひて村長の重位に就き至誠以て善政を敷き幾多治蹟の見るべきものあり、而も之と前後して原野組合會設置委員同評議員、生產調査委員、赤十字社分區委員、愛國婦人會地方委員、郡教育會地方幹事其他を重ね、業績何れも記すべく、殊に明治三十三年皇太子御結婚奉祝記念として山林五反歩を又小學校建設多田河修繕工事等に多額の寄附あり、卽社會貢獻の篤志並に自治多年の功勞を以て縣郡其他より表彰せられし事枚擧に遑なくつゝる子夫人の間に三男一女の良後繼を儲く。

村會議員

山崎齊治氏

明治二年九月十五日生
宮城縣加美郡色麻村字黑澤
農業

氏は本村平澤の豪農實父庄左衞門氏の三男に生れ、二十一歲の時當山崎銀右衞門氏の養子に迎へらるゝ、實父は土地の篤農として推奬され而も多年區長、村內世話役等の重責を完うせる德望の士、養父又土地の豪農にして夙に部落總代其の他に任じて鄕黨に重きをなせる篤志家たり、氏は手腕力量共に兩父に讓らざるものあり、明治三十八年衞生組合幹事に當選、同四十一年納稅組合を組織するや納稅組合幹事となり、次で區長代理者に當選し大正三年區長に當選、後三期十二ヶ年間在職し其間警火組合長、衞生組合長、自警團長、競馬會副會長、村社總代、檀徒總代國勢調査員二回に亙り土地調査員、產業組合理事、緬羊組合長となり、更に村會議員に當選、郡農會農事奬勵員、又村治にありては村勢調査員、道路調査員等を兼ねて今日に至る。

村長

畠山龜三郎氏

明治十七年一月十日生
宮城縣登米郡上沼村櫻場

當家は氏にて二代目、先代は同村畠山家より分家す、氏は明治三十一年別科三學年を卒業し三十七年檀家總代當選現在に至り、同年氏子總代又赤十字特別社員に列し三十八年帝國水難救濟會區會議員、同四十二年村農會副會長、同四十三年村勸業委員、同年村會議員に當選以來一期を除き連續今日に至る、同年宅地賃貸價格調査員、生產調査員、上沼村生產督勵委員たるの外、郡會議員たる事四期に及び郡制廢止迄郡參事會員を勤め大正五年仙臺青英會募集委員、同六年登米郡酒類密造矯正會委員其他登米郡輕便鐵道期成同盟會委員、大日本武德會特別會員、櫻場青年農友會長、登米郡實業調査委員、同實業視察員、政友會宮城支部評議員等公職牧擧に遑あらず、大正十二年登米郡長より自治功勞者として表彰せらる。

帝國在鄕軍人分會長
勳七等

柴崎清次郎氏

明治十七年四月一日生
宮城縣名取郡六鄕村井土字宅地五一
農（吏員）

始祖極めて古く、一旦中絕したるも再興現主は亡父清左衞門氏次男たり。氏は明治三十七年十二月野戰砲兵として第二聯隊に入營、日露役に出征。武勳大いに揚り、凱旋するや砲兵上等兵に任ぜらる。同四十年憲兵上等兵として仙臺分隊に編入、後韓國、間島、鏡城、會寧各分隊に轉々同四十五年三月には會寧憲兵分隊上水湖出張所長に就任大正元年十二月憲兵伍長に昇任と共に新豐山派遣所長となる同三年會寧分隊附行政事務主任を經て翌四年同分隊行營派遣所長に就任同五年豐橋濱松各憲兵分隊附として軍務に盡し同六年十二年九月憲兵軍曹に就任爾後豐橋分隊附として軍務に盡し同六年無事現役滿期除隊す同七年二月學徒隊在鄕軍人分會長に就任現在に及ぶ同七年同村役十二年帝國在鄕軍人會長より模範分會長として賞狀を受く。同七年同村役場吏員として兵籍事務に盡し傍ら區評議員、青年分會長、消防組頭、同村村治に盡瘁せられつゝあり。村漁業組合幹事として能く村治に盡瘁せられつゝあり。

村長

藏元雄吾氏

慶應元年八月四日生
宮城縣遠田郡南郷村福ヶ袋五
會社重役

藏元家は舊涌谷藩々士たり、代官、肝入等の職を勤めて封建の時代地方に名望ありし家、系圖散逸せるため詳細を知るを得ざるも、村内有數の舊家に屬す。雄吾氏は先代健治氏の長男に生れ明治廿年家督を相續す。氏は始め宮城師範學校高等師範科卒業の後教育界に投ぜられたるも、性來敏慧なる氏は實務の才腕ありて實業界に進出せられ、移民、製紙、電車事業等の會社を創立してその重役たり、鐵道、電車、開墾事業にも關係し松島電車株式會社、遠田蠶業會社の重役として敏腕の聞えあり。公職としては村長、村會議員を始め南郷女子青年團長、南郷村農會長、學務委員、水害防止組合、水利組合の組合長、縣治調査委員、社會事業地方委員に就かる。社團法人福ヶ袋協同社理事長たり。子女全て高等の學校に學ばる。

在郷軍人分會長　青年團顧問

佐藤經雄氏

明治二十一年十一月十八日生
宮城縣亘理郡坂元村
字坂元上根岸四
篤農（靴製造業　徴兵保險代理店）

當家は氏に至るまで四代目、代々農蠶を業として振ひ、更に副業として靴製造業を兼營し、業務第一恪勤して克く今日あるの成果を收む、氏は即ち先考平吉氏の長男に生れて家督を繼ぐ、資性直情經行にして器局寛濶覇氣又旺隘す、明治四十一年徴せられて歩兵第二十九聯隊に入營、朝鮮守備の任を完ふして伍長に昇進す、除隊後は推されて在郷軍人會幹部、青年團顧問として盡瘁す、現在は帝國在郷軍人會分會長、青年訓練所指導員並に消防組部頭の職にあり、眞摯と熱意を以て鄉黨の敬服を蒐め、更に現今勤儉貯蓄心の喚起向上を目的に徴兵保險代理店を營みて其事務に鋭意映掌し、業務の繁忙なるに拘らず、常に豫定計畫を着々實現し、又克く地方青年の中堅として卒先躬行以て世の儀表たるべく專念せらる。

町會議員

菅原義雄氏

明治二十一年五月生
栗原郡一迫町眞坂中町三三
呉服商、醤油業

菅原家は土地に於ける舊家にして氏の曾祖父の代より呉服商及醤油釀造業を營みて今日に及べり。實父は民之助氏と呼び氏はその長男に生る。憲政會代議士菅原英伍氏は氏の從弟に當れり。氏は町會議員に當選する事三回大いに村治産業の發達に盡粹せられ信望厚し。尚實業方面に於ては現に仙北電氣株式會社長として、又宮城送電株式會社取締役（資本金二百七十五萬圓）としてその敏腕を揮ひつゝあり社運隆々たり。氏には久子夫人（四十一才）との間に五男三女あり。長男雄一氏（十九才）は昨年築館中學校を卒業せられ目下家事に從事さる。次男三男共に築館中學校に在學中なり長女好子嬢（二十一才）は東京家政學院高等師範卒業後大阪氏家恭愿氏の許に嫁し淑德高し。

村會議員

佐藤三吉氏

明治十六年一月十六日生
宮城縣栗原郡藤里村大字大里
農業

佐藤家の起りに關しては記錄の徴すべきもの無しと雖も語り傳ふる所に依れば大阪落城の砌豊臣の家臣落ち延びて東北に到り此の地に歸農したるを以て祖先となすと。代々農を以て家業となし傍ら肝入又は其他の要職に在りたる家柄とす。祖父良三郎氏は組頭の重職に就き盡粹せらるゝ所多かりき。父君良七氏の代に至りて新に分家せられたるを以て當家は三吉氏を以て二代目なりとす。氏は嘗つて消防組小頭、區長、水利組合長、衞生組合幹事として事務を鞅掌せらるゝ事多年、又役場書記として、國勢調査員として力を致されたり。現在村會議員農會評議員郡農會議員の職に在り地方自治産業の發展は氏に負ふ所大なり。其他消防組部頭信用組合評議員たり。氏の長男良義君は當年廿八才、專ら家業に專念せらる。

村會議員

佐藤正一氏

明治十八年十二月九日生
宮城縣栗原郡宮野村上宮野
字秋山
農業

氏の祖は庄左衛門氏に始まりて現主は其の四代目なり、代々村の世話役を務められたり、先考庄藏氏區長たること十五年區の爲に計ること實に多大又村會議員たること實に四期に及び村政に參して言ふ所剴切なるものありて一々用ひられ村治の今日あるを得たり、當主正一氏は往年樺太に渡り植民地開發事業を備さに視察して大いに齎すところあり、力を極めて村治に貢獻せらる、村會議員、農會總代、消防小頭、區組合幹事、壯年團支部長或は自警團委員として村政の樞機に在りて其の赤誠を致され或は地方風習の改善に努力を傾注せられつゝあるは人の熟知せらるゝ所なり、令弟裕氏は身を海軍籍に投ぜられ現に豫備海軍三等兵曹たり、長男昇之進氏は家に在りて農に勵精以て父君を助けられつゝある由。

村會議員

嶺岸平藏氏

明治十五年四月生
宮城縣名取郡生出村
農業

我が嶺岸家は家系十數代連綿たる舊家として又土地の豪農として重きをなし他人の尊敬する所たり。先考泰助氏はその人格手腕衆に秀で早くより推されて地方公共の要職につかる。即ち郡會議員、村會議員等多年に亘りて在職せられしが大正九年二月擧げられて生出村長に就任せられ、その在任中に於て學校の新築、病院の新設、村教育の刷新充實等の難事業を完成しその他村治の向上、産業の發展等に努め多大の治績をあげられ功勞從つて大なり、その他皆この會長、團體長の職を歴任せられたる地方有數の人材なりき、半藏氏又よくその資を享け多年地方養蠶業の改良發達のため努力せらるゝ所あり、昭和四年三月擧げられて村會議員となり、今日大いに村政のため努力せられんとしつゝありその活動は村民上下の期待する所なり

町農會長、産業組合長
從七位
勳六等
功五級

北畠善四郎氏

明治十三年十月十九日生
宮城縣名取郡閖上町高柳
字中北田二
農業

北畠顯家東北征討の際その一族西多賀村に居を朴して一家をなす、これ當家の祖なりと、その後二百五十年餘を經て此の地に移り歴農す、爾來今日に至る二百七年餘當主を以て二十一代に及ぶ誠に名譽ある家門なり。先考善内氏は村會議員・伍長等を務めたる有力家なりき。君は初め農學校を卒業し同時に母校に教鞭をとらる後歩兵第四聯隊に入營日露の役に出征して功あり歩兵中尉に任ぜられ從七位勳六等に叙せられ功五級を賜はる。その後縣農務課臺灣總督府農事試驗場技手、名取郡農事技手、縣試驗場技手、穀物檢査所技手等を歴任し奉任技師を以て退職せらるその後は專ら地方自治産業のため努力せられ町會議員、農會長、産業組合長等の要職に就きて太いに貢獻を至されつゝあり君は又前生組合長國勢調査委員分會長等なり

村會議員、學務委員

後藤米治郎氏

明治十三年五月三日生
宮城縣登米郡南方村四郷
大字沼崎七〇二
農業

當家は家系十數代を算する舊家にして代々農蠶を以て業とせらる君は先代清作氏の長男に生れ若年時代は專ら農業に精勵せられ後力を地方公共の爲に致され以て今日に及ぶ。君は始め青年團役員として永年村青年訓練指導の任に當り後在郷軍人會名譽會員にあげらる。又伍長、衞生組合長たること多年この方面に於ける貢獻又尠からず。その他村土木工事委員、國勢調査委員、南方村西部養蠶組合長、社寺總代、南方村水防組頭、學務委員、統計調査委員等あらゆる村公職に歴任せられたる他村會議員としては大正十年以來常に重任して今日に至らる又以て君の人物の尋常一樣ならむるを知り同時に君の功勞尠からざるを窺ふに足るべし、家庭に五男二女あり長男忠雄、次男龜雄、四男昇氏は共に兵役に服され前途有爲の人材なり。

町會議員

佐々木多利治氏

明治三年十月十七日生
宮城縣名取郡水上町字二二
酒造業

君は明治三年高橋倉治氏の七男として呱々の聲を擧げられ後迎へられ當家の先代新助氏の養嗣子となり繼いで當家の主となりて當家の清酒釀造業は今を去る四十五年前の創業にかかりその製する所の銘酒「浪の音」は縣はもとより遠く他府縣に販路を有し品質の優良と香味の芳醇を以てその名著る。君は又早くより地方公共の事に携はり本町の町制施行前助役、村長等村政の要職に就き又村會議員として村最高機關の一員となりしが、昨年町制施行と同時に町會議員に當任せらる、その他郡制廢止前郡會議員となり參事會員に擧げられたる等地方自治政に於ける功勞多大なり。されば管て自治功勞者として村當局より又縣より表彰せられたることあり。又銘酒浪の音は名物品評會に出品して入賞したる事又しばしばなり。

前村長

熊谷學氏

明治六年十月生
宮城縣登米郡米谷町
農業

君は先考たる醫師熊谷直夫氏の後を襲ひて當家八代目の主となりたる。君は明治四十五年町役場書記を拜命勤業事務に勉勵せられ町當局より表彰せられたり。ついで大正八年仙臺產馬畜產聯合登米區世話係、九年國勢調査委員農會評議員、同十年町會議員、町是調査委員、大正十一年登米郡緬羊飼養組合長、登米緬羊畜產組合副長となり十二年米谷町長に就任仙臺畜產組合登米區取締となりたる。昭和二年宮城縣緬羊組合聯合會副會長、登米郡農會特別議員となりたる、君は又緬養飼育事業の有利なるを認め卒先私有を投じてその飼育普及に努められ知事より表彰せられたり。又仙臺市裏五番町に食用緬羊肉販賣店を設けその皮は千住陸軍製絨所へ供給せらる。此の如く君は多年地方の自治產業の發達に盡力せられたる大功勞者なり。

村長、農會長

檀崎源左衛門氏

明治四年八月十七日生
宮城縣名取郡多島村字北川
農業

我が檀崎家は當村内檀崎家の總本家にして十數代を繼續する舊家なり。先考源兵衛氏は村會議員、區長その他の公職に歷任し多年地方公共のため盡瘁せられ功績亦尠からざるの士なり。君も早く公事に盡さる卽ち私設消防の組織に努力してこれを完成せらる後村役場書記を拜命しついで收入役に擧げられて村財政の事鞅掌せられたりしが後衆望の期する所推されて村會議員に當選内政の樞機に參ぜられ大いに内政の向上發展に努められる後本年三月遂に擧げられて村長に就任名實共に村政の首腦者となる、その他君は村農會長、水利組合會議員、信用組合理事、納稅組合長、農會議員等の現職にある外嘗て國勢調査委員、氏子總代等の要職に就かれて大いて貢獻せられたり、誠に村内有數の人物なり家庭に五男二女あり。

内海茂氏

文久二年五月一日生
宮城縣名取郡水上町字牛野
醬油釀造業

當内海家はこの地の舊家にして代々肝煎その他の要職にあり、醬油釀造業は君の先考善吉氏の代慶應年間の創業に係りその製品丸や醬油は年產額二百五十石に及び品質の優良、風味の佳良を以て聞え廣く縣下各地に販路を有す。君は善吉氏の次男に生れ仙臺中學を卒業後東京獨逸語協會學校に入りて獨語の研究に努められ明治十七年渡米して桑港に於て旅館經營せられしが後メキシコに渡りて銅山會社に勤務せられしが明治三十九年歸朝せられたり。君の義兄源之助氏は村長、村會議員其他村内のあらゆる要職を歷任し村治上多大の功勞ありし人なりしが昭和二年八十一歲の高齡にて死去せられたり。現今は源之助氏の後を泰志氏繼がれたるも未だ東北中學在學中十九歲の若冠なるを以て茂氏は家業を監督せられつゝあり。

町長、信用組合長

平間彌五郎氏

從七位
勳六等
功五級

明治十三年十二月一日生
宮城縣名取郡岩澤町
清酒釀造業

當家は氏を以て十六代に至る舊家なり。五代前の當主より酒造業を始め銘酒富多喜正宗釀造元としてその名著はる。先考彌五郎氏は多年町會議員、郡會議員、郡參事會員、縣會議員、同參事會員等の要職にあり縣下の名士としてその名著はれたり。君は明治三十五年一年志願兵として入營し少尉に昇進せられしが偶々日露戰役の起るや遭ひ滿洲の野に出征し各地に轉戰して功あり三十八年中尉に進級し從七位に叙せられ勳六等功五級を賜はる。歸鄉後は郡在鄉軍人聯合分會副會長の職に就きその他町會議員、郡農會特別議員、宮城縣酒造組合評議員等の公職に就きて大いに地方のため努力せらる、當家釀造の清酒は各品評會博覽會に出品し、しばしば入賞せる名酒たり、家庭に五男二女ありいづれも前途ある俊才なり。

助役

佐藤善七氏

慶應元年十月七日生
宮城縣宮城郡七郷村大字荒濱字南丁五六
農業

當家は君を以て第五代目に當る代々肝煎その他村内の公職に就きたる地方の名家なり。君は未永傳吉氏の次男に生れ迎へられて當家に入り先代權十郎氏の嗣子となる權十郎氏は多年村會議員その他の要職に在りたる村内の名望家なりき。君は始め宮城集治監(刑務所の前身)看手となりその勤務中分監出納簿下調を命ぜられたる事あり。大正六年その職を辭して村役場に入り庶務課兵事係の職を經て大正十二年助役に進み同年村長代理を命ぜられたり。その他農會書記、本縣電氣事業書記、水利組合書記、漁業組合長國勢調査委員等を歷任したる他村會議員の要職をも帶びその功誠に尠しとせず、されば日露役に當り軍需品作業の成績優良の廉により當局より表彰せられたる外自治功勞者として知事より表彰せられたることあり。

村會議員、信用組合長

大友周太郎氏

明治十八年八月二十四日生
宮城縣名取郡愛島村
農業

君の祖父故貞吉氏は明治二十二年町村制施行と同時に村長に就職せられたる人、先考周治氏は村會議員其他の公職に就き當時紊亂を極めたる村政整理の任に當りてこれを完成し部落有財產の統一耕地整理の完成等に盡瘁せられ明治四十年村長に當選せられて後は道路の改修を完成せられたり。本村今日の平和向上は實に周治氏の力に依る所誠に大にして實に本村再生の恩人なり。君はその男に生れ克く父君の資を享けて早くより地方公共のため盡瘁せらる。君は仙臺野砲兵除隊後は分會役員として多年盡力せられ又部落青年會を組織してその會長となり青年指導に任ぜらるその他耕地整理組合副長、信用組合長、村會議員、學務委員、水利組合會議員等あらゆる村政の公職に任じその貢獻又尠しとせず家庭圓滿にして一男四女あり。

縣會議員、町會議員

山田寛吾氏

明治二十二年三月七日生
宮城縣登米郡登米町
農、銀行支店長

君は我が山田家四代目の當主なり。弱冠にして笈を負ひて東都に學び早稻田大學商科に入りて經濟の學を修めらる。後徵せられて一年志願兵として騎兵第二聯隊に入隊し累進して軍曹に進まる。除隊歸休後は一度視察のため英領シンガポールに渡られ後又亞米利加を視察して大いに智見を廣められたり。君人となり潤達にして手腕力量凡ならず加ふるに豐富なる學殖と識見とを以てし克く自治政の要人たるに適す卽ち早く地方公共の事に從ひ始め町村會長となりついで町會議員となり消防後援顧問となり大いに地方公共のため盡力せられしが後縣會議員に擧げられて現にその職にあるの他五城銀行支店長として地方實業界に於ても大いに活動せらる、君齡漸く不惑を越ゆるに過ぎずその前途實に洋々たるものあり。

村會議員

山田卯八氏

明治十三年生
宮城縣名取郡生出村字南赤石

山田家は當主を以て當に五代目とす、代々農を以て業とし傍ら又牛馬商を營み來れり。實父茂右衛門氏は鋭意家業に從事し家運頓に隆盛に赴きたり氏は村會議員の職に在り村治に貢獻せられつゝあり。又南赤石養蠶組合副組長、農會代議員、南赤石契約講評議員、消防部頭の要職にあり。且つ部落自警團長及生出村自警團幹事、氏子總代として力を致されつゝあり。氏は又嘗つて青年團長たりその業蹟大なりき。氏に三男二女あり、長男は夭折せられる。次男茂吉氏は當年二十四歳にして嘗つて第二師團野砲隊に入隊して上等兵に昇進せられたり。目下家庭にありて專心家業にいそしみつゝあり、氏を後繼者とする山田家の家運また刮目してまつべきものあり。三男茂氏は本年二十一の壯年にして氏の前途また洋々たり。

村會議員

羽生利喜之助氏

明治四年二月生
宮城縣登米郡淺水村

口碑の傳ふるところに依れば羽生家は延喜年間に起りたる舊家にして連綿として實に約一千年の永きに亘る。祖先は組頭を勤めて名家とす。實父卯吉氏は農を以て業とし六十四歳にて逝去せらる。利喜之助氏は氏の長男に生る。嘗つて產米檢査員、區長代理及區長の職を務め業蹟大なり。又永年統計調査員を勤め特に消防組に對して力を致すところ多く消防手より消防小頭に至るまでその勤續實に三十有餘年の久しきに及びたり。縣知事はその功を稱へて勤功賞を授けらる、また宜なるかな。尙氏は現に檀家世話係として力を盡しつゝあり。昭和四年三月推されて村會議員となるや鋭意村治の事にあたり名聲嘖々たり。氏は又柔道の達人にして師匠柴田文祐氏より西注院武安流武者捕の奥儀皆傳を授けられたり。

當家は君を以て家系五代を數ふ代々農を以て業となす。君は先代熊太郎氏の長男に生れたり。始め北海道炭礦會社に勤務し誠實勤勉その職に努力しその手腕又凡ならずして次第に產を成されたり。後會社を辭して專ら地方公共のため力を致されつゝあり。君人となり熱心努力の性加ふるに圓轉滑脫たる外交手腕とは相俟ちて自治政の首腦者たるに如適す。即ち明治四十四年北本郷耕地整理組合長に擧げられ拮据經營これを完成し。郡制廢止前は郡會議員に任じ、現に村會議員は大正二年以來の勤續なり、その他衞生組合長、學務委員、信用組合長等あらゆる要職を兼ねらるる他現に本村村長となり名實共に村政の首腦者として大いにその敏腕を振はれつゝあり、長男正規氏又消防小頭たり前途有望の士なり。

耕地整理組合長

千葉庄右衞門氏

文久三年八月二十七日生
宮城縣栗原郡志波姫村白幡
伊豆野
農

當家は君を以て家系連綿十數代を算する當地の舊家なり。代々農を以て業となし地方の名家なり。君は先代千葉助三郎氏の長男に生れらる長じて榊原氏に師事して和漢の學を修め後父君の跡をついで當家の主となられたり君は早くより地方公共事業に參加し嘗て村會議員となり村政の樞機に參ぜられたる後これを辭し衞生組合長の職に就かれたり。偶々當志波姫村白幡伊豆野北部耕地整理組合設立の儀起るや君は自ら首稱者となりてこれが設立に盡力し後あげられて組合長に就任し爾來鋭意この事業の達成に盡力し遂にその事業の完成を見たり、この事業一を以てして君の村治に對する功績は不朽に輝くものなりと云ふ。氏の長男庄三氏は東京醫專を卒業し現在石越村に於て開業中なる少壯刀圭家なり。

前郡會議員、現村長

可野萬太郎氏

明治五年三月十日生
宮城縣登米郡南方村本郷二四四
農業

町會議員
勳七等

千葉勇三郎氏

明治十二年五月二十九日生
宮城縣栗原郡一迫町柳目
農業

君の祖父勇四郎氏は町會議員、學務委員、區長等の公職に歷任して地方公共のために盡力せられし德望家なりき。實父琢治氏は若きより農事に精勵せられ現に七十三歳地方に於ける篤農家としてその名著はる。氏は卽ちその長男にして明治三十二年徵せられて近衞步兵第一聯隊に入營し一旦歸休せられたるも偶々日露の役の起るあり豫備役として第八師團步兵第五聯隊に入隊し大隊付にて出征せられたり。戰終るや功により勳七等を賜はり軍曹に昇進せられたり。歸鄉後の君は專ら地方產業の發展に努力せられ、區長となり、農會議員となり、國勢調査委員となり、統計委員となる等各種の公職を歷任し現在は消防小頭、產業組合評議員、町會議員等の要職にあり大いにその手腕を振はれつゝあり。

村會議員、消防組頭

伊藤彦四郎氏

明治五年八月二十四日生
宮城縣登米郡南方村字中原五八
農業

當家は君を以て家系七代を數へ代々農業を以て業となし家運榮へて今日に及ぶ君は郡內北方村佐藤伊勢治氏の次男として生れ後迎へられて當家に入り先代安治氏の養嗣子となり後續いで當家の主とならる。君は早くより心を地方公共の事に致し力を專らこれに注がれ君の手腕力量又村民の認むる所なり。君は初め村消防組役員となりついで部頭に進み遂に消防組頭に推され大正二年以來引續き在任せられて今日に至る。又村會議員として任にあること引續き四期間の長きに亘り村政の大小一として君の關せざるなしその他學務委員、耕地整理組合長その他各組合評議員の職にあり、その功勳しとせず。されば大典に當りて警察部より表彰せられたるを初めとして衰彰を受けられたる事またしば〳〵なりと云ふ。

前町會議員、現區長

曾根義藏氏

慶應三年一月二十八日生
宮城縣栗原郡一迫町眞坂
農業

我が曾根家は家系連綿十數代に亙る舊家として又地方の豪農としてその名當地方に著聞す。先代喜左衞門氏は區長等地方の公職を帶びて公共の事に力を致されし名望家なりき。我が義藏氏は初め津田家に入となりしが迎へられて當家に入り先代喜右衞門氏の養嗣子となりやがて當家の主とならる君は人と成り溫厚にして篤實虛名を求めずして專ら農事に精勵せられ篤農家としてその名あらはる。君は又嘗て大正三年町會議員に推され町政の機に參ぜられたることあり、又國勢調査委員にあげられたることあり、その他檀家總代、氏子總代等の要職に任じ地方公共のため盡力せられしも今はいづれもこれを辭し只區長の職を帶ぶるのみ、家庭に三男二女、長男は家庭にあり次弟末弟共に俊才なり。

軍人分會長
勳七等

菅原文平氏

明治十二年十二月十四日生
宮城縣登米郡吉田村大字善王寺
農業

氏の先考貞眞氏は多年區長、村會議員、衞生組合長等の公職にありし地方の功勞者なりき君は卽らその長男、長じて明治三十二年弘前工兵第八大隊に入營せられ三十四年伍長に進み三十五年軍曹同七年曹長、八年特務曹長と漸次昇進せらる偶々日露の役起るや初め留守隊付とり三十八年七月樺太守備に赴きついで北韓守備隊付きなり功により勳七等を賜はり三十九年內地に凱旋せらる。鄉黨に歸せし後の君は一意地方公共のため努力せらる。卽ち四十四年在鄉軍人分會長となられてより引續き今日に至るまでその職にありて一意在鄉軍人の指導の任に當らるゝ外村農會顧問、勤儉奬勵實行委員、青年訓練所指導員、產業組合監事、自警團長等各種の要職を兼ね常に產業の開發に鄉黨子弟の誘掖に一身を捧げて努力せらるゝ篤行家なり。

町長

佐藤玉之輔氏

明治元年八月六日生
宮城縣名取郡增田町

記錄の傳ふるところに依れば當家は增田町内佐藤家より分家せられたるものにして氏を以て四代目とす。祖父及實父は相次いで味噌の釀造を以て業とせしが氏に至りて廢業せり。祖父璃藏氏は維新前の郡役所に奉職し實父俵作氏は村會議員其の他の名譽職に就いて多年盡瘁し村治に貢獻せる所大なりき。玉之輔氏は明治十九年より同町役場に奉職し地租調査に努むること多年、後に役場書記として恪勤す明治三十年初めて町會議員に當選するや私利を捨てゝ事を議し衆望を一身に聚め引き續き今日に至るまでその職に在り。明治三十一年同町長に當選一期にして職々辭せしが其の後再び推されてその職に就き以て今日に及ぶ。嘗つて町會議員參事會員たりしことあり又名取郡產壘表組合長として又產業組合理事として地方產業の發展に盡瘁せられたり。現に同町小學校の改築を劃しつゝあり。

村會議員

後藤平三郎氏

明治二十七年一月二十五日生
宮城縣栗原郡澤邊村字澤邊
米穀肥料商

方今我國中央と地方とを問はずあらゆる方面に亙りて行詰りの聲を聞くこと久し、これを打開して新しき光明を持ち來らさんには宜しく新進氣鋭なる少壯の士の活動に俟たざるべからず。我が後藤平三郎氏の如きは齡未だ不惑に達せず本村會議員中最年少者として前途を囑望せらる、將來本村の發達向上は一に君の如き新進の活動に俟つもの多く從つて君の重任又大なりと云ふべし。先考長三郎氏は郡内若柳町より來りて米精商を營み傍ら肥料商を營み又消防組頭、村會議員等の公職に在りて大いに地方公共のため努力せられたり。君はその長男にして、人となり圓轉滑脫資性溫厚しかも優秀なる手腕力量を備へ以て地方公共の要事を託するに足る卽ち本年四月擧げられて村會議員とならるその前途の多きは先きに逸べし如し。

坂田龍全師氏

仙臺市竜町
滿福寺住職

寺内安置する所の毘沙門天の功德顯著なるを以て名高き滿福寺住職として一身を捧げて佛法に仕へ地方敎化に多大の努力を致されつゝあるを吾が坂田龍全師なりとす。今當毘沙門天の略緣起を記述せんに本毘沙門像は佛工運慶の作なり龜山天皇の御宇文永年間藤原秀衡公が居城守護のため平泉に勸請せるものなり。後藤原氏の後裔により名取郡北目の城に遷座せられしが仙臺の藩祖政宗公その功德の廣大顯著なるに感歡せられて深く御信仰あり仙臺城の東荒町に遷座し奉りしものなり明治三十八年災上せし堂宇は寛延二十年忠宗公の建立にかゝる、現在に於ても「子育」「七福」「勝軍」の三德を備へ給ひ靈驗燦めてあらたかにして信仰亦極めて盛なり祭典は毎寅の日境内に力士秀の山の碑、式守伊之助の墓、谷風梶之助手植の大銀杏あり

元郡會議員

太田久四郎氏

明治十年九月四日生
宮城縣登米郡佐沼町西佐沼三二
銃砲火藥商

人格識見共に他衆の範にして宜く大衆の指導針たらざるはなし政治經濟產業社會各方面に涉り研究せられ常に進取氣分の豐かの人として何人も之を認む其の行ふ處一として私心なく宜しく公共のため念慮せらるゝを見る地方の至寶たり」(宮城商業新報所載) 右の一文よく君の全面目を盡せり。今更ら吾人禿筆をかるを要せざるなり。君は佐沼高等小學校を卒へて明治二十七年上京東京理財學校に入りついで東京簿記專修學校を修業せらる。歸來專ら心を地方自治產業の發達に注がる。卽ち郡會議員、町會議員、營業調査委員、水利組合會議員、宮城縣銃砲火藥同業組合長、日本度量衡協會宮城縣支部參事、同登米郡部會長等の要職に就かる。先年君は夫婦並びに兩親の銀婚金婚式に當り全町古稀以上の老人を招いて敬老の範を示せり。

町會議員

氏家尙一氏

慶應二年十二月二十六日生
宮城縣栗原郡一迫町眞坂
敎育家

當家氏家は家系連綿として十數代に及ぶ土地有數の舊家なり、祖先は舊眞坂城主白河家の家老なりしも明治維新後歸還したるものなりと云ふ。君はもと佐藤家に於て淵之助氏を父として呱々の聲をあげられたるも後迎へられて當家に入られたり。君は當初育英界に身を投じ鄕黨青年子弟の指導養成に當らるゝ事實に三十年間の長きに亙り多大の功勞を擧げられたりしが大正四年眞坂尋常小學校長を前後としてその職を辭し爾來專ら地方公共の爲めその力を注がれつゝあり、今君が嘗て在職し或は現にその任にある主なる公職を擧ぐれば學務委員、國勢調査委員、泉堰水利組合員、產業組合監事、統計調査委員、町會議員等なり、君人となり溫厚書畫に趣味を有せらる。長男文夫氏は早大出身の俊才嘗て同潤啓成會參事たりしも自宅靜養中

村農會副會長

島田幸之丞氏

明治二十四年八月十日生
宮城縣栗原郡清瀧村清水澤
農業

口碑の傳ふる所に依れば當家の祖は元山形の最上良光氏の下臣なりと元高島姓を冒し始祖を高島勇太夫氏と云ふ嘗ては志田郡古川町に居を構へられたりと傳ふ當主を以て第六代目なりと。君は嚴父久藏氏の男に生れ實兄良藏の後を繼ぎて當家に主たり。始め當村役場書記となり庶務係を勤務せられ在職多年親しく村政の實際に當りその功勞とその手腕力量は村民上下の認むる所從つてその信用は絶大なり。君は夙に心を地方產業の開發と村政の向上に用ひ獻身的努力をこれに捧げて終始一貫努力せられたり。卽ち本村信用組合の創立は主として君の力に依る所多く君は現にその組合長たり君はその他嘗て國勢調査委員たり。現に村農會副會長たり、家庭に四男一女あり長女ゆみ子孃は古川高女在學中なり。

村會議員

千葉三男次氏

明治三十年十月二十一日生
宮城縣登米郡石越村北鄕字檜向
農業

當家の家歷は古記錄の徵すべきものなくその詳細を明かにするを得ざるも古人より當地の舊家として豪農として聞えつゝある名家なり。先代清左衞門氏は多年村會議員、區長其他村政の要職に就きたる自治功勞者にして當年正に六十六歲村内の元老として今日尙世人の尊敬を集められつゝあり。我が清氏はその長男にして長じて笈を負ひて東都に出で早稻田大學文學部に入りて研鑽多年明治四十五年業成りて鄕に歸らるゝや河北新報縣勸業課等に入り實務に當りて研究を積まれたるも後これらを辭して商產會社經營に當られたるも經濟界の不況その時期にあらざるを察せられ今は專ら家庭にありて父君の孝養に努力せられつゝあり。君齡漸く不惑を出づるに過ぎずその他日の活動は世人の等しく注目する所なり。

當家の起源は極めて古く始祖千葉越前道胤と云ふ、後治兵衞重定の代分家せられて現在の千葉家を起さる爾來連綿として家系絶へず當主三男次氏は第十一代目にあたると云ふ。君の祖父恭三郎氏は多年村長、村會議員、收入役其他村政に於けるあらゆる公職に歷任し村治の上に多大の功ありしを以て勳七等に叙せられたる名譽の士にして村民の威明亦甚だしく名聲又從つて著しかりき、三男次氏は先考隣三郎氏の長男に生れ若くしてすでに村治に携はり衞生組合役員、農業調査員、農事奬勵委員、產業組合部長等の要職にある他嘗て軍人分會評議員たり現に村會議員として村政の樞機に參する等大いに地方公共のため力を致されつゝあり。君齡而立を越えて幾干もなしその前途や誠に洋々たるものありと云ふべし。

村會議員

阿部宗之丞氏

明治十三年十一月二十日生
宮城縣栗原郡萩野村大字藤渡

阿部家は豐臣氏の家臣の裔にして大阪落城の折此の地方に落ちのびたるものなりといふ二十代以上を算ふる舊家にして代々肝入其の他の職を勤めたる家柄なり、當主宗之丞氏は先考宗五郎氏の次男にして年二十二歳にして岩手縣巡査を首途として上京し警視廳巡査となり赤坂表町警察署に勤務星霜十年の久しきに至り精勵恪勤他の模範として仰がれたり後職を退き實業家岡信次郎氏の智遇を得て同氏の會計其の他萬端の事務を鞅當して些の違漏なかりしを以ても氏の爲人を察知し得べし、歸鄉の後村會議員として村内に乘じ又民政黨宮城支部の幹事たり、氏の愛孃きよし子氏は劍道の達人にして警視廳の師範後たる阿部規矩治氏に嫁し長男幸雄氏は未だ幼小學校に孜々勉學中の由。

村會議員

佐々木氏

明治二十四年八月七日生
宮城縣登米郡北方村字三方島
農業

佐々木家は其の祖寅藏氏の代に分家し當主にて四代目にして地方の有力なる資産家たり當主の先考鎌藏氏は篤農家を以て知られ地方産業の發達に寄與せらるゝ事甚だ大なるものあり、當主巍氏は資性溫良篤實にして地方の信望甚だ厚く人に接して和なり夙に自治公共の事に留意し産業の改善に盡瘁せらるゝは人のよく知る所たり、されば村會議員として村會の重鎭たるは素より耕地整理組合評議員、伊豆沼海岸排水改良工事監督、消防協會讃助員、若柳町外五ヶ村水利組合會議員、青年團長、自警團副長、檀徒世話係等枚擧に遑あらざる數多くの重職に就き獻身的努力を致され何れも治績の大に見るべきものあり家庭には夫人すゑえ子氏との間に三男二女あり長男修氏は佐沼中學校に研學中にして春風驗蕩頗る圓滿なり。

村會議員

千田長作氏

明治十二年六月二十八日生
宮城縣栗原郡萩野村棘野
公吏

明治十二年、維新の礎石漸く固からんとせるとき、亡父圓吉氏の長男として呱々の聲を上げらる。當家は氏を以て第四代とす。資性溫厚村民より敬愛せらるゝこと多く、氏また地方自治確立充實の外他念あることなし。明治三十二年青森歩兵第五聯隊に入營られ、日露銃火を以て相見えしときは國のため身を忘れらるゝ所あり。村役場書記として勤續せらるゝこと二十年、大正十三年三月にはその功を以て感謝狀を授けらる。その間國勢調査の施行せらるやその調査員として活動せられたることあり。衆望甚だ厚く現に推されて村會議員となり誠實の言行を以て村會に知られ、衛生組合長區長代理、農會總代として農村自治の各方面に盡瘁せらるゝ所多し。氏の誠意と着實は敬するに値するものなり。

村會議員

高橋幸七氏

明治十五年三月五日生
宮城縣登米郡新田村字山神九六
農業

記錄散逸して正確なる家系の詳細は知るに由なきも、當家は村内隨一の舊家に屬し、凡そ二百五六十年に至る。氏は畑岡村出身、瀨戸幸次郎氏の次男に生る。幼にして氣象果銳、二十一歳のとき北海道に巡査拜命、札幌警察署に在勤すること三年、歸村の後、當家高橋萬右衛門氏と養子緣組したるものにして、爾來家業たる農事に精勵せらる。家業の傍ら村治各方面に盡力せらるゝこと多く、早くより村内の消防事業、衛生事業に參せられ、誠意實行は村民より多大の信望を博し、村會議員たること今日第二期、農會顧問、統計調査委員、穴山耕地整理組合議員、山神組合會計係、佐沼町外五ヶ町村組合會議員として、主として地方團體の自治機關に關係してその發展に盡力せらるゝこと大なり。

町會議員

高橋岩藏氏

明治元年二月十七日生
福島縣安達郡二本松町
農業

氏は文字通り終始一貫全我的に消防の事に盡瘁し、消防の功勞者としてその聲名は近接町村に謳はる。生家は相當の舊家にして祖父作造氏は村内の顔役たり。氏は先考岩吉氏が次男として生を享け家督を繼承して今日に至る。氏は齡ようやく壯ならんとする頃よりして消防の事に關はり爾來今日に到るまで四十四年の多年にわたりて盡瘁し縣下に於ける有數なる永年勤續組頭たり。卽ち昭和二年永年勤續とその多大なる功績を認められ縣知事より表彰されたり。其の間又其の他より多數の表彰狀、感謝狀をうけたり。現に二本松消防協會副會長、縣消防協會役員、縣消防協會基本金造成特別委員たり。氏は又自治に留意するところふかく大正十年より町會議員として町政に參與し引續き現任血慘的努力を致しつゝあり。

信用組合長

橋本卯吉氏

明治十二年二月一日生
福島縣安達郡仁井田村
教育家

橋本家は當地の舊家にして代々農を以て業とせらる、君は先考市吉氏の次男に生れ明治三十五年本縣師範學校を出でゝ小學校教育界に身を投じ縣下本宮尋常高等小學校、白岩尋常高等小學校、上川崎尋常高等小學校、下川崎尋常小學校、二本宮尋常小學校等に訓導或は校長として教鞭をとられ、仁井田尋常小學校校長を最後として、大正十四年一旦退職せられたるも同年四日より再び教職に就き現に本宮尋常高等小學校に奉職せられつゝあり君の育英界に在る前後通算實に二十有六年、一意小國民の指導、養成に專念孜々として倦まず其の功勞又誠に大なり、嘗て本村小學校長在職當時は學務委員兒童保護者會議員、青年團長を兼ねられたり、又大正九年信用組合幹事に就任ついで理事に任じ十五年理事長に當選以て今日に及ぶ。

村會議員

石貝司氏

明治十六年十一月十三日生
福島縣安達郡戸澤村大字南戸澤
旅館（製材業、貨物運搬業）

當家は茨城縣多川郡關本の石貝家より分家したる家にして二代目なり。明治初年分家したる當時より旅館を營みたりしが、當主司氏の代となりてより大正十三年頃製材業を開始し、戸澤、太田、旭、新殿等に木材を聚めて製材せり。更に昭和二年九月より二本松、針道間の貨物運搬業を創めて、翌月には下田自働車株式會社專務取締役に就任して現在に至れり。氏の消防手となりしは明治四十一年にして大正二年には一旦退き、同八年再出馬して小頭、組頭代理等を勤め、昭和二年十月には遂に組頭に推されたり。又信用組合評議員、村會議員として村自治のことに與り、卓見を以て知らる。二男二女あり、長男は岩倉鐵道學校を出で、家にありて自勤車の事に從ひ、次男は師範學校、二孃は高等女學校在學中なり。

村會議員、學務委員

國分富治氏

明治元年七月三日生
福島縣安達郡仁井田村
字五百川五十四番地
蠶種製造業

祖先松助事當時會津城主葦名の亂伊達政宗公の家臣となり、戰後永祿五十貫文を領す。寛永年間より家系運綿として今日に至り當地方に於る舊家の尤なるものとして地方人の尊敬する所代々農を以て業とせらる君は先考石松氏の長男に生れ農業に併せて蠶種の製造販賣を以て業とせらるその製造にかゝる蠶種は品質の優良を以て聞え販路は會津、安達、安積、岩瀨四村の各郡を主として縣下各地に著く國富館製造の蠶種と云はゞ廣く養蠶家の信用する所なり。國富館とは則ち君の蠶種製造所の名なり。君は學務委員村會議員、安達郡蠶種同業組合本宮支部長等の公職を帶び、地方公共方面に對する功又尠しとせず。君は尙農事にも精勵せられ東北六縣共進會その他の共進會に蠶種繭、豆等を出品ししばしば受賞せられたり。

縣社安達太郎神社社司

高橋廣臣氏

嘉永五年五月十八日生
福島縣安達郡本宮町館ノ越九六
神職
電話二三二番

當祖は高橋廣穂氏に端を發す、今より約十代に遡るの間は家歴判然たるも中古以前は之を明かにせず。代々正六位の位階を拜授せる名門也。君は田村郡逢隈村渡部家に生る。父君直樹氏は松平大學守領内の鄕士にして深く皇漢の學に通じ高名今日に至るも尙慕はる。君は則ち渡邊家より當家に迎えられ繼ぎて當社々司たり。始め實父に就きて修學實に增子眞澄氏に師事して具に研鑽につとむ、明治七年小學師範科を卒業同時に本宮校訓導を拜命同十年迄教職に在り、十三年本村學務委員に擧けられ十八年迄在職同年本宮町書記を拜命、多年村政並に教育事業に功あり、故を以て文部省より表彰せらる、明治七年權中義。二十七年小教正以て權中教正たり。

（尙二十九年神道教師尋常極定委員拜命大正四年縣社に列せられ、現に基本金七千餘圓を有す以て君が功績を知るべし。）

君の祖父林四郎氏嚴父傳五郎氏共に極めて公共心に富み村政の功勞者として重きをなせり。則ち林四郎氏は明治初年地租改正の際次の擔當員となりついで村會の開かるゝや初期の議員に擧げられたり。父君又其の後を繼ぎ區長村會議員等自治政の要職に任じて自治政に對する功勞誠に顯著なり。君は克く父祖の資を享けてその志を繼ぎ明治四十二年始めて青年團の設置せらるゝや衆望に推されて團長となりよくその任を完うして青年團今日の隆盛の基を築かれたり。是先明治三十七年消防組に關係せられてより鋭意其改善發達に努力せられ大正六年小頭と爲り同十年組頭に擧げられ以て今日に至り、更に郡農會議員、村農會評議員等の要職にあり嘗て產米檢査員たり、此間村道改修其他の功に依り知事村當局等の表彰屢々也。

村會議員

安齋清吉氏

明治十八年一月一日生
福島縣安達郡太田村大字上太田
農業

村政發展のために粉骨碎身する氏が、未だ春秋に富むは太田村のために幸ひなることゝ云ふべし。而して村治のこと氏に囑して俟つべきもの多し矣。當家は代々農を營みて今に至る五代、先々代は村會議員、地租改正委員、區長等として永く盡力したる人にして、當主清吉氏は前には區會議員信用購買組合向小田組長、青年團支部長となり、今は村會議員、農事實行組合長、統計委員、村農會議員、太田郡養蠶組合小田支部組合長、小田厚誼會（青年團の別名）總理等々、行くとして可ならざるなく果斷よく事務を處理して令名あり。よく村政上の事項に通達す。かくの如き人材を有することは村のため喜ぶべきことゝす。氏に二男四女あれども長男清三君は未だ幼にして小學校在學中なるは物足らざる心地す。

信用組合長

齊藤濱吉氏

萬延元年二月二日生
福島縣安達郡下川崎村
農業

氏は嘗て永年戶長とし名聲高く亦明治九年地租改正當時は改正委員として功績偉大なりし齊藤治郎吉氏の長男に生る。抑も當家は地方の舊家にして約十數代を經たる家系を有して、代々農業を正業として今日に至る。氏は年齡少くして既に一村自治の中堅となり村會議員、助役として畏敬すべき功勞あり。又消防組の改良發達に就きて心肝を碎くこと久しくして徳望愈々高く學務委員、社寺總代等に重任して高邁なる識見を以つて堂々の論をなし實に數多議員中に特異の彩として輝けり。現に信用組合長として畢世の努力を爲しつゝあり。又大安生命保險株式會社の代理店として業蹟多し。故ませ子夫人との間に三男七女あり。長男覺左衞門氏父君に似て賢明の譽れ高し。

消防組頭

安田林太郎氏

明治十八年二月八日生
福島縣安達郡大山村大字大江
農業

村長、村農會長

野内彦藏氏

明治十年三月一日生
福島縣安達郡玉井村五里田
農業

世に適材適所なる語あり凡そ何事にもあれ適材を得ずんば結果は良好たるを得ざる可し、當玉井村に氏あるは亦適材適處にありと云ふ可く、氏の如き名村長を得て始めて玉井村の前途は洋々たり。祝福す可し。氏の生家は隣村嶽下村なる菅野家にして氏は先考彦兵衞氏の男なり、後迎へられて野内家を襲ひ彦吉氏の養嗣子となる。齡將に壯ならんとして偶々日露の役あり、氏徵されて之に加はり剛邁不屈の資を以て屢々大功を樹て、功を以て勳七等に叙せらる。役後家庭に在りて專ら村治に意を致し天賦の鋭才を發して快腕を振ひ貢献みる可きもの多く、嘗て梨澤村、上川澤村に助役たる外、大正八年四月より當村助役として就任し着、々實蹟を擧げ、大正十五年四月村長に推され現に同職にあり。

町會議員

川名辰吉氏

明治十三年四月二十七日生
福島縣安達郡本宮町字小幡八七
農業

資性温厚にして謹直然も仁慈博愛の美德に富み、人格又從つて高潔にして頭腦明晰、英智眉間に現れて自ら襟を正しむるものあり、而して氏一度事に當るや熱心にて、忠實萬難を排して初志を貫くの慨あり、加ふるに謙讓よく人に接して尠の城壁を設けず、赤裸々にして不安を抱かしむるが如きを見るなき稀に見る人物なり、氏の家柄は町内有數の舊家にして代々農を正業とす、氏は川名傳吾氏の長男に生れ一家を繼承するに至れり、氏長ずるに及て町の區長十ケ年、本宮報德社理事並に、信用組合理事現職等を兼ねて現町會議員の要職を帶び、町及公共の爲め貢献的の努力を致し町民一般の信賴は日々增せりと云ふ。一家は四男二女にてし長男兵役除隊青年團の役員を勤め、二男は軍隊入營、三男本年壯丁に合格す。

村會議員

六角太次右工門氏

明治十五年八月十三日生
福島縣安達郡高川村字檜川
農蠶業

地方の名門に生を享くると雖も安閑如たらず、夙に自主獨力の氣魄を以つて克く今日の名價を贏ち得たる、我六角氏は洵に名實共に備はれる理想的公人たり。生れし家は當部落創始の偉勳にして、代々地頭として知られ歷世地方自治の爲盡瘁せられ連綿十八代の久しきに及ぶ。氏は先代丑太郎氏の長男にして天資倣直にして敢斷進取潑剌の氣象に富みよく宗祖の業を治め尙十餘年前より蠶種製造業を開始し、當地方は勿論遠く關東地方迄其の販路を占む。更に一村發展の爲に留意し、村會議員、學務委員、郡農會副代議員、蠶種同業組合代議員村農會評議員等に選れ更に消防組頭として五年、又社會的事業等に盡瘁せる處擧て數ふべからず、本年四月自治多年の功勞に依り縣知事よりの表彰を受けたる等以て因由する處深きを知る。

村長、村農會長

菅野一郎氏

明治十一年二月十九日生
福島縣安達郡上川崎村上川崎
農業

當家は土地の舊家にして代々名主を勤め、舊幕時代には苗字帶刀御免の家柄なり、中祖十一代目先代正夫氏は嘗つて戶長、時の御用掛りとなり、又町村制實施に際しては其の第一次の村長として令名を馳騙せられたり。殊に氏の德望高きことは近鄕民知らざるを得ざる處なり、當主たる一郎氏は卽ち其の長男に生れ亡父の後を繼承して家督を相續す。又父君に劣らざる人德そなはりて衆庶の輿望を荷ひ、土地の信用組合長を振り出しに村會議員、農會長となり、產業の興隆自治の達成に赤心を批歷し、東奔西走席温まる事なく、一寸の光陰輕んずべからずと、一意奉公の至直を傾けて村治に努力せられ、遂に村民一致の推擧を承けて村長に就き、恪勤一段の業蹟を見せ一般民の信賴更に厚く、當村唯一の材器として畏敬せらる。

村會議員、消防組頭

三津間兵兵衛氏

明治十二年三月六日生
福島縣安達郡大平村字日出田
農

當日出田村に三津間姓を名乗る者多し當家は卽ちその宗家にして舊くより當地に於て農を生業として產を治め、代々名望家たり、先代は不幸早生せしが、亡祖父久左衞門氏は舊幕時代當村治政の事に關係して功勞多かりしことは、今尙村內に於て人々に膾炙する所なり、當主は父君早生後の祖家を承けて勤勉よく家業を盛ならしめ、現在に於ては當村有數の家たるに至れり又氏の才德の勝れたる、村民の等しく信望する所となり、前には寺社總代或は區長たること二期、消防方面には明治三十年頃より關係して大正十四年には遂にその組頭となり、之より先大正六年より引續き村會議員に當選して村政の重鎭たり、尙又青年團顧問として活動す、氏に三男あり、長子久市氏は家にありて農業を營む。

消防組頭

渡邊長之介氏

明治七年七月二十五日生
福島縣安達郡石井村
農業

資性謹直にして篤實剛毅なるが如きも謙讓克く諸事に通じ、如何なる難事と雖も之を解決せしむるの手腕あり、加ふに慈善公共の心厚きものあり、村民の信賴頓に盛大なると共に名望財產とも兼有す、氏は明治七年七月二十五日を以て當村に呱々の聲を擧ぐ、氏の家柄は郡內草分の舊家にして代々農を正業とせり、亡父渡邊有實氏は村會議員、學務委員等の要職にあり村の爲め、又教育界の爲め公共の爲めに盡瘁され、村の功勞者として村民より尊敬受けたりと云ふ、氏長男に生れ亡父の後を繼承せり、氏は長ずるに及び當村の消防組に入り消防手より小頭となり氏の公共の爲め、村の爲めに努力されること村民の認むる所以となる消防組頭に推擧せられ益々努力され地方民の信賴頓に增せりと云ふ。

前村長

影山治郎八氏

文久元年五月一日生
福島縣安達郡和木澤村
農業

當家の祖先は大阪落城の砌り影山宗武が當地に落延來りて土着し、爾來農を開拓なし、其間數百年來連綿としたる、村內草分の舊家なり、故影山庄左衞門氏の、長男次郎八氏は明治二十六年中居村小學校教員を拜命、翌年影山塾を聞きて師弟に漢學の儒を授く、爾來消防組頭村社會計岩角山會計に推され、明治三十七年同村々會議員に當選同年七月遂に村民の推望に依り村長となり、役場新築の功勞に依り主管より金一封を賜る、氏は其他村內の要職にありて盡瘁され、村郡、縣より數回に亘り記念品及賞狀を授く氏が今日迄で公職にありて村治の爲め、公共の爲め又社會人道の爲めに貢献的に努力せられ、其功尠からず村の功勞者として、一般民の信賴日に增して厚し。因みに當村會議員は二十ケ年に亘り歷任して現在に及ぶ。

在鄕軍人分會長
勳八等

佐藤源三郎氏

明治二十一年十一月二十三日生
福島縣安達郡和木澤村大字和田字平茂內九五番地
農業

當家は村內草分の舊家にして當祖始めて此地に移住し來りて以來、農を以て正業と爲す。氏は嚴父佐藤常藏氏の三男にして長兄死亡の爲め、一家を相續せり、氏は部落の爲に相當盡瘁の士として村民の信望厚かりしと云ふ。當主源三郎氏は鄕校を卒業後本宮高等小學校卒業。明治四十一年現役兵として若松步兵六十五聯隊に入營、再役して大正十二年迄で在營特務曹長迄昇進せり。大正十二年退官歸省後直に本村在鄕軍人會に分會長として就任引續き今日に及べり、氏が今日迄會の爲め村民の爲め公共の爲め又邦國の爲めに盡瘁せられたること其の功多大にして、村民の信賴は日に增せりと云ふ。尙現職、青年訓練所長、郡聯合分會評議員として努力せられつゝあり、一家は二男三女にして家庭頗る圓滿なり。

村會議員

加藤留吉氏

明治十年九月十四日生
福島縣安達郡太田村字下太田
農業

加藤家は其創立以來今に至る四代にして代々農業を營めり。亡祖父重左衞門氏は德望手腕共に勝れたる人にして、在世中は山林管理人として命名あり き。當主留吉氏は亡父重右衞門氏の後を承けて大正五年家督を嗣ぎてより以來家業に勉勵して治むる一方に村自治の事にも盡瘁し衆望を聚む。前には區長たり、檀家總代たり、又太田村信用組合若宮分會長たり。消防組に關係することに至つては實に二十年有餘年にも及び、當局より模範消防手として表彰さるゝこと兩三度なり。その人格と才とは次第に上下の認むる所となり、大正十四年には遂に村會議員に當選するに至りて、村治上缺くべからざる人物なり。氏に三男あり、長男重作氏は家にありて農業に精勵する傍ら消防手たり。

信用組合長

菅野光氏

明治十七年三月十日生
福島縣安達郡白岩村字長屋
農業

當家の祖先は遠く豐臣の家臣にして、菅野對島守と稱し大阪落城後當地に下降して土着爾來農を以て今日に至り、氏を以て十三代目連綿としたる、地方稀に見る最たる舊家にして、舊幕時代名主等を勤めたる家柄なりと云ふ。故親歌之助氏は若年にして、歿せられたるに依り村治關係せず消防組頭を初め、公共の爲めに盡瘁され士にして、村民の信望厚かりしと云ふ氏は當村助役となり當時村長代理を務め又同志會長、青年團長、消防小頭組頭信用組合長、收入役郡農會代議員、養蠶組合長、氏子總代等、を經て現神社總代、農會總代等を務め、地方自治の爲め、農村振興、產業の發展公共、又社會人道の爲に盡瘁され其の功績尠からず、村民一般より地方き れなる人格者として敬表せられり。

町會議員

三浦倉治郎氏

明治二十四年十一月十九日生
福島縣安達郡本宮町
農業

三浦家は代々農業を主として榮えたる家にして先代三浦清次氏は明治初年の地租整理當時、直接その事に當つて盡したる所多く、町會議員消防組頭たること多年町治上の功勞多し。氏はその長男として家をつぎたるなり。初め安積中學校に入り、轉じて帝都の早稻田實業學校に入りて之を卒業せり。町に歸りてより次第に重きをなし、今は若手中の錚々たる人物なり。卽ち前に國勢調査の行はるゝや前後二回その委員たり、今は町會議員たるをはじめとして、義勇消防組の部長、町農會實行組合顧問、同窓會長等として次第にその頭角を現はせり。尙氏は料亭清月を經營し、本宮町一流の名ありて隆盛を極めつゝあり。內助の功多き淸子夫人と琴瑟よく和し一男二女あり、兩女共に目下高女在學の才縷なり。

前村長

中川朝治氏

文久元年三月二十三日生
福島縣安達郡本宮町字中保八十四番地
農業

當家は當主迄で五代目にして祖先は越後より當地に移住して代々農を正業となす、傍ら養蠶を營み現在の富を得たりと云ふ。故中川卯平治氏の六男故親父寅治は本宮町にて自治に盡瘁せられたる士と云ふ。當主朝治氏は本村に寄留して、明治十五年より開墾事業をなして、當地の開拓者として農業方面に努力され、明治二十二年町村制施行と同時に村會議員、引續き今日に及べり、前村長として數回就任なし、村政自治に農村の改善等に努力され其の功績甚大にして村の元老として尊敬されつゝあり。長男間治氏は明治十五年一月生れ安積郡中學校卒業、近衞步兵第三聯隊に入營、現在は消防役員として、盡瘁中、父が補佐として家庭にあり、又二男宇平治氏は中學を出て現任は一年志願兵として現在步兵中尉任官せられたり。

在郷軍人會長、消防組頭

國分惣治氏

明治二十四年生
福島縣安達郡荒井村
農業

當家は村内有數の舊家にして代々農を正業とせり、故惣右衛門氏故龜吉氏共に村内の精農家として村民の信頼厚かりしと云ふ。氏は長男にして土地の學校出身爾來父を補佐して家政に就き消防手より役員を經て現在は組頭として盡瘁中、二十一歳にして若松歩兵第六十五聯隊入營退營後は分會役員を經て、現在分會長として就任し、村の爲め公共の爲め又社會人道の爲及國家の爲に貢献的に盡瘁努力され、其の功偉大、即ち村民一般より敬表され尚將來を囑望されつゝあり、現分會長、消防組頭任務中にして、消防組方面より數回に亘り表彰せられる、氏の如き人物は當地方に稀に見る人格者なり、氏の一家はダヲ子夫人との間に四男三女にして、家庭は至極圓滿なりと云ふ。

在郷軍人分會長

齋藤丑藏氏

明治二十二年四月十日生
福島縣安達郡油井村
農業

氏は安達郡嶽下村の産菊地藤太郎氏が三男として生を享けたり。藤太郎氏は嶽下村前村會議員として村政に參與し夙に近接町村に於て令名を謳はる。丑彦氏後に齋藤家に入りて家督を繼承す。齋藤家は當油井村に於て數代を閲せる舊家にして代々農を以つて業とせり。氏は資性温厚篤實にして清廉潔白而も亦剛毅鋭鋒あり。夙に自治公共の事に意を致し稗献するところ多し。即ち養蠶組合分區長、水利セキ長として勤業方面に活躍するの外在郷軍人分會長、消防第二部長、寺院總代等の要職にあり。尚區長として自治に參與せしこともありたり。かくて齋藤丑彦氏の名は近隣に聞へその德望はひろく衆庶の景仰するところとなりたり。尚家庭には令閨みを子氏との間に二男四女あり。春風駘蕩として和合せり。

五五〇

消防組頭、前分會長

喜古林氏

明治二十二年十二月二十七日生
福島縣安達郡上川崎村字久木道
農業

喜古家は當地方に於いて相當の舊家にして近隣なる喜古家の總本家たり。代々農業を生業として榮えて德望あり、オサ百姓として聞えたり。先考喜古勝尾氏は村會議員として多年の間村治に盡し、その他氏子總代、檀家總代として人望高き人なりき。喜古林氏はその長男として祖家を繼ぎ、若手の中堅として村内にその將來を囑望さる。青年のとき盛岡騎兵第二十三聯隊に入營し、在營中は成績優秀にして伍長となりて除隊せり。歸郷するや青年會の幹事となり、在郷軍人分會に於てはその分會長たり、國勢調査の行はるゝやその調査員となりて活動し、現在は消防組頭に推されて既に六ケ年、外に社寺總代その他の公職にありて將來なすあるの人材なり。尚ほ氏には一男二女ありて平和なる家庭生活を營む。

分會長、消防小頭

武藤利吉氏

明治二十六年六月二十四日生
福島縣安達郡木幡村大字内木幡字立石三番地
農業

氏の嚴父丑吉氏は同村必須缺くべからざる人物にして、村民の信頼篤く、夙に村長の重職に推薦せられ歴任大正九年十二月より大正十三年七月に到り、其の間同村の發展維持の爲め幾多の貢献ありしが、利吉氏又父の志を繼承し以て愛村、村政振興の念に萠え同村の發展上多々貢献しつゝあり。父は長く村會議員助役の任に在りたる事あり。家は代々農業に勤め氏に到る間四代を經たり。氏は大正二年近衛第四聯隊に服務したりし事ありしが除隊後直ちに推されて分會員となり、その間評議員副分會長の職にあり又消防組公設せらるゝと共に同消防組小頭に就職し、又昭和三年四月分會長となり現在に及べり。氏は一男五女の愛兒に恵まれ長男利三郎君未だ幼くして小學校に通ひ、家門の榮光更に見るべきあり。

村會議員

齋藤馨氏

明治十九年一月三十日生
福島縣安達郡太田村大字下太田
荒物雜貨商

當家は先代精吾氏の時太田村の名家齋藤家より分れて新たに樹てたる家にして、宗家は代々英才を出し齋藤常之介氏即ち馨氏の伯父は永く村會議員として村政上に功ありし人なり。精吾氏は分家して宗家の代々農を業としたりしとは別に荒物雜貨商を營み、別に繭生絲商をもなし、勤勉以て產を治めよく子孫のために美田を遺したり。又消防方面には永く關係し小頭に昇進したりき。然るに不幸早生し當主十四歳にして家を嗣ぐ。氏は實に宗家及び先代を辱しめざるの人物にして、次第に頭角を現はし、前に養蠶同業組合若宮分區長となり、國勢調査にはその委員となり、今は區長に推され、遂に村會議員に擧げられて村治の重要人物なり。氏は三男五女の子福長者にして長男英一氏をして本宮町の商店に勤めしむ。

町會議員、(二本松電氣株式會社監査役)

鈴木九兵衛氏

明治十四年一月十六日生
福島縣安達郡二本松町
字根崎一ノ八十一番地
呉服太物商
電話一六二番

二本松町は此の地方に於ける中心地にして近隣に農村を控へ、是等農村の需要への供給地として繁榮せる町なり。當鈴木九兵衛氏の經營たる呉服太物商の益々盛大に赴く所以なり。氏の商店の販路は町内と云はんよりもむしろ廣く近村相手のものにして、その故に常に商賈の實質優良なるものを選びて之に備へ次第に信用を高め店頭常に客足絶えず、その繁昌すること町内屈指の商店なり。之れ一に氏の商業精神を高く持する手腕によるものなり、氏は内にありて家職に精勵し其點に於て信望を高むるのみならず、町會議員に擧げられて町政に參與し、その識見、その手腕共に町民間に令名ありて、當町々政上動かすべからざるの人物として自他共に許す。

町會議員

鳴原大太郎氏

明治十八年七月二日生
福島縣安達郡本宮町
字大町一番地
農業
電話本宮二六番

當家は土地屈指の舊家にして德川幕府時代は太名の本陣に當てられ荷物問屋を盛に營ぎ、祖父與惣右衛門氏は明治五年既に郵便取扱所々長、及戸長に任ぜられたる、本町最初の郵便局長初代の戸長たり、先代大三郎氏は其の後を繼ぎて郵便局長と爲り、在職二十有七年正七位勳七等に除せられ町議其他自治の功勞尠からず、當主又英邁の資を承けて局長たる數年本邦通信事業に貢献せる處頗る甚大なりしが家事の都合に依り退職す、當家又嘗つて明治九年明治天皇奥羽地方御巡幸の砌御休所拜命、同十四年山形秋田北海道御巡幸同年十月御還幸の節御行在所に當てられたる榮譽あり。

遺般の昭和大典に際し工費二千餘圓を以つて右記念の石碑を建立す、氏現に町議を始め繭市場總代、農會總代、養蠶組合副支部長として盡瘁し、名家中興の偉勳として光彩を放ち、家庭に三男一女を儲く。

消防組頭

齋藤市佐氏

明治十九年四月二十六日生
福島縣安達郡鹽澤村字駄子内
園藝果樹栽培

當家は最近三代打續き何れも英才揃從て村政に大功あり。即ち祖父市左衛門氏は町村制施行と同時に村治に參與し、村會議員その他の公職によりて盡す所多く、明治三十四年村長に推され引續き二期間同職にありて多くの業績を殘し、殊に日露戰役當時村長としての功により勳七等に叙せられ、又本秋の大典を期してその碑を本村に建つといふ。先代助七氏亦村會議員區長、郡會議員、收入役等として令名あり、今尚園藝として健在園藝を經營して梨桃等は各地に販路を有す。市佐氏亦早くよりその才を以て知られ明治三十八年消防組に入りてより、小頭、副組頭を經て大正十四年組頭に擧げられたり。前には青年團長たりしこともあり。あさ子夫人との間に五男を儲け、長子は農學校を出で蠶業專修科を卒ふ。

五五一

在郷軍人分會長
勲七等

土屋寅治氏

明治十一年六月十八日生
福島縣安達郡針道村字堤崎
農業

意氣あり、才ある者は何れの所に身を置くも必ずその業蹟を著すものにして、土屋氏の曩に軍籍にありて特務曹長の地位に昇り、歸りて村に在るや村會議員、軍人分會長として十目の視るところその傑才たるを失はざるもの、亦かくの如き人物と云ふべし。氏は軍隊にある事多年その間日露戰爭には第二軍に從ひて出征し功あり、大正六年除隊して翌年は軍人分會長に推され、昭和元年會長に擧げらる。當分會員は一四〇人、資金一〇〇圓にして氏はよくその長としての信望を全うす。又前には消防組に關係しその組頭として活動せし事もあり き。今は外に青年訓練所指導員となり、大正十四年以來は村會議員として村政の中堅たり。氏は亦子弟の教育に熱心にして三男四女何れにもよき教育を受けしめんとす。

有限責任荒井信用購買組合長

遠藤治兵衛氏

明治六年九月八日生
福島縣安達郡荒井村字荒町五二
農業

當家は村内草分の舊家にして代々農を正業となす、故治兵氏は當村々長に推されたる事六度其他郡會議員、村内要職は總て經て郡の爲め、地方自治の爲め、農業の爲め商工業の爲め、公共又社會人道の爲めに盡され其の功績尠からず、村民一般より村内隨一の功勞者として、最も信頼厚かりしと云ふ。當家は代々治兵衛を襲名せり當主治兵衛は亡父の後を繼承し、長ずるに及び本村の信用組合長に推され、學務委員に現在任務中なるも氏就任以來村民の爲め又教育界の爲めに貢献的に努力を致され其の功尠からず村民一般より氏をして本村の人物として、信頼は勿論、表彰せられたりといふ。氏の趣味は讀書にある博學の才子たり。一家は英敏なる氏の指導に依りて又至極圓滿なり。

收入役、消防組頭
勲七等
功七級

國分勝治氏

明治七年一月二十八日生
福島縣安達郡和木澤村
大字糠澤字岩崎

當家は昔より和木津村に重きをなせる家柄にして當主勝治氏その後を承けて、村政上缺くべからざるの人物なり、事に當りては熱心、實直なる人格は村民の等しく信服する所たり、氏は青年にして明治二十七八年戰役に出征し、勲八等を授けらる、更に同三十七八年戰役に再び出征して兩度赫々たる勲功あり、勲七等功七級を授けられたりき、凱旋して村に歸るや村民の信望によりて區會議員となり、更に消防組小頭となり、進んで組頭に擧げられて現在に至れり、又收入役として永年の間勤務し上下の信托を一身に負ふ、氏の息等三人共に兵役に從ひ、成績優良にして實に父君の勲功を辱めざる前途有爲の青年なり、唯惜らむべきは次子が近衛兵に拔擢せられて入營したりしが、勤務半ばにして他界せしことなり。

消防組頭

菅野新藏氏

明治十七年四月十日生
福島縣安達郡澁川村字二本柳
農業

新藏氏は信夫郡水原村の產加藤利平治氏が次男として生を享けたり。利平次氏は村長、村農會長其他の村自治に多年盡瘁されたり。氏後菅野家に養子として入籍したり。菅野家は元祿年間より家系連綿たる舊家にして代々農を業とせり。先代菅野藤八氏は村會議員とし現在に到るまで多年參與盡瘁せり。又現に福島公共病院議員たり。新藏氏は農業の傍ら消防に參與し前後通算二十數年間これに在職し裨献する處尠からず。現に消防組頭たり。又火災警防組合長としても多年盡瘁されたり。又東洋生命保險株式會社代理、富岡徵兵保險會社事務取扱所を營まれこれが隆盛に專ら努力を傾けつゝあり。家庭には令閨ひろ子氏との間に一男四女あり。長女は東京女子美術學校に長男は安積中學校に各在學せらる。

村會議員

菅田金兵衛氏

明治十六年十一月二十五日生
福島縣安達郡岩根村大字岩根
農業

氏は獨力獨行事にあたりては不撓不屈の精神を以つて一貫し、克く今日の名譽と地位をかち得たる、かくれたる立志傳中の人たり、氏の生家は當岩根村に於て數代を閑せる家柄にして代々農業を營む。先考金太郎氏は村會議員、學務委員其他の自治制下の要職にありて、多年公共の事に盡瘁して夙に其の德望を謳はれたり。氏は卽ち金太郎氏が嫡男として生を享け、長ずるに及び家督を繼承して今日に到る。氏は消防手より小頭更に副組頭を經て組頭として今日任にあり。在職期間實に十五年の長きにわたりて功績又尠からず。氏は又村會議員として四期間、水利組合會議員四期間加ふるに前村農會總代在郷軍人名譽會員として、自治の爲め日夜寢食を省りみず只管之れに盡瘁す。家庭には令閨きん子氏との間に四男六女を擧ぐ。

村會議員

三浦良直氏

明治二十二年十一月二十九日生
福島縣安達郡新殿村大字西新殿
農業

先考與七氏は村治上の功勞者にして、其德望ありしことは今尙ほ村民の記憶に新たなる所なり、明治九年頃地租改正の行はれし時、其擔當委員として活動し、町村制の施行せらるゝや、更に村會議員に擧げられてより以來數次その職につき、大正五年より同八年までは村長として盡瘁する所多かりき。當主良直氏は亦父志を繼ぐるに足る材にして、幼より頴悟青年にして近衞第四聯隊に入り、村に歸るや次第にその頭角を顯はし、青年團副團長となり、信用購買組合理事には大正十四年より引き續き就職せり。又同年村會議員に推されて村政に參與するに至れり。氏年未だ不惑、その才を以て業績の赫々たるものを殘さんこと、將來に囑目して待つべききり。氏はまた一男五女の子福長者にして長男未だ幼なり。

村會議員、軍人分會長
正八位

大内正齋氏

明治二十八年七月二十六日生
福島縣安達郡石井村
酒造業

當家は古く代々釀造を業とせしも中頃一時これを廢せり、父君先代正齊氏再びこれを興して酒造業を始め以て今日に及ぶ。その釀造にかゝる銘酒中庸兩優は品質優良風味又芳醇その名四隣に著聞す、先考正齊氏は村長の職に就くこと前後再度、その在職中日露役の起るあり、則ち內治功勞者として勳八等に叙せらる、君は青年時代一年志願兵として兵役に就き少尉に任官正八位に叙せられて郷に歸る。克く父君の資を享けて、その手腕力量衆に秀で現に村會議員軍人會分會長の要職にあり。村內における年少有爲の人物としてその將來は村民上下の擧げて囑望する所たり。君は又鑛山事業に興味を有し目下その方面に活動しつゝあり、君の令閨又賢夫人としてその名地方に著はる君の前途や誠に洋々たるものあるべし。

村會議員

佐久間喜多治氏

明治二十年十月二十五日生
福島縣安達郡太田村大字上太田字中應巢四五
農業

當家は舊家にして、當地に於て佐久間姓を名乘る家の總本家なり代々名望高く、亡祖父一老氏(舊名喜多右衞門)は塾を開き子弟教育に盡し令名あり、先代喜一氏は亦稀に見るの傑材にして、村會議員、學務委員、區長、村社總代として功多く郡會議員に擧げらるゝ事二期なりしが、不幸にしてその在職中に永逝せり。當主喜多治氏亦嗣ぎて才能格式並び備はり衆望高く、前後二回の國勢調査委員養蠶組合長、郷社惣代上太田小學校同窓會長、在郷軍人分會の名譽會員等として次第に村內に重きをなし、大正十四年には村會議員に擧げらるゝに至れり、氏未だ年漸く不惑を超えたるのみにして春秋に富み、その業蹟を示すは一にかゝつて今後に在りと云ふべし。氏は一男七女の子福長者、喜壯君は未だ幼なり。

前縣會議員
前村長（現郵便局長）
勳七等

玉應平治郎氏

慶應元年十二月十一日生
福島縣安達郡玉井村
篤農（官吏）

當家は本村及び近郷に於ける名家にして殊に當主平治郎氏は慶應生れの高齢者、昭和御大典に際しては畏れ多くも畏き邊りより賜盃の榮に浴したる一家の繁榮と相待つて實に目出度き限りといふべし。氏は名譽職として縣會議員村會議員を勤續し鋭意自治の開發に精進し其功績赫々として見るべきものあり。殊に氏村長として勤務中時恰も日露の戰役勃發したりしが氏は經濟戰線の第一線に立ちて村民を鼓舞激勵しよく國民皆兵の實を擧げ特に勳八等に叙せらる。又氏は郵便局長として勤續二十ケ年に及び昨年四月勳七等に叙せらる。テツ子夫人との間に四男三女ありて何れも總明の聞え高く、長男二次雄氏は現助役就任三男二三雄君は慶應大學理財科在學、又四男勝人君は師範卒業現在大山小學校に教鞭を執らる。

村長代理助役（村農會長）

松本末吉氏

元治元年十二月二十五日生
福島縣安達郡岩根村
農業

氏は土地の舊家なる國分忠吉氏の三男として生を享け、長ずに及び松本庄八氏の養子として同家を繼ぎし人なり。氏は重厚なる資質と明晰なる頭腦の所有者にして、夙に地方自治の使命を理解し、之が發達に努力すること衆に絶す。村民の輿望を擔ひ消防世話係、學務委員の重職に推さること、實に明治二十六年より連綿今日に及び、更に村會議員とし立つ事明治二十八年より引續今日に至る。其間の功績は枚擧に遑なく、現に二期の助役として亦昭和二年より村長代理として寧日なき努力を爲し、衆庶の信望頗る藉甚たり。氏は亦村農會長の煩務に盡瘁し、其の功績は官民等しく之を認めて感謝するところ、さればこそ多年村に功勞ありしの故を以て縣、郡、村より表彰及び記念品を授けられし事一再ならず。

前村長

安齋新八氏

嘉永三年十月十日生
福島縣安達郡新殿村大字西新殿
篤農　地主

新殿村村政の元老たる安齋氏が、村内の公方面に關係したるは明治四年にして、爾來四十有餘年間村治に盡せり。曾に村政上の元老たるのみならず縣郡政治に於ても亦大先輩たり。當家は畠山高國の臣安齋八郎左衛門が家を起てより十五代、代々名主の家柄にして苗字帶刀を許され、當主新八氏亦町村制施行以前は戸長として村政の牛耳をとり、町村制の布かるゝや初代の村長に推され、後幾回となく村長となり貢献する處頗る多し。又明治十五年初めて縣會議員に當選し爾來大正三年の選擧まで前後五回當選し、大正四年には縣參事會員に擧げられたりき。郡會議員には明治三十五年初めて當選し、後出づること五回、その間議長となり參事會員となり、手腕識見を以て聞え、自治上の大功勞者なり。

村長（村會議員）

國分源次氏

慶應三年十月九日生
福島縣安達郡大平村大字谷和子
農業

國分家は當地有數の資産家にして代々農を以つて正業となせる舊家なり。氏の先考を源藏氏となす氏は卽ちその長男たり。先考源藏氏は多年村會議員として村會の議席を占め村政に參與して村治の功績甚大なるものありしと云ふ。氏は資性謹直にして謹嚴、清廉にし潔白、世俗に超越して公平無私、常に節々匪窮の誠を致して村治に盡瘁し、著々として實績を收めたり。されば明治四十五年推されて收入役と爲り孜々として職に任じ寸刻たりとも偷安逸を許さず、益々衆庶の信任を得たり。後村會議員に推されて議席に在ること三期、その間亦郡會議員として郡政に參與せしも、郡制廢止さるゝに及びて止む。大正十五年五月村會一致を以つて村長の重位に推擧し爾來同職に在り更に村治に貢献しつゝあり。

村長

佐原熊吉氏

明治八年二月五日生
福島縣安達郡大山村大字
大江字新座二十二番地
農業

當家は郡内草分の舊家にして、數代前の士は郡代を務め、村民の信望頗る厚く、又六十七代目の嚴父吉太郎氏は村議を務める事久しきに亘り、村の改善に努力し村民より深く敬慕せられる、氏は八十二歳の高齢にて長男當熊吉氏是を繼承す、氏は明治四十一年より大正三年二月迄役場の書記として在任、氏は溫厚篤實にして父に勝れる人格者なり、又氏が書記辭職後は農會議員、農會長、郡農會議員、米穀同業代議員、村會議員に推さること二回あり、而も今日迄氏の誠實なる事多衆の認める所に依り、昭和三年五月村長に擧げられ現任中、氏の抱負は農産業、商工業、其他土地の繁榮村の改善にありて鄕黨國家の爲めに献身的に努力せられつゝあり、氏の家庭は三男四女にて何れも在學中、趣味は茶花にして造詣深し。

青田村々長

伊藤彦太郎氏

文久三年七月十二日生
福島縣安達郡青田村大字庄内
農業

氏は青田村々治の大恩人にして早くより意を深く自治公共の事に致して業蹟頗るみるべきものあり。氏は青田村の產にして先考彦右衛門氏の息たりしも氏の幼時彦右衛門氏長逝し後伊藤家に入りて家督を繼承して今日に到る。伊藤家は代々農を營み、豪農として夙に近隣に聞へ高し。氏は自治界稀に見る人格者にして、從つて村内の信望頓に厚く、明治三十四年四月收入役の椅子に就き翌年退職し、つゞいて三十七年村會議員に選ばれ村政に參與して多大の才腕をふるいたり。其の後四十二年三月村治疲弊に際して全村擧げて氏の快腕と人格を期待し卽ち推され村長の榮職をかち得たり。後大正五年より七年まで再選せられ、又大正十五年再三選ばれて其の職にあり。目下高等小學校新設の計畫中也。

町會議員

菅野伊之助氏

文久三年八月二十七日生
福島縣安達郡小濱町大字下長折

菅野家は代々農業を以て樹ち、先代新助氏の如きは精農家として終始したる人にして、勤勉實直以て家の繁榮を致し磐石の固きに置きたりき、而して此の家は祖父新吉氏が舊幕時代御作事大工として時の藩主に事へ、その手腕と人物との勝れたるによりて藩主の信任を得、その別邸たりしを拜領したるものなり、之を榮譽として今尙ほ菅野家は此家に住めり、當主伊之助氏は先代新助氏に望まれて當家に入り、少壯よりして勤勉よく產を治め人格圓滿にして衆の信を得、村社諏訪神社の氏子總代、消防組等多年關係して功勞多く又小濱尋高增築委員、同十五年警部補派出增築係、昭和二年小濱尋高講堂新築委員として今尙饗鍬たるあり、議員として町政に與ること二期町民の深く敬慕する所なり。

村長

遠藤林太氏

明治八年七月十七日生
福島縣安達郡荒井村大
字荒井七十三番地

祖家は當地に於て數代を閲せる土地有數の舊家にして、代々農を正業とし祖父の代迄五代の間名主地代の組頭を勤められて名あり、氏は嚴父良藏氏の長男として生れ家督を繼承して今日に至る、先考良藏氏は助役を四期に亙り又村會議員を勤め村政に參與せられたり。氏は幼にして頗る頴脫資性溫直にして潤達敦行にして鋭鋒あり、長ずるに及びて一意社會公共自治の事に力を致し、東奔西走努めて寢食を忘れしと云ふ、卽ち多大の衆望を荷ひて大正十五年七月二十五日村長に推されて歷任して現在に及ぶ、氏は亦古くより村會議員たり、其間助役に推され收入役を兼任したり、其の他幾多の要職に在りて盡すに、節々匪窮の誠を致して功績大いに擧がり、老齢尙幾多の期待を囑されつゝあり。

前村長、信用組合監事

菊地彦一郎氏

明治五年正月七日生
福島縣安達郡荒井村字荒井四〇
農業

我が菊地家は始祖以來五代餘連綿として今日に至り、代々農を以て業となし當地の舊家として重きをなす、君の祖父彦十氏は明治九年地租改正委員たりしを始めとして、その他諸種の村公職に任じ、一意村政の發達に盡瘁せられし大功勞者なり、君は先考彦九郎氏の長男に生る天資明敏手腕力量又衆を拔き、よく自治政の公人たるに適せり、嘗つて君が納稅組合長たりし當時は、納稅の成績極めて優良にしてために、村當局の表彰する所となれり、君は又嘗て消防組頭學務委員等に歷任せられたる外、信用組合監事村農會長、村長等凡ゆる村政の要職に就かざるなく、いづれも至大の功績を殘さゞるなし、現職としては信用組合監事、水利組合議員等に任じ村内第一流の人物たるを失はず、ツギ子夫人との間に一男三女あり。

町會議員

澤田久右衛門氏

明治元年二月七日生
福島縣安達郡小濱町大字小濱成田字戸ノ内
農業

當家は當部落に於ける澤田家の本家にして氏に至る迄代を重ぬること實に七代の多きに達す。代々農を以て家業となし小濱成田に於て屈指の素封家である。亡父久次右衛門氏は學務委員社寺總代等に長く就職して町村自治に貢獻するところ多大であつた。氏は元小濱成田の幹事、信用購買組合顧問消防の小頭社寺の世話人等實に十指と雖も數ふるに足らざる程の多くの務めに一身を挺して公共の爲に奉仕した。かゝる誠實なる盡力如何で空しかるべきや、大正十年町會議員選擧に氏一度出馬するや、町民の信望一身に集り稀に見る高點にて當選し現在に至りたるものにして、資性溫厚なる人格者なり。家庭は頗る暖かにて三男五女を有する子福者である、長男久氏は家にありて家業を補け農事に勵んでゐる。

村農會長

野地三由氏

明治五年二月二十八日生
福島縣安達郡下川崎村
農業

氏は當地の名望家野地家より分家されたるものにして、祖家は代々農業を正業となし土地の舊家なり。嚴父治左衛門氏は村會議員助役等村の公職に就きて自治の發達に盡力されしなり。氏は治左衛門氏の次男にして良く嚴父の志を志として今日に至る。氏は今より約二十五年の昔消防手となり、次ぎて副組頭となり、推されて組頭の重任を負ふて立つに至れり。當時共器具の不完全なる組員訓練の不徹底なる、到底今日より想像し得ざる程度のものなりき、然るに氏は之が費を得て器具の完全を圖らんとしたるも許さず而も人口と戸數の增大は屢々火神に暴威を振はれ、此間組頭として血慘的の努力を以て遂に器具及新訓練の徹底を見る、功を以て表彰さる。前區會議員、現農會長を十ケ年、產米檢査員としての功亦大なり。

村長、村會議員

伊藤辰之介氏

明治元年十一月十六日生
福島縣安達郡嶽下村
農業

氏が生家は土地有數の舊家にして代々農業を事とさる。氏は先考武右衛門氏が嫡男として生を享け齡將さに壯ならんとする頃、即ち明治二十年より家鄉を後に他府縣に出張し、鑛山事業に從事し生來の剛邁不屈の資を以つて屢々大成功をみたり。大正十一年家鄉に錦をかざりて歸省したり。かくて伊藤辰之介氏の聲名は近接町村に著聞し、其の信用の厚きは敢て嶽下村内のみにあらず。氏は以來終始一日の如く常に卓越せる見地より村勢の發展を企劃し即ち選ばれて大正十一年より村會議員となり引續き大正十三年より名譽助役たり。此の間盡すに節々匪窮の誠を致して常に公平無私、よく村治に裨獻したれば昭和二年二月村會一致、一人の反對者を出すことも なく推されて村長の職に就き目下これに盡瘁中。

村長（村農會長）
勳八等

高橋三郎氏

慶應元年五月二十一日生
福島縣安達郡山木屋村字問屋二五
農業

當家は舊幕時代より連綿として續きたる舊家にして代々德望を以て聞えたり。先代政之助氏は用係なる村役をつとめたる人にして、克く村民の福利增進のために活動し、その業績の多かりしこと今尙ほ村民の記憶に殘るところなり。當主三郎氏は石井村今江家に生れ、入りて高橋家を嗣ぎたるものなり。今江家亦石井村に於ける名家にして三郎氏の父君今江定穀氏は村長として功多かりき。三郎氏は初め臺灣臺中廳に在りて租稅掛を勤め、後故山に歸りて安達郡書記となり、次で二本松町役場書記として大いに成績を上げ、大正十四年七月より村長の職に就き、更に農會長を兼ぬ。氏は曾つて日清戰爭當時勳八等瑞寶章を受け、二本松町時代旭日章を授けられたり。以てその功勞の甚大なるを知るべし。

村長

安部友治氏

明治九年一月一日生
福島縣安達郡鹽澤村字原十七
農業

我が安部家は歷代農を以て家職とせる當地方屈指の舊家にして代々世人の敬慕を蒐め來れる德望家たり。然して先代治作氏は嘗て村長其の他自治の要職數を重ね、常に一村の興隆に全力を傾倒し就中地方教育、交通道路の開通、自治公共機關の確立整備等最も見るべく現に八十一歲の高齡を保ちて健在し、今次昭和の隆古の大典に際して其の榮譽ある天杯を拜受せる一人と爲す。當主友治氏は卽ち其の嫡男にして、素志堅固にして恪勤精勵、篤實至直を以つて人望更に父君を超え、嘗て區長として克く村政事務の完璧を致し、多大の信任を得たると共に、選れて村會議員と爲り、幾多卓拔の經綸を顯現して衆望頓に高く、大正十五年遂に村長の重位に就く、家庭に三男二女あり、二男和氏は長野縣東筑摩農學校に教鞭を執る。

町會議員

安藤源吉氏

明治九年一月二十六日生
福島縣安達郡小濱町大字上長折字加藤木
農業

氏の家系を古へに尋ぬるに、其の昔は代々農業を以つて其の家計を立てゝ生活す。亡父德左衛門氏は餘り町村の自治的方面に關係を有せず、專ら其の努力を家政に致し益々其の家をして泰山の安きに置かしむ。然れども只特筆すべきは、明治初年に於ける地租改正當時にありては其の擔當員たりし事ありと謂ふ。當家は本家より分家後約百五六十年に至る。斯る舊家に氏は生れ現職としては大正十年より分家後約百五六十年に至る。斯る舊家に氏は生れ現職としては大正十年より今日に至るまで町會議員として在勤し新殿村東福寺の檀徒總代とし、日本宗教史上の地方的に貢獻する處あり。曩に郡農會役員及び郡農會豫備議員たりし事あり。氏は資性溫厚にして君子人なり、此の父にして此の子の在るは、夫れ鄉黨を益する事幾何なるやを知らず詢に敬服すべきの材器也。

前村長

菊地末吉氏

慶應二年九月二十日生
福島縣安達郡白岩村大字松澤字竹重內四十四番地

村政郡政の要職にある事多年嘗ては白岩村長の任を帶び地方自治政の爲め多大の貢獻を遂げ功なり名遂げて一切の公職を辭し、現に地方の元老として隱然重きを爲し專ら後進の指導誘掖に努めつゝあるを我が菊地末吉氏となす。氏は明治二十八年松澤區會議員となりてより區長代理消防組頭等を歷任し、明治三十一年村會議員に當選して村政の樞機に參じ爾來しば〳〵選を重ねらる。その他區長、傳染病豫防委員、學務委員、鄉土誌編纂委員長、村縣道委員、安達中學校建設委員、愛國婦人會白岩村幹事、赤十字社白岩村分區委員等の公職に就かる。大正四年十月安達郡會議員當選直ちに參事會員にあげられたり、明治四十四年及大正十一年の再度村長に當選此間區村郡よりしば〳〵表彰授賞せらるゝの榮を擔はれたり。

在郷軍人分會長

大河原平佐氏

明治二十九年二月十九日生
福島縣安達郡高川村大字中山字松林四七番地
農業

父君大河原平介氏は土地の人望頗る高く、現に學務委員其他に就任中也、氏は幼少にして穎悟夙に秀才の名を謳はれ、長じて資性溫厚よく父君を助けて業を治む。永年青年團幹事の職に在りて青年の指導教育に盡力し後選ばれて近衞歩兵第四聯隊に入り、在營中品行方正にして勤務勉勵爲に善行證書を授けられ、除隊歸郷するや在郷軍人分會の役員となり、班長、理事、副分會長を經て遂に推されて會長たり、曾つて大正十二年陸軍自動車隊の當地を通過するや、橋梁古くして連續通過に堪へず今や墜落せんとせるを見分會員消防組を召集して無事なるを得せしめたるは在郷軍人の模範的行爲なりとして該自動車隊長より感謝狀と金十圓とを贈られき。又前に消防小頭として職務に熱心なりしため縣より表彰され功勞賞を受けたり。

和木澤村々長

日向四郎次氏

明治八年七月十二日生
福島縣安達郡和木澤村大字和田
農業

氏が生家は代々名主を勤あ、苗字帶刀を許され綿々數代を閲せる由緒ある舊家にして、近隣に令名高き村内屈指の豪農たり、氏は先考一二氏の嫡男として生を受け家督を繼承して今日に到る一二氏は氏が未だ幼少の時に長逝せられたり、氏は資性溫厚にして篤實、清廉にして潔白、亦精力頓に絶倫にして活動的の天分に富む。されば全村の聲望遍く氏が一身にかゝり選ばれて村長に推され村治に望む、爾來眷々の至誠、節々の匪窮を盡して、常に公平無私、些かたりとも私情の介在を許さず、爲めに業蹟大いに擧がり土木に教育に産業に、其他凡ゆる方面に於て村治の改革は斷行せられたり。即ち名村長の名を恣にしつゝ亦村農會長、信用組合長、青年團長、村會議員の要職にあり。

村會議員

齋藤茂吉氏

明治八年十一月二十七日生
福島縣安達郡新殿村大字西新殿

齋藤家の祖先は小林越中氏之を起せしと云ふ。祖家の墓所に周圍一丈六尺の大木あり又當家居垣に二丈に及ぶ大欅ありて今尚繁茂しつゝあるに兆するも少くも十二三代を經たる舊家にして代々名望あり、村内に隱然として動かすべからざる勢力あり。祖先以來農業を主とせしが、家業のみならず村政のことにも關係を有せり。亡曾父吉右衞門氏は村役人として用係に就職して功あり、又當時の寺小屋に師として名高く當地方教育史上重要なる人物なり。亡父吉之介氏は亦櫃家總代として人望ありき。當主は明治三十八年頃祖家を受け、よく産を治めて次第に村内に頭角を顯はし、大正十四年には村會議員に推されて鋭意村治に盡瘁せり。氏には二男三女あり、長男は家に在りて農業に從事す。

分會長

佐藤喜重郎氏

明治二十九年十月二十三日生
福島縣安達郡岩根村大字關下字仲之内一四

氏は安積郡丸守村故矢吹喜兵衞氏が三男として生を享けたり。喜兵衞氏は村會議員其他自治制下の要職に歴任して村内の德望を遍く一身に集め、功績又尠からざりし人なり。喜重郎氏は後佐藤家に入りて家督を繼承して今日に到りたり。亡父佐藤源四郎氏は又村會議員學務委員其他の諸公職にありて村政に參與し盡瘁せる人なり。氏は常に誠心誠意事に當り亦青年の訓育に努め青年團支部長とし消防組小頭として多年これに盡瘁したり。即ち功績又尠からず。殊に青年訓練所創立當時之が指導員の任にありて活躍したり。氏は近衞歩兵第四聯隊に入營し後千葉陸軍歩兵學校教導大隊に分遣せられて其指導を受け除隊後分會の役員、班長、理事、分會副長を經て昭和二年四月より分會長として現任中なり、尚家庭には貞子夫人との間に一男一女を擧げ豐なる日を送りつゝある。

前村長

堀田喜三太氏

明治四年二月八日生
福島縣安積郡河内村大字河内
農業

氏は資性溫厚篤實清廉潔白にして人格高潔、當地方隨一の德望家たり。既に青年當時より村治其他の社會公共事業に努力して寄與するところ少からざりしなり。氏が生家は代々農を業とせし土地屈指の舊家にして苗字帶刀を許可されたりし家柄なり。先考喜三太氏は戸長及村長、前收入役、其他縣内に於ける公名譽職に參與し、縣會議員を三期及郡會議員、縣農會議員を永年勤められ、自治界稀に見る傑士として其の才幹を近隣に謳れたり。

氏家督を繼承するや既にその高潔なる人格と勝れたる才幹は衆庶の渴望するところとなり、即輿望を荷ひて村長に推されたり。氏が村長として就任以來、着々と村政は改革され土木に教育に勸業に未曾有の治績を擧げ、名村長の名を恣にしたり。現に安積郡疏水普通組合會議員の職を兼ぬ。

當家はもと三春藩士にしてその家系古く、先祖は苗字帶刀を許されたりし身分にて由緒深し。何時の頃にか後世瀨川村に歸して以て農事に從へり氏の亡祖父治左衞門氏は舊幕時代瀨川村の戸長たりき。又氏の亡父清之助氏は田村郡瀨川村の人にして本村の村會議員として本村自治に多大の貢献ありたり。清十氏は當家分家後に於ける三代目の戸主にて氏は若くして專ら漢學を學び珠算は三春藩の佐久間氏に師事したり。古く三春中學を出で一度教員として兒童を訓育せし事あり。現在は農村會長として人望あり。氏の家庭頗る圓滿にして愛妻との間に四男一女あり。長男清一氏は平石高等小學校の校長、次男清近氏は奉天の大學病院勤務、三男清風氏は新殿小學校訓導、四男清高氏は又準教員にして、愛子皆教育者なり。

福良村長

桑名藤左衞門氏

慶應二年十二月二十四日生
福島縣安積郡福良村大字福良字荒町二一〇七
農業

年々歳々花相似たれども歳々年々人相同じからずと、遠くその祖を探ぬるに本家は八代の昔より連綿と今日に到れるものにし、代々純農を以て立てられ本村稀に見るの舊家たり。一門悉く一途農事に精勵してその永き間農村の改善と發達を期待してやまず。愛村の精神凝つては農事の尊重を叫び、率先して以て他家に範たり、氏夙に農村自治の爲め諸種の肝煎役に薦められ日夜寢食を忘れて職務に孜々たり故にその貢献する處頗る多し。明治三十一年一月村役場書記に推され同じく三十五年一時助役たりしが間もなく辭職したり。其の後四十一年より四十五年に到る間助役及び大正六年より十年に到る間助役及收入役兼掌の重職に盡したりしが、越へて大正十三年一月より村長に拔擢せられ以て今日に到れり。

村農會長

佐久間清十氏

慶應三年十月二十六日生
福島縣安達郡新殿村大字杉澤字口中内一〇六
農業

村會議員

館下平太郎氏

明治四年十一月二十九日生
福島縣安達郡大山村
農業

氏は館下與十郎氏の長男に生る、嚴父與十郎氏は村會議員及其他村自治に多年參與盡瘁されたり、其の長男たる平太郎氏も父に劣らざる愛郷の士にして氏の現職は尤も其の愛村の志を遂行するに非常に格適す、夫れ天の與へし處か。氏は其の職責の爲めに使命を全ふせんとして努力して止まず。氏は名譽職に在る事村會議員のみに非らず或は消防小頭に或は氏子總代を務め日本神道の誇りを眞實に經驗し國體の尊嚴を遵奉し自己の名譽職に從するも是の精神より出でたり。夫れのみならず前學務委員をも勤め教育の事業の一半の責任をも果し了れり現村會議員も二期目にして宗教的には寺院の總代等もたし地方寺院の爲めに盡す等あらゆる意味に於ての德望家にして又た夫れを助くるに本村屈指の資産家なり。

村會議員、學務委員

屋形潔氏

明治十五年五月二十五日生
福島縣安積郡穂積村字野田

當家は地方有數の舊家にて代々醫業に從事し、舊幕時代には帶刀御免の家柄である、又相當資産も有し傍ら學務委員、村會議員の名譽職にあり、只管村民の爲め國家の爲めに一意專心の努力を致し、村の改造又教育會の改善を計り、其他ありとあらゆる方面の公共事業に務め、縣より表彰せらるゝこと數回にして、實に地方に於ける希れなる人物として村民及近方の人より尊敬を受く、氏は學校は中學校卒業なるも、氏の天才備はる頭腦明晰は誰れ人をして驚かさるを得ざるなり、又何れの委員會、村會に出席なすも氏居らざれば、何事も結末を見ざる事常時にして實に郡村の中心人物とも云ふ、氏の趣味は昔忘れぬ帶刀御免の家柄だけありて、刀劍に趣味持つ事非常にして名鑑定家も及ばざるなり。

正七位勳五等

現村長

矢吹山三郎氏

明治七年一月六日生
福島縣安積郡富田村字十郎內
農業

敢て絢爛、眼を奪ふが如き櫻花に非らずと雖も、共れ秋の籬畔に芬芳として隱君子の香を放つ者を矢吹山三郎氏と爲す、氏の家柄は數十代連綿として引續き、郡內有數の舊家にして、又反輔と稱し當村の名村長として久しきに亙り村の改善及公共事業に努力を盡したり、氏は長男にして之又父に勝れる手腕家なり、氏は明治二十七年四月安積中學卒業同年十二月一年志願兵として第二師團歩兵第十七聯隊に入隊、日清戰役の內地勤務に服し更に三十六年より大正六年迄で安積中學に教鞭を執る事卽ち十七年此の間更に日露の戰に出征偉勳をたて功に依り正七位勳五等に叙せらる。後郷に有りては多衆の模範となり、現父の跡を繼ぎ村長兼村會議員の職に在りて村の爲め國家の爲め努力しつゝあり。

村會議員
勳八等

相樂次郎氏

明治九年四月二十八日生
福島縣安積郡大槻村字太田一八番地
農業

當家は部落中の舊家なり、舊幕時代には帶刀御免の家柄にして、相樂家に養子民の親望厚く敬れたり、當主は鈴木龜右衛氏の二男にして、相樂家に養子となり入籍したるなり、養父寅吉氏は永年村會議員を努め、村の爲め、社會人道の爲めに、努力せられたる人にして、地方に於ける人格者として、村民の尊敬を受けたり、次郎氏は養父に勝れたる手腕あり、氏は土地の小學校を卒業するも、氏の頭腦明晰なること同窓生の模範なり、氏は中年にして消防手となり、其努力は多衆消防手の模範となり、束の間にして小頭部長の榮冠を荷ふ。又村の爲め公共の爲め、陰陽なく努力せられ一般民の認むる所となり區長に推されたり、氏は日露に參加して勳八等を受く郷に在りては模範となり現職に在りては誠心努力しつゝあり。

村會議員

大高新輔氏

明治十七年四月十五日生
福島縣安積郡豐田村大字川田
農業

當大高家は白河町屈指の舊家にして氏は白河郡白河町に生る。資性温厚篤實の人格者にして德望あり。明治四十年東京高等農學校（現農業大學の前身）卒業、同時に福島縣福島市青木氏に招せられて當地に移住す、卽本村農場の主任となり、其の農場大島要三氏の經營となるも引續き其の管理人に依囑せられる、氏の農村振興に努める念は多大にして、當農場に於て「チーフ」白菜の栽培に鋭意努力の結果其の質郡內第一となり、種子は殆ど當工場より產出せられ、其の範圍は全國各地に亘り、一ケ年の出產高は凡そ八百石の多きに上る。斯の如く土地を繁榮ならしめ、又其の名を天下に聲呼するは、只管氏の今日迄での奮鬪努力の結果と云ふべき也、氏は現在村會議員に就任益々村の繁榮に努力しつゝあり。

縣會議員・郡醫師會々長・村長・村農會長

本田通之助氏

明治十八年二月十日生
福島縣安積郡多田野村大字大堺
醫師（篤農）

生家は代々農を以て正業となし舊家たり。氏は先考德次郎氏の男として明治十八年二月十日呱々の聲を擧ぐ。先考德次郎氏は村會議員助役等を勤め村治に多大の貢献をなせり、氏は資性温厚にして而も獨立獨行の氣象に富み小學校卒業後、窺に風雲の志を抱きて岩瀨公立病院に藥局生として入り孜々として醫業の研修に努力し、寸毫も困苦に退讓を許さずその粒々たる辛苦の記錄は常人の意表に出ず、されば努力の効空しからず內務省檢定に合格して獨立醫業を創め今日に至る、氏亦夙に意を村治に用ひる事深く大正十年四月村會議員に推され次で郡會議員に選ばれ議政壇上に獅々吼し令名ありたり。後昭和二年九月普選の縣議戰に榮冠を得て、民政黨安積郡部會長として村治に貢献し、現に村長の榮職に在り。

安積疏水議員　產米組合議員
郡農會議員　所得稅調査委員

今泉與喜衛氏

元治元年九月二十一日生
福島縣安積郡永盛村大字柴宮三
農業

吾人は必ずしも中央の議政壇上に立て大聲を叱呼し、以て徒らに空理空論を戰はすを好まず、否寧ろ其人よりも、地方に在りて靜かに町村自治の爲め、適切に最も忠實に自已の天分を守る者を尊しと爲す、之に相當する人に今泉與喜衛氏を見出すのである、氏の家柄は村內有數の舊家にして代々農家なり、亡父要之介氏は明治初年頃地租改正當時殆んど一人にて擔當仕事をせりと云ふ、氏村內にある驛を建設の際は敷地を寄附なし氏の努力は村のみならず、國家に及ぼし其功績多大にして賞勳局より銀牌及賞狀を以て表彰せられたり亡父の跡を繼承し、亡父に勝れる手腕家なり、氏は縣農會議員村會議員四期在職中、村長二回郵便局長を經て其他四五の役を務め村の爲め國家の爲に努力し稀に見る人物として郡村民より尊敬を受く。

村長　村農會長

中原廣治氏

元治元年一月二十一日生
福島縣安積郡三和村大字富岡
農業

中原家は廣治氏を以て二代の當主となす。氏は故久助氏が養嗣子にして其實父は村の名譽職に在ること前後二十有五箇年、治政理民の上に功業赫として消ゆる無しと稱せらるゝ故大河原要助氏なり。幼よりして嚴父に享けたる天稟の才夙に現はれ頗る衆目を愕かしめしと傳ふ。明治三十四年村會に進んで其議員となり引續再選亦再選以て今日に到り現に村長の榮位に在り村農會長青年團長として矍鑠の意氣壯者を呑む、嘗て消防組頭たりし事多年功多きが外に更に郡會議員に推戴せらるゝこと十六箇年郡參事會たりしこと一期、實に當村のみならず當郡に於ても稀に見る功勞者にして嘗て郡治精勤功業甚だ見るべきものあるの故を以て表彰を受け金時計一個を授けらる、又宜ならずとせんや。

大槻村々長（村農會長）

岡部文四郎氏

明治二十年十月一日生
福島縣安積郡大槻村大字胡桃澤
農業

氏は寡言なれども剛毅、謙讓なれども德望あり。老子曰く、君子は盛德有つて容貌愚の如しと。老子の言に最適する氏は君子人たり。氏の家柄は當大槻村の舊家にして豪農を以つて聞へ多額納稅者たり。氏は亡祖父文四郎氏の孫長男にして長じて家督を繼承して今日に到る。氏は第二師團砲兵第二聯隊に入營し、衞生隊に屬して上等看護卒として除隊せり。其の後大正六年より十四年四月迄大槻村郵便局長の任に當りてこれに勤續せり。亦氏は早くより意を農事の改良に致して疲弊せる農村を救濟せんとし、先づ安積郡疏水普通水利組合會議員、村農會長、郡農會評議員、煙草耕作組合長の職にありてよく盡瘁し功績見るべきものあり。大正十三年十二月聲望を一身に集め、村會議員より推されて遂に村長となる。

村會議員

伊藤倉吉氏

慶應元年六月八日生
福島縣安積郡三和村大字富岡
農

伊藤家は代々舊家として地方に名聲あるは恰く人の知るところとす、倉吉氏は先代次郎兵衞氏の長男として生れ、家を繼ぎてまた地方の名望を蒐む、先考の遺鉢を承けて地方公共のため盡瘁し、擧げられて各方面の公職に就き現に當村々會議員の職にあり、孜々として村治の振興に努力を吝まず、當村が隆々たる治績を擧げつゝある、誠に氏の如き人物の長歳に亘る撓まざる精勵恪勤に由來する所と稱せざるべからず、その他氏はなほ消防小頭、區會議員、收入役及區長代理として歷任せるありて、常に最も眞摯なる誠篤なる人として推されたり、資性寛厚にして悠々迫らざる風格あり人に接して衆望を專らにするまた偶然にあらざるなり、宜なり當村一般村民の氏の人格と誠實に就きて常に賞讃の息まざる。

村會議員

橋本熊五郎氏

明治六年一月二十二日生
福島縣安積郡片平村字團子森

氏は沈着にして節義を重んじ人格又崇高なり。頭腦驚ろくばかり明晰にして能く最非を斷ず。先考を和吉氏と稱し、村長等の要職を勤めて村治上に功勞多し。生家は綿々五代を閲せし舊家にして、代々農を以つて正業とな し舊幕時代には組頭を勤めたる名家たりと云ふ。氏は夙に意を社會公共並村治に致して消防手小頭部長を永年勤續して斯界に貢獻し、亦學務委員に現任し村治上重要なる育英事業に專念し、當字分教場内に圖書館を設立する等功勞多く、校長及元郡長より表彰せらる。現に同圖書館長として衆庶に裨獻しつゝあるの外、同村養蠶組合長、郡農會議員を勤め當地の有力者として盛名あり。家庭には四男五女ありて、次男彬氏は二本松銀行支店長に現任し敏腕家として斯界に著聞す。

村會議員

佐藤長之介氏

明治七年六月生
福島縣安積郡永盛村大字笹川

舊幕時代に於ては長田百姓の家柄にして祖父伊平氏は俠骨を以て其名を廣く知られ、二本松藩の家中に出入されたりといふ。嚴父伊左衞門氏も亦舊幕時代用係を勤め地方農民の福利增進を圖り令名あり。明治初年に至つて地租改正せらるゝに當りその擔當員としてよく職責を完ふし明治三十二年町村制施行せらるゝや村會議員學務委員區長等諸重職を歷任し多大の功績ありしが就中本村小學校建設に際しては極力盡瘁せられたり、長之介氏は消防手より小頭に到る迄多年消防に關し貢獻する處あり、依つて其功を表彰されたる事屢々。其他曾て土地賃貸價格調査委員、村社熊野神社氏子總代として功ありしのみならず、現に村會議員農會評議員區長學務委員安積産米檢査員等に擧げられ盛に活躍されつゝあり。

村長

二瓶廣吉氏

慶應二年四月十五日生
福島縣安積郡三代村字御代
農

二瓶氏は當村自治界の重鎭にして、又德望のかゞやくことも亦本村中の隨一なり。當家は代々農業を營みて勤勉以て今日の基礎を固めたるものなり。先考鐵次郎氏は鋭意家業に勵みて村政治方面の事には餘り關係せざりしが、當主廣吉氏は夙にその英才を謳歌せられ、長ずるに及んで益々その頭角を擢いて、消防組に入るやその小頭に推され、學務委員に任ぜられて教育に貢献し、收入役の重職に就き、或は名譽助役となること二期、村會議員に擧げらるゝに至りては實に前後五回の多きに上り、共間郡會議員に當選して郡政壇上にその卓見を具陳せしこともありき。之れ氏の才德の秀でたるを語るものにして、遂に望まれて村長となり饗鍔として村治に貢献せり、氏に一男四女あり、長男廣一氏は家にありて農を營む。

郵便局長・信用組合長
勳七等

長澤勇眷氏

明明治十三年四月三十日生
福島縣安積郡豐田村大字川田
官吏

當家は村内に於ける名門にして、代々醫師たる大和田玄典氏の分家なり亡父の代より味噌醬油釀造業に變更す、亡父彦三郎氏は本村々長及郡會議員等を務め、郡の爲め、村の爲めに努力せられ、當地方及郡部に於て功勞多大にして、村民一般より尊敬を受けたる篤志家たり。氏は其の長男にして亡父の跡を繼承す、氏は當村小學校卒業なるも天が與へる秀才兒にして入學以來賞狀受けざる事なし、氏は適令を以て二十九聯隊に入營し日露戰役に從軍し功に依り勳七等青色桐葉章を賜る、歸鄕後在鄕に在りて多衆の模範となり、常に村の爲め國家の爲めに獻身的に努力せられたり、大正八年局長拜命氏は大正九年電話電信を敷設する件に付多大の骨折なし今日の進展を見る又氏の奮闘努力の結果と云はしむる也。

村會議員

岡部久藏氏

明治十九年二月二十九日生
福島縣安積郡片平村字深谷
篤農

我が岡部久藏氏が高名は近隣町村に著聞し、その信用その篤望のあはせて厚きは敢て片平村内のみならず、人若し岡部氏が自治公共の事に盡瘁して致せる功績をつまびらかに見ばその光榮又あやしむに足らざるを知るなるべし。推して氏が人格と才幹の如何に勝れしかを知るべし。當岡部家は村内の舊家として屈指の位置にあり、代々農業を事とされ、人民總代等を勤められたる家柄なり。先考久太氏は精農家として夙に令名を近隣に謳れたり。氏の幼時は土地の小學校を卒へ專ら父業を補佐して家運に裨益せしなり。かくて家督を繼承するや青年支部長を振出にあらゆる自治公共の事に意を致し、即ち遍き衆庶の輿望を一身に荷ひつゝ村會議員に選ばれ、任にあたりては節々匪窮の誠を致し多大の功績を擧げつゝあり。

學務委員

三浦松之助氏

明治二十四年七月八日生
福島縣安積郡河内村大字河内
農業

當地に於ける有數の舊家としてその名近隣に隱れなき三浦家こそ氏の生家にして當河内村に於ける三浦姓の總本家たり。その祖は醫を以つて業とせしも氏の先考關松氏農業に從事し氏亦これを繼げり。先考關松氏は區會議員を勤め村治上の貢献多大なるものありたりと。氏は資性英邁にして溫篤、淸廉にして潔白天禀の學識亦常ならず。常に潤達の氣に充ちて如何なる難事にも屈することなく、隨所に天賦の鋭才を振ひたり。氏亦近隣の情誼に厚く衆庶の輿望高く、推されて青年會支部長、青年團長、村會議員等を勤めて村治に盡瘁し、著々として實蹟を收めたり。現に學務委員として育英界に盡力しつゝあり。蓋し氏の如きは敢て絢爛眼を奮ふ櫻花に非ずと雖も、それ秋の籬畔に芬芳たる隱君子と云ふ可し。

消防組頭・村會議員

渡邊勝吉氏

明治十三年十月十日生
福島縣安積郡河内村大字河内
農業

當家は當部落内に於ける最舊家にして代々農業に從事す、祖父勝廣氏は舊幕時代には百姓總代組頭等を務め、村内の功勞者として、部落民に尊敬せられたり、氏逝きて其跡を勝次郎氏繼ぐ、氏は溫厚にして、正業に勵み只管人の世話等を餘念なくなしたり、勝吉氏中年にして、亡父の跡を繼承す、氏は祖父亡父よりも優れたる手腕家なり、氏は溫厚にして沈着なり、氏の誠心實直なるは地方民の知る處となり、未だ年若くして、村農會長となり、村民の爲めに産業の振興を計り、今日の如く本村の農産業の發展を招致せしめたるは、只管氏の奮闘努力の所以也、又氏は一昨年當村消防組頭部長の榮冠を贏ち得、一層公共事業村民の爲精勵しつゝあり、氏の趣味は盆栽及植木等にて朝夕餘念なく手入されつゝあり。

前助役・前村會議員

相樂一郎氏

萬延元年九月五日生
福島縣安積郡大槻村上町
農

氏の先考新平氏は村會議員等幾多の名譽職にありて才幹を發し當時未だ頗る幼稚なりし地方自治に貢献大なるものありたりと云ふ。氏は即ち新平氏が男たり。當家は舊藩政時代に於ける鄕士格の家柄にして苗字帶刀を免されその家名近隣に著聞せる名家たり。氏は資性溫達の氣に富み、人に接する常に溫厚篤實以つてせり。されば近隣衆庶の信望頗る厚く、消防組頭等を經て農會副會長を勤め産業興振に努力し其他學務委員、村會議員、郡會議員、助役、村長代理助役等幾多の名譽職を勤めて村治に盡瘁し、眷々の至誠、節々の匪窮を盡し縱横にその鋭才を發揮して功蹟顧著たり。後路を後進に開きて公職を辭するに及びても、尙その當地方自治に致せる功勞を讃する聲絶えず、家庭には一男あり常に和氣に滿てり。

前村會議員・現學務委員

七海兵太郎氏

文久二年十月十四日生
福島縣安積郡大槻村字針生
農業

地方自治の達成は産業の興隆と相俟つて始めてなさる、然して國家盛衰の一大基調を爲すべきは識者の言に待つを要せず、氏は篤實溫厚の人なるも常に此正見に立脚し、農村自治富國强兵の爲め勇憤努力し、克く中興の偉業を完し進で今日あるの家名を顯揚せる地方自治界の功勳たり、抑も當家は當部落草分けの舊家にして代々農耕を以つて立ち更に餘力を擧げて當地方の開拓に任じ來れる篤志家たり、殊に先代兵四郎氏の如きは最も當地産業の興振に力を致したる精農家にして永く當地の記錄に殘すべきものあり、氏は即ち其の長男として次代を繼ぎ、先君の薫育を享けて恪勤至直又以つて當村開發に功績を重ね、前村會議員を始め、現學務委員安積疏水議員、赤十字特別社員等の公職を經現に饅鏤として後進を誘導しつゝあり。

村長代理助役

古川清助氏

文久三年十月二十二日生
福島縣安積郡河内村大字河内
業

氏が生家は綿々たる舊家にして、村内第一流の豪農として聞へ高し。先考清作氏は農事に精勵せられし士にして氏は即ち清作氏が長男として生を享けたり。氏は實に地方自治發達の大恩人なり。即ち三十九歲の當時より區長代理、區長、學務委員、村會議員を歷任し、大正十二年十月二十九日より助役に就任し、昭和三年三月、村長死亡の故を以て村長代理助役となる。氏は資性頗る溫厚にして篤實、淸廉にして潔白、且つ精力頓に絶倫にして活動的天分に富む。然して職に在るや節々匪窮の誠を致し、氏が村長代理助役就任以來村政の改革は斷行せられ土木に、敎育に、産業に各方面に業績頗る見るべきもの多くして、名村長代理助役の名を恣にしたり。尙氏が長男は米穀檢査員等を勤めらる。

元村會議員・元區長・元村長
勳七等

古河千代橘氏

安政六年五月二十七日生
福島縣安積郡赤津村字中町
農業

當家はその歷史極めて古く家代を重ねる事凡そ十有數代に及びその間代々地主の職に就き當村名主の家柄として七代の名主を經たりき。亡父與一郎氏は一心以て村治に盡し曾ては戶長たり。明治十一年の村會議員たり。氏は又若松藩の士族にして素より氣慨あり、從つて名望夙に集りて一途村政の隆盛に勃々として企圖を致し、明治十七年村會議員に推されしより學務委員、區長、村長、組頭、郡會議員等の多職に拔擢せられ同村自治の爲めに貢献する所頗る多し。氏は又日露戰役當時村長たりしが凱旋後長き當邊より勳七等を贈られたり。その外昭和三年八月郡農會副會長に同年十一月郡の町村長支會の副長に就職し本村發展の先驅者とし、將又村内唯一の德望家として崇敬せらるゝ事氏の如きは未だあらざるなり。

村會議員

古川佐太郎氏

明治五年生
福島縣安積郡河内村字瀧
農業

河内村は土地豐饒にして、加ふるに農産業甚だ盛んにして農産業の設備は普遍的に行はれ以て諸種の農産物に富めり。産業の隆盛はついで土木に敎育に留意せしめこれが改革に努めて今日まさに模範村の觀あり。

人若し氏の功績を審に見ば、今日の隆盛又怪しむに足らざるを知るべし氏は代々農を業とし戶長時代人民總代を勤められ、氏を以つて五代を閲せる土地有數の家柄に生を享けたり先考佐助氏は精農家として令聞あり。氏は資性溫直にして溯達亦頗る鋭鋒なり。長ずるに及びて一意社會公共自治の事に力を致せり。即ち多大の衆望を荷ひて村會議員に推され現任中なり尙村會議員として村治に望みてこれに盡瘁する外に農事實行委員、學務委員等を勤めて功績あり。

村會議員

伊藤作平氏

明治元年六月一日生
福島縣安達郡青田村字隱森
農業

當家は當主迄で六代連綿としたる舊家にして祖先は高倉家の家臣なりしも、當地に來りて農を開拓す、故伊藤作平氏は舊幕時代戶長當時に村治に參與し盡瘁されし士と云ふ。氏は長男にして、一家を繼承して村長、水利組合長、學務委員、村會議員、消防組頭、氏子總代、寺總代、農會の評議員、安達中學校の築造委員等を經、ある時は村の收入役等に推薦されたるも、一男死亡等一家の都合上之を辭せり、現在は村會議員、耕地組合長、引續き五ヶ年在職、社寺總代等を務め、氏が今日迄で幾多の公職にあり、農村自治の爲め、商工業發展公共又は社會人道の爲め、貢献的に努力盡瘁され其の功績甚大にして、村民よりは地方有數の人物として尊敬を受く、又氏は消防組にありて縣より數回表彰されたりと云ふ。

村長代理助役
勳八等

岡田廣作氏

文久三年十二月九日生
福島縣安積郡永盛村大字日出山

氏の生家は當村に於ける舊家にして、氏は文久三年十二月九日を以つて呱々の聲を擧ゞ、先考彥四郎氏が長男たり。氏は資性恭順にして人格高潔常に進取の氣に富み、精力亦絶倫にして幾多の俗塵に超越して公平無私、夙に節々匪窮の誠を致して公共事業並に村治に盡瘁したり近隣衆庶の信望頗る高く明治二十五年推されて村會議員となり次いで郡會議員に擧げられて村治に裨献するの外、安積郡金町村組合會議員、土木常務委員に選ばれて才腕を振ひ、後郡山稅務監督局に奉職中郡書記に轉じ職に在ること十八ヶ年の永きに渡り功績甚大なるものあり。大正三年九月五日村長に推され八ヶ年勤續し退職大正十四年助役に就任中昭和二年九月前村長退職と共に村長代理助役となり、事務の刷新、小學校の增築等功績頗る多し。

學務委員

岡部文作氏

明治六年十一月二十三日生
福島縣安積郡大槻村胡桃澤
農業

岡部文作氏の名は近接町村に著聞し、其の信用と篤望の厚きは敢て大槻村内に於てのみならず、人若し氏が功績をつまびらかに見ば、その光榮又あやしむに足らざるを知るなるべし。推して氏が人物の如何に勝れたるかを知るべし。當岡部家は分家されてより二代目にして夙に農業を營み、先考文吉氏は精農家として近隣にその令名を謳れたり。君の幼時は專ら父業を補佐して家運に裨益せしところ甚だ大なり。かくて家督を繼承するや疏水の事に專ら意を致し、即ち輿望を荷ひて安積疏水議員に選ばれ而も事に當るや血慘的奮鬪を重ねてその任に在ること三期以つて現任中なり。又氏は消防世話頭を務むるの外學務委員として努力しつゝあり。かくて氏が德望は村内に並びなく任にあたりてよく盡瘁し多大の功績を擧げつゝあり。

村農會長
勳七等
功七級
星林八郎氏

明治十五年十二月七日生
福島縣安積郡片平村字大町
農

氏が生家は綿々絶ゆることなく數代を閲せる土地第一の舊家にして、代々郷主を勤められたる由緒ある家柄なり。先考三次郎氏は學務委員、村會議員等を勤められたる土地の有力者なり。氏は即ち三次郎氏の嫡男として生を受け家督を繼承して今日に到る。

氏は日露戰役に出征し連戰して功あり。即ち勳七等功七級に叙せられ軍曹に昇進す。歸郷後は意を專ら自治公共の事に致し、先づ消防手小頭を振り出しに部長、つゞいて組頭となり十四ケ年程勤められたり。又青年團を組織して自ら團長の任にあたり、在郷軍人分會を組織してこれに會長たり其他學務委員、村會議員を各二期間勤められ、現に村農會長、安積郡米穀同業組合評議員兼議員を勤められ名聲嘖々として近隣に聞え高し。

村會議員
勳七等
阿部德右衛門氏

明治五年十一月九日生
福島縣安積郡片平村大字大町
農業

敢て絢爛、眼を奪ふが如き櫻花に非ずと雖も、其れ秋の籬畔に芬芳として穩君子の香を放つ者を小林鐵三郎氏と爲す。生家は綿々五代を閲せる舊家にして近隣に著聞す。先考伊之助氏は村會議員等の要職を勤め村治上の貢献沒す可からず、氏は即その長男たり、且つて日清日露兩役に出征し殊勳あり故を以つて勳七等を賜り、恩給年百八十五圓也を給せらる。氏資性溫情に富み、而も鋭鋒あり、常に意を專らにし村治に盡瘁して餘念なし、されば村人の信望頗る厚く、區長を振出しに農會議員、村會議員等の名譽職にありて村治に裨益し、現に村會議員として議席にあり、當村自治界の元老として令名あり。家庭には二男五女あり圓滿にして和氣藹々たり。

村農會長
林八郎氏

明治十五年十二月七日生
福島縣安積郡片平村字大町
農

當家は代々農を正業とし綿々數代を閲せし舊家たり。氏は明治六年二月七日安積郡仁井田村に於て遠藤平次郎氏が男として生を享く。資性溫藉にして而かも鋭鋒あり、亦堅忍不拔あらゆる勞苦に耐え得る美德と倦むことなき進取の氣に富み、精力亦驚ろくばかり絶倫たり。氏は亦夙に社會公共のことに意を致し孜々公事に盡瘁して倦まず。常に節々匪窮の誠を致して村治に當り、如何なる細事と云へ共輕擧に出づることなく、細心の注意と周到なる用意とを以て之に當れり。されば著々として實蹟を擧げ村治上の貢献甚大なり。即大正十三年助役に就任し、同職在職中大正十四年十一月前村長の退職と共に推されて村長代理助役となり、愈々天賦の才幹を振ひつゝあり。家庭亦圓滿にして常に和氣に充つ。

村長代理助役
遠藤平藏氏

明治六年二月七日生
福島縣安積郡仁井田村
農業

村會議員
前林茂氏

明治十七年四月生
福島縣安積郡大槻村上町
酒造業

當家は綿々七代を閲せし當村有數の舊家にして酒造業を創めしより二百五十年を經る名家たり。舊幕時代に苗字帶刀を免ぜらる、以つて家柄を知る可し。氏資性恭順にして活動力に富み、精力亦驚くばり絶倫たり。幼よりして家業に服し一意專念その興隆を策すること久しく、累月累年的に發展を見、漸次其製品の聲價を高めたり。大正七年東北酒造業品評會に於ては三等賞を授與せらる。氏は亦全力を致して社會公共並に村治に盡瘁し、消防組小頭、部長、同副組頭、組頭等を勤め、斯界に端倪す可からざる才腕を發し、現に消防組頭を勤め、其の他安積疏水議員等を勤めたる外郡山酒造組合評議員、村會議員として現任中なり。因に造酒孚鹿は大正十年以來、各品評會に入賞せる逸品、家庭は二男一女常に圓滿にして和氣藹々たり。

村會議員
國分庄藏氏

明治十七年四月二十五日生
福島縣安積郡三和村大字富岡
農業

當家は郡内草分の舊家にして、當主迄十六代連綿として、舊幕時代には名主を務めたる家柄なり、代々農を正業とせり、祖父傳右衛門氏は區會議員、區長等を務め、村内功勞者として、村民より敬表せられたりといふ、先考初三郎氏は早死して、氏が一家を繼承するに至れり、氏は資性溫厚にして實直なり、又人に接するに恭讓を以つてせり、氏は土地の小學校卒業なるも極めて頭腦明晰にして事理に通じ、如何なる難局と雖も、泰然として、處理するの敏腕を有す、氏は消防手より小頭、部長等を經て村會議員に推され、務めること今日に及べり、又郡農會豫備議員等を歷任したり、氏が諸公職にありて郡村の爲め、公共の爲に盡されし功績尠からず、村民一般より尊敬を受く一家は五男一女にて圓滿なり。

村長・農會長
從七位
齊藤政治氏

明治九年十月七日生
福島縣安積郡豐田村大字成田
農業

當家はもと郡山市に合併前の舊小田村に住し、地方の豪農として代々名主を勤め、苗字帶刀を許されたる名家なり、當豐田村に居を移されてより六代に及ぶ。君の先考彦次郎氏は村内一流の資産家名望家として重きをなし、數度村長に就任し又郡會議員となり在職多年、嘗て郡參事會員たりし事あり村内否な郡内第一流の人物とし令名あり、功績又尠からず君は則ちその長男にして始め駒場農科大學實科に學び、成業の後は長野縣農事試驗場技師として赴任農事の改良指導に盡されしが後轉じて千葉縣立茂原農學校教諭となり次で群馬縣立農學校教諭に轉じ農村子弟の實業教育に努められしが父君高齡の故を以て辭して歸郷幾何もなく大正七年村長に推され、十年一旦辭職十五年再度村長となり以て今日に及び名村長の譽高し。

村會議員
鹽田忠義氏

明治十八年十一月十九日生
福島縣安積郡豐田村大字川田字小樋四一番地
農

當家は地方屈指の舊家にして、舊幕時代に於ては帶刀を許されし家柄也先考忠太郎氏は村會議員、學務委員等の要職に在りて村治の功勞顯著なりき。氏は又先考の賢志を嗣ぎて消防組頭、郡農會議員、村農會代議員、郡産馬組合議員、村會議員學務委員として、農村の自治行政改革に參與し、産業の發達を促し教育の振興を圖る等其功績沒すべからざるものあり。就中村會議員に立つ事三度村會議員中の最古參として信望を一身に集む。家庭は頗る圓滿にして二男一女あり。何れも秀才媛の譽れ高く、一村の美望の的となる。長男義雄君は優秀の成績にて中學校を卒業せり、次男義惠君は目下福島縣立中學校の三年生にして常に向學心に燃え、讀書を好み努力舊閥家にして現に福島中學の明星たり。

前村長・學務委員
勳六等
功五級
增子文助氏

明治十年六月十一日生
福島縣安積郡三和村大字富岡
農

勳六等功五級後備砲兵中尉增子文助氏は明治三十七八年戰役の勇者にして武名未だ嘖々として巷間に傳稱せられつゝあるの士なり。安積中學校の前身たる縣立尋常中學出身の俊才にして一年志願兵として砲兵第十六聯隊に入り、日露國交の斷絶に際するや直に出征至る所に拔群の功を樹て燦たる榮光と共に目出度く凱旋せらる。爾來本會創立以來の會長として名聲あり、嘗て消防組頭農會長助役の任に就き村長に選ばるゝ事再度、現に學務委員を兼攝せらる。當家は名主として本村に來住せられたる榮譽ある名門にして、殊に先代故重次氏は名主戸長村長等に歷任村治の功勞者たりき。親子二代の功業眞に稱すべきなり。四男四女中長男保氏は千葉醫學專門學校出身にして刀圭界の名手として知らる。

帝國在郷軍人會
若松市中分會長

松山良純氏

明治二十六年十月二十日生
若松市馬場名子屋町十三番地
住職

氏は文祿年間玄海上人を開基とする本願寺派福證寺の第十五世現住にして會津中學を卒業後京都佛教大學に五年間學び、大正七年卒業して歸郷するや一年志願兵として步六五に入營して步兵少尉に任官退營後は專ら本願寺派布教師として縣の内外に亙りて思想の善導と宗意の宣傳とに努め、傍ら分會長として精神的指導の下に分會の改革と發展とに腐心せられて殆んど寧日なし、氏は分會長外、同宗若松組々長、會津佛教各宗同盟會長、會津佛教慈善會副長等數多の要職に在りて地方の信望頗る厚し、氏の父若照氏祖父若冲氏は今や亡きも、俱に教育功勞者として名をなし、氏の令室芳野夫人は、現西本願寺法主大谷光昭猊下の教育主任脇谷搖謙氏の長女にして一男三女あり。因に氏の令兄は市内に齒科醫を開業して榮ふ。

村會議員
勳八等

佐々木勇次郎氏

明治十三年十一月八日生
福島縣安積郡大槻村字下町
農業

氏は寡言なれども剛毅、謙讓なれども德望有り。頭腦亦明晰にして能く是非を斷ず。されば夙くより當村自治界に勇躍して敏才を振ひ功勞多し氏の祖家は二本松の鄕士として著聞せし舊家にして、先考留吉氏當地に來り佐々木家を嗣ぐ氏は卽その男たり。土地の小學校に學を卒へ、爾來家業に專念せしも、而も尙餘力を社會公共並に村治に致して倦まず、推されて村會議員となり現に二期に歷任村政に參與し衆庶に裨益しつゝあり。其他學務委員二期現任を兼ね育英界に才腕を振ひつゝある外農會長、消防手、米穀組合議員等の公職を勤め、業蹟顯著たり。亦日露戰に從軍して殊勳あり故を以つて勳八等に叙せらる。家庭には二男一女ありて常に和氣堂に滿ち其の圓滿なること他家羨望の的たり。

前村長・農會長

金田良誠氏

慶應三年七月十五日生
福島縣安積郡富田村字松下作十六番ホ號地
農業

氏は四國の高知縣人にして夙に現地に移住す、氏は良勳氏の次男に生れ明治十四年當地に來り其人格德義に兼ぬる卓拔の識見は、村民に認められ明治二十八年助役となり、專ら村治の爲に一意專心に奮鬪され、明治三十九年郡書記となり、明治四十一年村民の推選に依り村役場再度の助役となり、大正四年迄で繼續す、大正四年十一月同村村長の榮冠を荷ふ。昭和二年十一月迄繼續し滿期に依り退職す、現に農會長の職にあり、又明治三十年六月選ばれて、安積疏水普通水利組合會議員と爲り、引續き現職にあり、以上の如く在職中多大の功績は筆に盡すを得ざる也實に地方に於ける人格者として尊敬を受く。

力神堂整骨院主
大日本精神醫學研究會長
東京心理學士
勳八等

鈴木清美氏

明治二十年四月五日生
若松市中六日町十七番地
接骨師
電話九三八番

南朝忠臣橋本正茂卿正五位の正統を受け、其晩年の地片會根村の住人橋本家の一族たり、氏の實父留次氏橋本家を出てゝ其一族にして鈴木家を起して鈴木姓を名乘る。土地の豪農にして鄕士たる家柄にて幾多古記事及寶物とも云ふもの有り。氏は長男にして普通學後明治四十年會津若松聯隊に入營再役して大正二年第一回學生として陸軍戶山學校に入學、卒業後士官學校助敎、大正六年特務曹長に進級六十五聯隊附、大正九年豫備役其後中等敎員檢定試驗及普通文官にパス、福島縣立工業學校敎諭たりしも敎育界を退き思想善導に志し、精神醫學は靈の方面より肉の上からは透徹に研究心を持現在の關整骨院に至る、氏の頭腦明晰は地方に於て稀に見る人物として尊敬を受く、氏の趣味は刀劒生花行く〳〵は軍人精神を志守す。

村會議員

増子藤兵衛氏

明治八年二月二十日生
福島縣安積郡河内村大字河内熊越
農業

增子藤兵衛氏は明治八年二月二十日、安積郡河内村大字夏出の舊家山本平右衛門氏が男として呱々の聲を擧げ、後迎えられて增子家を繼ぐ。當家は土地に於ける有數の舊家にして代々農耕を正業となせり。養父圓藏氏は先帝陛下御大禮當時同村村長を勤め、赤誠以て衆庶に裨益するの外幾多の名譽職を勤めてその貢獻甚大なりしと云ふ。氏は資性溫厚にして篤實清廉にして潔白たる人格の所有者にして、早くより村治並に公共のことに意を致し、鄕黨の福利增進に努力して寢食を忘る。されば着々として實蹟をあげその功蹟甚大なるものあり。卽村衆庶の信望頗る厚く、消防手小頭を經て村會議員に推され、現に同職に在りて公家公共の至誠を批瀝して餘す處なし、家庭にはエキ子夫人との間に五男三女あり。

村會議員

瀧田太作氏

明治二年十月十三日生
福島縣安積郡片平村字西大町八番地
農業

至誠は生活體系の基礎にして成功の一大要因也、然るに現下徒らに侃々諤々の言のみ高くして至誠なき輕擧の徒日に月に增加しつゝあるは慨嘆にたへず。氏の如きは誠に時代に範たりと云ふ可し。先考忠太郎氏は篤農家として聞へ高かりき。氏は長尾文吾氏の二男にして故忠太郎氏の養子となり分家後自主獨立以て今日の家財を得、卽酷苦勤勉日も足らざる奮鬪の賜也。氏資性溫篤にして清廉潔白夙に村政に參與し　其他を經て村會議員に現任して至誠一貫着々實蹟を收めつゝあり、又禮儀育のため每週補習學校に課外講演をなすこと六年に及ぶ。家庭には五男三女ありて、三男は大槻小學校に敎鞭をとり五男は目下安積中學校に在學中、家内常に圓滿にして和氣堂に充。ちて近隣羨望の的たり。

村長

舟橋九介氏

明治三年十月二日生
福島縣安積郡丸守村大字上伊豆木
商

氏は資性溫厚篤實にして人格高潔、當地方隨一の資產家なり、氏は青年時代より、公職に有る事、三十有餘年の久しきに亘り、役場の吏員、村會議員、村農會長、村長等を經地方自治の發達を計り、又公共事業に努力せられたり、氏は中年にして傍ら材木商を營む。又工場を經營して製箱を產出し專賣局に納入、年產額三四萬圓に達せり、氏は公職に有りては村の改善實業界にありては、相當手腕を振ひ實に地方に於ける稀に見る人格者也、氏は現村長在職常に村民に對して犧牲的觀念厚く、地方民より尊敬せらる處最も深し。又長男義介氏は若年なれども之又父に勝る手腕あり。現在は工場主人となり、數多の職工を一家族の如く圓滿に使用せり、又家に有りては村の公事に努力しつゝあり。

消防組頭
勳八等

今泉義惠氏

明治十二年四月五日生
福島縣安積郡永盛村
農業

當家は村内有數の舊家、今泉家の分家たり、氏は本村高等小學校卒業なるも氏は頭腦明晰にして、能く是非を斷ず、氏は日露戰役に參加なし死は鴻毛より輕ろき命は泰山として敵彈雨雪の中もものともせず奮鬪努力の結果其功績は多兵の模範となり武功拔軍なりとして勳八等功七級旭日章を賜りたり、歸鄕後は福島縣消防協會の常任員、安積消防協會常任委員に推さる、又ある時は福島縣政調査員三回、郡會議員二回、青年團長　安積疏水議員、神社總代八年、永盛村農事指導員十ケ年、福島縣農事改良同窓委員全國消防協會評議員等を經たり、氏の今日迄で幾多公職役員にあり村の爲め郡の爲め縣の爲めとなり、又は社會人道の爲めに努力せられし氏の如き人物は地方希に見る人として村民より敬表されり。

新鶴村々長

平山文八郎氏

慶應元年三月二十六日生
福島縣河沼郡新鶴村大字佐加瀬川
農　業

氏が生家は代々村内の肝入りを勤められたる綿々として續く舊家にして先考佐五平氏は舊戸長として現自治體の基礎を造られたり。

當新鶴村政に參與して多大の才腕を謳はれつゝある氏は即ち佐五平氏の嫡男に生れ家督を繼承して今日に到る。明治二十三年先づ當村書記を拜命す氏は資性溫厚篤實、清廉潔白にして且つ精力頓に絶倫頗る活動的の天分に富む。即ち全村の輿望を遍く一身に集めて三十年村長に推され一期間就任し、四十四年再度これに就任大正十二年迄でに及び、昭和二年再三これに就任歷任して現在に及ぶ。氏は常に節々匪躬の誠を致して業績頗る顯著なり。此間若松市役所書記、坂下町助役たりしことあり。尚一期間縣會議員として縣政に參與したり。尚大沼電燈會社重役、政友會代議員、會津四郡煙草耕作信用組合長の要職にあり。

元村長
勳七等

伴野祐八氏

文久元年十一月二十日生
福島縣河沼郡堂島村大字福島

君は文久元年十一月を以て河沼郡堂島村に生る、伴野家は元會津藩士に出づ、明治三十一年村氏の推す處となり堂島村助役に擧げられ、能く村長を補佐し政務を處理し、三十四年村長に就任後郡產馬組合議員及評議員となり、地方產馬奬勵に盡し三十七年村農會長となり、郡農會議員となり農事に盡瘁し、郡教育會特別會員に推薦され同年村長に再選、會々日露戰役に際會し軍國多事の間激務を處理し金五十圓並に勳七等瑞寶章を賜ふ、同四十一年村長再選及郡農會代表者に擧げられ、縣農會評議員に選ばれ同年宅地修正調査委員及所得稅調査委員に當選、大正六年縣會議員に當選し同八年十月郡會議員に當選、名譽職參事會員に選ばれ、大正十三年三月會津育英會理事に推選せられ又所得稅調査員に當選現に在職し公職に貢献する君の致せる功績枚擧の頗に堪ふべからず。

元村長
勳七等

佐原庄作氏

文久元年七月十一日生
福島縣河沼郡勝常村大字堂畑
農　業（地　主）

櫓門の名家薫りて朽ちず、其の祖は會津城主葦名氏二代盛連の二男北田廣盛、弓矢の擧高く北田の館主たりしが去んぬる應永年間新宮館主と爭ひて敗れ、一途鄕士として田畑を耕し折笠家を名乘りて斯村必須の人物として連々今日に及べり、維新の世王政復古と共に父近右衞門氏縣の大釜事土地巡視の折柄己が祖系を正してより舊の佐原の姓に還れり、庄作氏若きより氣概有り、町村制施行後明治廿四年以來村會議員の第一人者に薦められ同三十六年村長の職に上りしが偶々日露戰役に服務して長き邊りより勳七等を下賜さる。大正三年再度村長に推されてより十二年其の職に在り、共存共榮の志篤く學校建築、耕地整理、道路改修等功多し、農事の傍ら實弟恒次氏と共に讀書を樂しめり。

若宮村々長

山内忠次郎氏

福島縣河沼郡若宮村大字五の坪
農　業

當部落は元和以來の記錄を存するのみなりといへども大古より傳はるゝ一族として口傳せられたり。山内家はかゝる土地に於ても屈指の舊家にして代々豪農を以て近隣に聞へたり。氏は岩淵鐵吉氏が次男として生を享け後年山内家に入る。實兄忠太郎氏は元村長及び郡會議員たり。現在南米に在りて光輝ある成功をかち得たり。亦養父龜吉氏も多年村會議員を勤められしことあり。かゝる名家に出で、名家に入れる氏は溫厚篤實、清廉潔白にして且精力絶倫加ふるに活動的天分に富み、亦讀書の趣味深く博學者たり。山内家に入るや家業によく勵精し、大正十四年村會議員に選ばれ昭和二年には村長の榮職をかち得たり。尚これらの他に村農會長を勤めらる。家庭にははつ子氏との間に二男五女あり頗る圓滿なり。

村會議員

古川德右衞門氏

福島縣安積郡河内村大字日室
農　業

氏は青壯の當時より早くも深く意を村治共他社會公共事業に致して努力し、その寄與するところ少なからず。又資性甚だ溫厚篤實にして清廉潔白沈着にしてよく節義を重んじ人格崇高なり。頭腦は明晰にして能く物事の是非を斷ず。即ち衆庶の輿望を遍く一身にあつめて始め學務委員に選ばれ後に村會議員に推されたり。氏一度び村會議員としてたつや、村政の改革は斷行せられ土木に教育に產業に未曾有の發展治績を擧げ、尚盡すに節々匪躬の誠を以つて血慘的努力を致しつゝあり。されば自治界稀にみる人傑としてその德望は廣く近隣に謳はれつゝあり。氏が生家當古川家は土地に於ける三軒の古川家の本家にあたり、代々農を業とし有數の舊家たり。尚先考勘兵衞氏は精農家として令聞ありたり。

村長

山岡康邦氏

明治五年九月九日生
福島縣安積郡穗積村大字駒屋

生家は元錄五年大槻村陳屋勤務より（舊二本松藩領）當村駒屋へ名主拜命して以來庄屋（十ケ村名主取締役）を勤續する事明治二年迄十一代共名家たるを知る可し。先代友次郎氏は庄屋より維新後引續き、村長戶長と勤め其間明治七八年中郡山村阿部茂兵衞村の開成山（現今桑野町）開拓に共に盡力せし其賞として農商務卿より多大なる恩賞を受け、又安積疏水の事業に付而は明治二年以降建議盡力せし功として岩倉右大臣公より此れ又羽二重一疋を受賞、其他地方の爲め私產の大半を投じて多年衆庶に裨獻し其功蹟甚大なりと云ふ。氏は即ち先代友次郎氏の男たり。氏資性溫籍にして常に志を社會公共の福利に置き且つ進取の氣象に富み鄕人欽慕の的たり。去れば大正二年推されて村會議員となり引續き在職中現職に推さる。益々村治に儘瘁し着々實蹟を擧げつゝありと。

安積疏水議員・村煙草耕作組合長
消防顧問・縣煙草耕作組合議員

岡部次太郎氏

明治六年九月廿七日生
福島縣片平村字深谷上屋敷三
農　業

當家は本村有爲の肝煎役として且つは勤勉な實行家として村民の信任頗る厚き一良家なり。次太郎氏の實父次左衞門氏の未だ十九才の青年の折節本家は分家せられしものにして其の後本家を凌ぎて以て本村の重鎭と敬はれ來れり。氏の嚴父素より村政改革の先驅者と稱され常に村會議員區長等の榮職に推されおりたり。氏はかゝる人望あり然も篤志ある嚴父の子として生長し早く土地の學校を出でゝ農事に勵み曾て消防小頭を務めしが日清日露の兩戰に加はりて勳七等に叙せられ同郡軍人團組織に際してはその幹部たりき。別に助役村長代理收入役村議員區長村農會長に推されし事あり尚曩に郡產馬組合議員村煙草耕作組合長縣煙草耕作議員郡農會豫備議員消防顧問疏水議員現在は村農會總代同評議員郡煙草耕作評議員等諸般の榮職を兼ぬ。

學務委員

山本初太郎氏

明治三年三月廿四日生
福島縣安積郡河内村大字夏出
農　業

氏の生家は當地に於ける山本家の總本家にして連綿七代を閱せし舊家たり、代々農業に從事し、祖先は苗字帶刀御免の家柄たり。以つて家系を知る可し。先考を平右衞門氏と稱し、區長等を勤めて村治に貢献すること多く、亦篤農家として著聞せしと云ふ。氏は即ちその長男たり。氏は資性恭順にして篤實、且進取の氣に富みて銳鋒あり、常に志を社會公共の福利に置きて大局の上に達眼を有し、而も驚ろく可き絶倫の精力を以て村治に盡瘁し、眷々節々の誠を披瀝して餘す處なし。されば衆人の信望を集め、區長を勤むること八ケ年、その間幾多の實蹟を收めて村治に貢獻し、其他消防小頭、學務委員等を勤めてその功蹟浚す可からず。現に學務委員として育英事業に盡力す。家庭には二男四女ありて圓滿なり。

學務委員

山本信孝氏

明治二、一年一月十五日生
福島縣安積郡豐田村大字川田
字大泥澤二十番地

山本家は當主信孝氏を以て三代の主となす。松山藩に仕へて氣節を以て知られたりし人の當地に移住せられしを即祖とす當主が祖父君なり。亡父君正氏は松山醫學出身の國手にして當村會に議員たること三期に亙る、其拔群の稟賦は悉く當主に傳へらるゝ所なり。氏は安積中學に學び更に東都に笈を負ひ研究甚だ努められしが故あつて中道之を廢し、歸つて專ら家道の充實に精勵せらる。夙に推されて區長、村會議員、村農會役員等の任に手腕を發揮せられ現に學務委員たり、家に三男三女あり長子一正氏中學校在學中にして將來を囑目さる。

村會議員

柳田榮之助氏

明治十三年十月九日生
福島縣安積郡河内村大字河内
農業

當安積村は其の面積、人口に於ては敢て誇るに足らずと云へども、猶その實質に於ては當福島縣下屈指の優良農村として縣下に著聞す。氏は即ち當村の志士故榮作氏が男にして、生家は當村に於ける有數の資產家として令聞ある代々の篤農家たり。氏は資性堅實にして近來稀にみる溫厚の君子人。早くより地方農村振興を策して倦まず。先づ消防手等を勤めて村治上種々の貢獻みる可きもの多く、衆庶の信望を集めつゝ村治に盡瘁し、後區會議員に擧げられ、次いで村會議員となりては節々匪窮の誠を致して文字通り寢食を忘れ、村治を以つて男子一生の事となし、堅實なる業蹟を收め地方自治界の爲萬丈の氣を吐きつゝあり。家庭には一男四女あり常に圓滿にして和氣に充ち他家の範たり。

青年團長

鈴木修氏

明治三十三年十月七日生
福島縣安達郡大山村
大字椚山字大坪十二番地
農業

人若し如何なる薄運に會し逆境に會するの事あるも、泰然として前後左右に間隙なく、油斷あらずして熱心にして、忠實努力大に怠らずして精勵なすあれば、必ず光明の端緒成功の曙に接するなり、氏の祖先は分家にして當主迄四代目なり、代々農を正業とす。亡祖父、父惣太郎氏共に當村の社寺總代等を務めたりと云ふ。氏は父惣太郎氏の長男にして、一家を繼承す、氏は大正九年近歩第四聯隊に入營、大正十一年十一月上等兵拜命大正十五年七月歩兵第二十九聯隊に豫備として召集下士適任證附與され同年七月青年訓練所開所以來指導員を拜命(現職)青年團の會計幹事となり、昭和二年十月青年團長に推擧以來本團の確立統制に專心の努力され昭和二年度壯丁檢査成績優秀に付郡聯合青年團總會に於て一等優勝旗を受く。

富久山村々長

高橋久彌氏

明治十六年六月十六日生
福島縣安積郡富久山村
大字久保田三六番地

氏は代々庄屋を勤め、苗字帶刀を許されたる土地屈指の舊家に生を享けたり、先考清治氏も亦村長を勤められたり、氏は嘗て安積中學に學び次で縣立蠶業學校に移りて同校を卒へ、郡立蠶業講習所教師を勤められしことあり、氏は早くより意を地方自治及公共の事に用ひ特に產業の發達に努力せられたり。即ち村會議員、學務委員其他の公職にありては自治に稗獻する所多く安積郡產馬組合長、安積郡疏水普通水利組合議員、郡農會議員村農會議員、同水源委員、村農會長、煙草耕作組合長、耕地整理組合副長等幾多の公職にありて產業の發達に意を致し常に公平無私盡すに節々匪窮の誠を致し、即ち全村の聲望を遍く一身に集めて遂に昭和二年推されて村長となり縣耕地協會評議員、蠶種同業組合評議員及代議員を兼ぬ。

學務委員

伊東喜作氏

明治元年三月生
福島縣安積郡片平村字高森
農業

氏は安積郡片平村の出身たり。氏が生家當伊東家は土地有數の舊家にして代々農を營みたり。氏は土地の小學校を卒ふるや幼にして父業を補佐してよくこれに稗益したり。

氏は早くより自治及社會公共の事に深く意を致し常に卓越せる見地よりして村政の發展振興を企畫し、これに血慘的努力を重ねたり。即ち氏が家督を繼承するや衆庶擧つて氏を選んで村會議員に推す。氏任にありてはよく私利を廢して專ら大衆の爲めに働き、日夜寢食をもかへりみず村治に意を用ひて東奔西走溫席の暇なし。爲めにあらゆる方面に治績大いに擧がり村政の改革は斷行せられたり。氏は又消防世話役を勤め、現に學務委員の職にありてよく盡瘁せり。氏が長男は又消防小頭として活躍さる。

村會議員

柳沼丑太郎氏

明治六年七月生
福島縣安積郡豐田村大字成田
農業

衆をして奮勵努力よく其路に勤めしめ以て一鄉の富を增達する蓋し治世に當る者の理想とする所又甚だ難き事業なるも、一鄉の衆をして互に私穆よく相親しましめ以て和平穩靜の里となさんは更に重要且困難の事なるべし。前者は材少し後者器稀なり、吾が柳澤丑太郎氏が如きは實に得難き此種の材能なり。本村の他に比して平和恰も桃源の風あるもの即ち氏が高風以て衆に臨めるに基す。連綿十五代にも餘る舊農の家に長じ故父君次郎助氏が後を嗣ぎ、不幸視聽氏の訪るゝ所なりて傳家の產潰えんとす、即ち身を以て事に當り遂に世に驥足を伸ぶる能はざるも、溫潤玉の如き風格は常に鄉人を感化して休まず、村議の身を以て一世の師表と爲る何等の偉ぞ。一子治長氏亦能才、青年團支部長として聞ゆ。

村會議員

伊藤源太氏

明治十三年十一月五日生
福島縣安積郡三和村大字富岡
農業

當家は多數伊藤姓の宗家にして極めて由緒ある名門なり、其傳統系圖誇るに足るべきものありと傳へらる。累代農耕野稼を以て家道となし世々相承けて怠たらず耘耕灌沽の功積んで大果を得たり。先代は當地有數の人物として名聲遠くに及びたりし故源平氏にして村會に議員となり其他公共の重職に勤めて多大の事蹟を殘されたりき。當主源太氏は即其の令息にして家督を嗣ぐや勤勉日夜に勞を惜しまれず營々孜々の業眞に餘人の比肩する能はざる所、出でては父君の遺德に倣うて各種世務に精勵せられ、消防手より進んで小頭部長に成り、區會議員區長代理に及ぶ、現任區長代理の外第二期の村會議員たり。家に四男四女あり、長男廣氏は青年團長の重任に在りて聲望既に聞ゆ。

學務委員

葦名左近氏

慶應三年三月十日生
福島縣安積郡穗積村
大字山口字芦ノ口二十番地
神官

時は遷り世の興亡不斷に續きつゝあると雖も、歷世ともに篤實篤行洵に積善の家として連綿玆に幾百年、家門今日見るの榮光を見るもの即ち我が葦名家なりとせん。抑も當家は郡內部落草分けの舊家にして、當主までに實に十四代目、代々齋身修家の神官職を傳へたる名門たり。氏は舊幕時代に人と爲り當時の寺小屋に和漢の學を修めしも、天稟の銳鋒は常に儕輩を壓して卓然たり。後年神職を繼ぎしも愛國的至情は徒らに閑職に踟躇を許さず、常に諸般の建設に豐富なる經倫を吐露し、輿望を荷ひて村牧入役に推され、更に此間學務委員其の他を兼ね、信望嘖々たる自治界一方の重壁たり、因に長男は福島師範學校出身の俊才にして現に伊達郡霊山小學校に教鞭を執り、外に二男四女を儲けて家庭頗る和氣に富む。

村會議員

遠藤重藏氏

明治廿四年五月廿日生
福島縣安積郡河内村大字河内
農業

凡そ何事にもあれ創始するは容易ならず、とは云へ、亦如何なる隆盛に赴きつゝある事業と云へども、その繼續者にして適材たらずんばやがて落日の悲運をみる可きは、玆れ理の明かなる處。地方自治今日の發展は勿論その先覺者達に負ふ處なりとはいへ亦氏の如き至誠ある人材をまつて將來を期し得可し。氏は當安積郡の舊農遠藤家に生る。先考を善次氏と稱し氏は即その長男たり、資性頗る恭順濶達の氣を有し村人の信望厚く適齡に及びては騎兵第二十三聯隊に入りて質實剛健の美風を致し後村治公共の事に盡瘁せり。即區長、區會議員等の要職を經て、村會議員並に分會長として現任し血庶に貢献しつゝあり。尙家庭には一男ありて頗る圓滿なり。

村會議員（畜産組合誘導係）

馬塲卯三郎氏

明治十一年二月十一日生
福島縣田村郡高瀬村大字小川
農業

當家は村内有數の舊家にして豪農なり、祖父祐右工門氏は舊幕時代組頭を務めたりと云ふ、又父猪吉氏は畜産組合誘導係にして、販路を關東關西及帝都中心に同組合の爲に盡し其功績多く地方民より尊敬を受けたり、現在八十二才の高齡にて健在、氏の畜産界の功績は大にして、賞狀及紀念品を賜る、長男卯三郎氏現に一家繼承す氏は又父に勝れる手腕あり、溫厚篤實にして、村民の模範人物なり、氏の性格を認られ氏中年にして、村區長に推されたり、以來村の改善農作の發展に努力を盡され、ある期を以て村會議員となり、益々村政の爲に一層努力されつゝあり、又氏畜産組合の功勞者に依り、氏を以て其の跡を繼がしめ、畜産界の役員に選任され尙同組合の爲め、國家發展の分子として努力しつゝあり。

消防組頭

根本植次氏

明治十三年十二月十日生
福島縣田村郡二瀧村
字栃本三、四一番地
農業

當家は郡内草分の舊家にして、舊幕時代は帶刀御免の家柄なり、代々有志として會議に列席せしと云ふ。亡父忠吾氏は町村制實施と同時に村會議員、學務委員、區長等夙に村内要職にあること三十有餘年間、地方自治に貢献せる爲其の功績尠からず村民より信望厚く自治功勞者として銀盃を贈らる、氏は長男に生れ、明治三十二年消防手、同三十五年小頭に昇進、大正六年組頭となり同年村會議員となり、務めること二期、農會評議員となり青年團分團長となり少年赤十字社幹部となり、青年指導に努力しつゝあり、又大正十五年迄社寺總代となり國勢調査委員に二回土地賃貸價格調査員となり、氏が今日迄で諸公職にありて自治公共の爲めに貢献せし處縣の認める所となり第一第二回共金一封或は記念章等にて表彰せらる。

延喜式内郷社小松神社々司

遠藤正信氏

明治廿四年四月廿五日生
福島縣田村郡常葉町字中町一
神職

當家の先祖は古く京都より當地に在住せる人なりと云ふ、中興の祖にして十七代前の主たる藤原正直氏以前の家歴判然たらず。代々神官として仕へたり。君の祖父遠藤元氏は七十三才にして壯者を凌ぎ神職の傍ら農事を嗜み又當村子弟に讀書を教授し篤行家として衆人の尊敬する所たり。君は大成中學に學び業を卒へたる後明治四十四年近歩第四聯隊に入り除隊となれる後大正三年伊勢神宮皇學館に敎びて神隨の道を修め神官として最高の教養を積まる。大正七年父君の早逝に遭ひ年齡二十七才にして社司となり父祖の業を繼承せられて今日に至る。君は學識人格共に秀で神職間に重きをなす。前年迄福島縣神職會代議員たり又郡支部理事たる多年そのよく職に盡瘁せられし旌により支部長より表彰せらる。

前縣會議員
現村會議長
勳八等

後藤隆作氏

安政四年八月一日生
福島縣田村郡小泉村大字南小泉
篤農

祖先は連綿十數代に亙る土地の舊家にして、代々農を正業となし庄屋等を勤め帶刀御免の郷士なり、氏は亡父多仲氏の長男にして十六才にして、戸長役場用掛を拜命勤めること十年、二十六才にして田村郡鷹巣村外十八ケ村の戸長に就任、后町村制の實施に當り當村は岩戸村たりしも氏が多年運動努力せるの結果、小泉村と獨立なす、明治廿七年獨立と共に初代村長に就任、傍ら村會議員を兼任す、氏は公職に有ること二十有餘年の久しきに亘り、其間何事も私事の如く席温たまる時なく、献身的努力を持久され村民は申すに及ばず、縣下一般に亘り氏の人格を認めざる者なし、當時又縣會議員立候補となり、縣下最高の得票にて當選務めること前期迄、氏は又中央政界に有りて相當手腕を振ひ縣政友會の元老として重きを爲す。

村會議員
勳七等
功七級

神山千治氏

明治十二年五月二日生
福島縣田村郡宮城村大字
高倉字澤又八番地
農業

氏は資性勤直にして剛毅、英邁にして果斷、克く敏捷に事を處するの手腕は、到底醉生夢殆の徒の企て及ばざるところなり、而して如何なる難局と雖も、些の痛痒を感ぜざるものの如く平然として盡す、地方稀に見る人格高潔の士として、村民より尊敬を受く、氏の家柄は村内有數の舊家にして代々農を正業とせり、實父秀太郎氏は七十五才の高齡者にして嘗て村會議員其他の要職にありたりと云ふ、氏は明治三十二年第二十九聯隊に入營日露戰役に從軍し、軍曹昇進拔群の功に依り勳七等功七級を賜ふ、後在郷軍人會の副會長に推され、十五年間會の爲に盡し消防組頭四ケ年、村會議員畜産評議員等を勤め、氏の今日迄諸公職に在りて公共の爲め、社會人道の爲めに盡されし其功績尠からず、表彰せらるゝこと又數回なり。

產馬組合副會長、町農會副會長

眞壁貞志氏

明治十三年九月二十九日生
福島縣田村郡守山町大字御代田
醬油釀造業

至誠は信用の基礎にして商家成功の一大要素たり、されば多年斯業に精進して至誠一貫、こゝに治めてその業伸ふべく、店頭始めて繁昌を來す所以なり、醬油製造業者に於ける縣下同業界に名聲嘖々たる眞壁貞志氏の如きは實に至誠を以て信條となし、遂に克く絶大なる信用をかち得たる模範的人物と稱すべし、氏の一家は町内有數の舊家にして、明治初年頃より醬油製造業を營む、嚴父惣十氏は傍ら町會議員に推され、町の爲め努力せられる事久しきに亘り、現在は町の區會議員等を務め益々町の爲め、產業發達に努力されつゝあり、一男貞志氏は又父に優れる手腕家なり氏は安積中學校中途にて退學して家事を補く氏は中年にして郡產馬組合議員となり久しく產業界又は町政に努力せられ地方稀に見るの士として信望篤し。

澤石村長

渡邊與五郎氏

文久二年九月二十日生
福島縣田村郡澤石村大字寶澤
農業

當家は土地の舊農として夙に令聞あり、氏は亡養父治郎右衛門氏の後を享く。其出生地は同郡文珠村精田にして佐藤與右衛門氏は其實父なり。實弟の佐藤與十郎氏は文珠村長たりし事あり。氏の名譽職に就ける事頗る多くし明治二十八年三月學務委員を務められ、同三十一年二月村會議員に同じく三十二年十月郡會議員に選ばれ同四十一年三月助役に又た收入役をも兼掌せられ大正八年十二月遂には村民の熱望を擔ひ村長に就任せらる。目下現職に在りて村治に務むる事未だ嘗て其の例を視ざるの觀あり。氏の如き有德の人をして若し夫數年の壽と健康を與へなば爲めに村は天國と化し村民は精神的及物質的に救はれ古への支那三代の世も及ばざらん。

村會議員、學務委員

神山龜藏氏

明治四年八月十日生
福島縣田村郡宮城村大字高倉
農業

資性惇厚奉公の念厚く村吏として、實に十數年間營々孜々として、倦む事なく、現今村治の生字引の如く思惟せられて、村民の信望日に深くして長上の受け甚だ良好なるは誠に宜べならずして何ぞ、氏は明治四年八月十日當村神山家に生る、當家は村内草分の舊家にして又屈指の資産家なり、中興の祖亡父幸藏氏は七十九才の高齢にて世を去り、氏は戸長時代の村會議員を務め村の爲に盡され功勞者として村民より敬慕せられたりと云ふ、氏は嘗て當村役場の書記として、數十年勤務、以來前區會議員に推され又村會議員に選ばれ今日に及べり、氏の長男龜五郎氏は家に在りて氏を補佐し二男美正氏は海軍兵にして恩給を受け、現郡山市役所書記勤務中、三男恒人氏は第六十五聯隊入營、家庭は至極圓滿也。

町會議員

舞木熊太郎氏

明治六年九月二十一日生
福島縣田村郡守山町大字正直
字南五十六番地
農業

氏資性溫厚にして篤實、謙讓にして寛潤、事に熱心如何なる難局と雖も鋭意努力遂に最後の月桂冠を得るの概を有す、而も人に接するや恭謙よく事理を辨へ誠に感すべきもの多く、地方の模範人物なりと稱せらる、氏の家柄は村内有數の舊家として聞え代々農を正業となす、祖父善次氏、實父猶吉氏共に土地の精農家として、氏は大正十年土地の區長を務め以來消防組小頭より同部長に昇進當町農會評議員、水利組合議員、二回國勢調査委員、(第一、第二)大正十四年より町會議員となり現任中、氏が今日迄幾多の公職に在りて、地方自治の爲農村發展の爲め、商工業の發達を計り、産業教育會の爲め公共又社會人道の爲めに努力されし其功績尠からず、當地方稀に見る人格者として尊敬を受く。

町會議員

矢吹熊藏氏

明治七年七月十九日生
福島縣田村郡守山町大字
岩作坂ノ上六六
農業

氏は明治七年七月十九日生れにして、天性沈着寡言克く衆を統御して事務に精通す、而て如何なる難局と雖も熟考するや直ちに解決を與ふるの手腕を有し、人格又卑しからず衆望日に厚きものありて一般の尊敬を受く、氏の家柄は村内有數の舊家にして、代々農を正業となす、祖父嘉藏氏は名主時代に組頭等を務め、村の功勞者として敬表せられたりと云ふ。又亡父芳藏は村會議員、區長、區會議員等を務め、村民の信望篤かりしと云ふ、氏は大正五年區長となり同十四年町會議員に擧られ同十五年土地賃貸價格調査委員となり町の爲め、公共の爲めに盡されし其の功績少からずと云ふ五男嘉藏氏は縣立岩瀬農學校卒業にして教育界にあり、四男嘉忠氏は當町役場の書記として勤務中、一家は至極圓滿なり。

村長、村農會長

神山孝信氏

明治四年十一月二十六日生
福島縣田村郡中妻村大字沼澤
篤農、元教育家

神山氏は多年教育界に在つて後進薫陶の道に專心せられたる篤行誠志の人にして、其初め中學卒業の後奮勵瞬時も之休めず檢定試驗を經て育英界に進出せられたる立志傳中の士なり。大正二年八月田村郡大越村上大越尋常小學校々長を辭して郷里に退かるゝ迄人格涵養才能養成を本分として育英事業に盡されたる事實に二十有餘年、榮聞洽く通へり。氏が生家は舊幕の頃代々庄屋を以て任じ苗字帶刀を許されたる名門にして殊に父君忠吾氏は村長に歴任多年高齢八十五今尚健在せらる。孝信氏亦父君の德を追うて公共の爲に全力を致し、凡ゆる名譽の職に就かれたりしが、消防小頭助役等としての功極めて多大、現に村長に推され更に村農會長を兼ねて遠近の敬重信頼眞に贅言を要せざるものあり。

學務委員

班目萬四郎氏

明治二年九月十五日生
福島縣岩瀬郡廣戸村大字白子
農業

敢て絢爛、眼を奪ふが如き櫻花に非らずと雖も、其れ秋の籬畔に芬芳として隱君子の香を放つ者を班目萬四郎氏と爲す、氏の家柄は分家されてより數百年連綿としたる舊家なり、代々農業を正業とせり、親父龜五郎氏は區長及惣代等を務め、村の爲めに努力せられたり、氏は龜五郎氏の長男にしてより、更に餘力を自治公共に致して功績頗る顯然推されて區長となり、更に衛生組合長、收入役、村會議員、更に消防小頭部長組頭等幾多の公務を兼ねも業績適く處として見ざるなし。資性は謹直にして謹嚴、清廉にして何事も公平無私の人物なり、氏現に學務委員其の他に現任中、老來益々旺盛の鋭氣を以つて後進解晰の範を垂れつゝあるは敬すべきなり。

前市會議員

上田源八氏

慶應元年二月二十八日生
福島縣郡山市字阿彌陀町八
農雜貨兼煙草小賣商

氏は當町自治産業界の偉勳者にして現に長老格の重きを爲す、當祖は文政年間越後國小梨場より移住して三代、世代源八を襲名す、氏は幼名を丑藏と稱し明治三十八年家督を繼ぎて次代を襲名す、初代以來農耕を家職として大正十三年以來雜貨並に煙草の販賣を兼ぬ。氏は國事最も多端の慶應年間に生を享け明治維新の波亂澎湃たる中に人と爲り、夙に盡忠報國の熱意を傾倒し町治の開發に奔走し、殊に産業上に一家見を有して農産物購買販賣組合村信用組合の創立に意圖する處深く創立と共に兩組合監事となり、又農事實行組合長、市農會總代同評議員、小作調停委員其他市會議員たる事一期、第一二國勢調査員、統計調査員、同聯合會評議員、縣共濟委員、納稅組合委員、學校保護者會幹事等諸般に亘り榮譽の表彰記錄數あり。

前村長
勲八等

目黒眞亮氏

慶應元年三月四日生
福島縣相馬郡福田村大
字埒木崎字作田二五二
農業

氏は明治十一年福田小學校を卒業し同十九年三月宮城縣伊具郡丸森村外一ケ村戸長役場書記を拜命し同二十二年八月一日福田村役場書記以來同三十八年九月迄勤續し優良なる成績と正確なる人物たるの故に三十八年九月福田村助役に推されしが同三十八年十月直ちに福田村長榮收入役に當選せられ翌三十八年十二月病氣退職せるが而かも在職中の功勞によりて三十九年四月一日附を以て勲八等を下賜せらる大正四年十月相馬郡會議員に當選し同八年十月滿期退職し又之れより先き大正六年五月村會議員となり同九年十月再び村長に當選し同十三年滿期退職せる文字通りの自治公共の殊勲者なり祖父は埒木崎肝入を勤め父君は篤農家の聞え高し、又氏の養子誠之君は福島蠶業學校本科を出で現に農林技手として活躍しつゝあり。

元村會議員、現耕地整理組合長

長谷川平八氏

明治二年十月二十二日生
福島縣河沼郡勝常村大字熊ノ目

當家は祖考元之助氏に端を發する當地屈指の舊家にして、元之助氏は夙に寺小屋を設置し當村子弟の教導に裨益して功績頗る甚大なりし德望家たり。嚴父傳次氏又區長として二十有餘年專ら村治に貢獻して令名四隣に鳴る。氏は卽ち傳次氏が嫡男として生を享け家督を繼承して今日に到る。氏は明治三十七年村會議員に當選、爾來勤續實に二十有餘年、同三十九年無限責任勝常信用組合創立第一次の長として大正十年に及び、同八年四部落聯合耕地整理組合創立以來の長として現任、大正十一年學校建築委員、同十三年區長、昭和元年土地賃貸價格調査委員等諸般に亘り業績何れも顯然明治四十年郡長より大正十年村長より何れも自治の功勞を以て表彰せらる、大正十一年學校建築の功勞により金一百圓を以て組合より表彰せらるゝ等赫燿の記錄に富む。

前村會議員

明田伊之太氏

慶應元年十二月十五日生
福島縣大沼郡尾岐村
農業

文化の發達は人間の生命を短縮し、長壽百歳を越ゆるもの寥々曉天の星を望が如きものたり、即ち多くは定命五十に達せずして殞る然るに當家の如きは歴代高齢を保ち氏の嚴父喜平次氏は八十五歳母堂やす子氏八十三歳現在何れも健在にして這般の昭和曠古の大典に際して榮譽ある天杯を拜授さる、之れ積德勤勞の賓賜に依らずして他なからん、當家は即ち農を家職として連綿數代土地の舊家にして精農家を以つて聞ゆ、氏は嚴父喜平次氏の長男にして土地の學校を卒るや獨學自修大いに努めて學又尋常ならず、天資の聰明に加へて識見と經倫に富み後年輿望を蒐めて村會議員に選れ至誠と熱意に終始して衆庶の利福に不斷の努力を拂ひ、村政に幾多の貢獻を錄し信望嘖々、現に六十五歳矍鑠の鋭氣を以て後進解晰の範を垂る。

同家の祖考は遠く桓武天皇皇子葛原親王の後、遠藤土佐守之慶人道宗圓承久の亂の恩賞にて濃州にあり、元慶慶長の亂に失封流浪して大沼郡德谷澤に住して鄕士となり爾來肝入役となりし名門なり。氏は神指村の舊家皆川家に生れ、十九歳にして遠藤家の養子となり、家運の傾きしを再興に努め一代にして克く舊に倍する繁榮を齎らし、傍區長たる事十九ケ年良く區内の親和統一に貢献して明治三十年助役に推され、一ケ年にして辭せしが衆望を負ふて同三十九年推されて村長に就任し名村長として令名あり、又產業の開發に努め煙草耕作聯合會長として斯業の改良を劃したるの功偉大なり、今尙矍鑠として閑日月を樂しむ。令閨さだ子との間に三男あり長男伊左美君實業に餘念なく二男八彌君會津銀行に在り三男盛彌君早大を出て柔道五段の猛者なり。

坂内丹四郎氏

慶應二年十月三日生
福島縣大沼郡尾岐村大字吉田

氏は旭村鈴木久四郎氏の三男なりしが明治十八年坂内家に養子として迎へらる、氏や公共自治に職を置く事多年常に誠心誠意、勤直を以てよく職に任じ村民の尊敬亦大なるものあり、左に公職の大要を記せん明治二十七年尾岐村第二區長に就職、同二十八年尾岐村會議員(三期)同三十二年大沼郡會議員同年尾岐消防組頭同三十六年大沼郡會議員再選、同年大沼郡參事會員、同三十九年尾岐村東尾岐村組合長村臨時代理、同四十一年大沼郡農會議員、同四十四年尾岐消防組顧問、同年縣農會議員、大正二年尾岐村東尾岐村組合會議員再選、同八年會津米穀同業組合代議員、同十年坂下稅務署所得調査委員二期、同十一年尾岐村東尾岐村組合村長、昭和二年坂下稅務署管内相續稅調査委員、同二年坂下稅務署土地賃貸價格調査委員等なり。

元村長

遠藤介五郎氏

安政六年十月五日生
福島縣大沼郡川路村大字穂馬甲五四五番地
農業

前町長

藤田捨吉氏

明治六年三月十一日生
福島縣田村郡守山町字大供
豪農

吾人は中央の議政壇上に立て大聲を發し、以て徒らに空理空論を戰はす人を好まず寧ろ其人よりも、地方に在て町村自治の爲め、教育商工業、農業の爲め、又社會人道の爲め最も忠實に己が天分を守るものを尊しとす、之に相當する人物に、藤田捨吉氏を見出したのである、氏の家柄は代々庄屋を勤め村内有數の舊家なり、農を正業とす、亡父は八十四歳の高齢を以て歿せり、氏即一家を繼承す、氏は地方稀に見る手腕家なり、二十五歳にして村民に選ばれ、區長、及區會議員となり村の爲め農產業の發展を計り、又ある時は產馬組合議員、收入役たること三期、助役一期村長二期其他二三にとゝまらず、氏今日迄幾多の公職に在り、村民の爲め公共事業に献身的努力せられ氏の如き人物は地方に於て稀に見るなり。

現區長、農會惣代

遠藤文吾氏

明治十七年七月十四日生
福島縣北會津郡荒井村
大字中石乙三七番地
農業

自治有終の美果は產業の發達と兩々相俟て始めて見るを得べし、即ち地方の開發向上を企圖する者亦以て之が手腕と經倫を要すべきや必せり、氏は資性溫厚篤實最も至誠と熱意に富み、夙に地方公共の爲めに盡瘁し來れるは勿論產業上に一家見を有する識見高き偉材也、祖先は故蘆名氏の舊臣にして後蒲生、上杉、加藤、松平、の諸主に仕へ、世々肝煎たる、舊家の嫡宗にして今尙石原區長に任じ、又多年大字中石字中軍石原の耕地整理組合副長、農會惣代代議員等一村の文化の進展に預りて功勞尠からず、令閨さい子氏は明治二十一年四月の生れにして隣鄕の名家山口家より嫁ぎ、現に氏を補佐するに遺憾なく且つ貞淑の譽れ高く又受國婦人會員として重きを爲し、長男一嘉氏は陸軍補助看護卒にして現石原青年會會長なり。

耕地整理組合副長(前區長)
勳七等

鈴木與作氏

明治十六年五月二十六日生
福島縣河沼郡若宮村
大字勝大四、七一四番地
農業

當家は農を正業として連綿十有餘代世代肝煎役を勤めし土地屈指の舊家なり、氏は同郡河西村の農高畑直三の次男に生れ、天資の聰明を認められて同家の先代清記氏の養嗣に迎えられ、大正十一年二月家督を相繼して現姓を冒かす、性溫厚にして實直恪勤精勵頗る活動的の天分に富み克く養家の素志を承けて家運の隆興に資すると共に、至誠と熱意を以て村民の福利に意圖する處深く既にして衆望を其の一身に蒐む、即ち大正八年帝國在鄕軍人會若宮村分會長を囑託され、次いで同年十二月民力涵養委員を囑託さる又同九年には國勢調査員に選れて異數の業蹟を擧げ、同十四年輿望を荷ひ同十五年土地賃貸價格調査委員として實に成績の顯然たるものあり、昭和三年一月故を以て感謝狀を授けられ、現に耕地整理組合副長農會總代現區長消防組小頭等を兼ぬ。

原ノ町郵便局長
正七位
勳七等

岩崎清氏

明治六年八月二十四日生
福島縣相馬郡日立木村大字立谷
官吏

現原ノ町郵便局長として衆庶の信望頗る篤きものある岩崎清氏は多年官界を游泳し來れる錬達の士にして、周到緻密の天禀に加へて人格崇高、而も識見卓拔洵に通信界稀に見るの材器と稱すべし。生家は因舊藩主に仕へし武門の家柄にて、嚴父周之助氏は舊法に依る町の長組長等を勤めし德望家たり、氏は其の長男に生れ天資聰明穎智夙に群童を壓して卓然たるあり、教員より身を起して文官となり、大藏省稅務屬たる事多年、次で東京遞信局の檢査課に轉じ更に同省經理部に移りて幾多の記錄を重ね異數の昇格を以て仙臺遞信局の監査官に榮轉す、至誠と熱意を以て恪勤する美德は多年の修練と相俟つて光輝愈々燦然たるものあり、次で原ノ町局長の重位に推されて現在に到り、正七位勳七等恩給拜受の榮譽あり。

神指村助役

岩橋常四郎氏

明治九年二月九日生
福島縣北會津郡神指村大字小見

當岩橋家は上杉家築城當時その家臣たる岩橋右京太夫を遠祖とし、上杉氏移封後歸農して爾來綿々として數代を閲し、豪農の聞へ高し、近右衛門氏近内氏を相互に襲名しきたれり。先考傳四郎氏は區長及治水工事世話人として多年にわたりて勤續し功績又少からずと云ふ。常四郎氏は普通學を修めたる後河沼郡勝常村神田家より入りて養子となり家督を繼承して今日に到る。明治二十七年即ち齢二十八歳にして村役場書記を拜命し爾來昇進收入役として引續き勤續し大正十二年助役に推さる、在職前後二十有四年間に亙りたり、尚神指信用購買組合創立以來役員として勤續し前年各小組合統一に盡瘁し現に專務理事として着々實績を擧げつゝあり。かくて本年御大典に際し多年村治勤續自治功勞者として縣知事より銀盃を授與せらる。

古川留藏氏

慶應元年十二月十四日生
福島縣郡山市小原田町二六一

氏は藤原氏の末流にして先代三右衛門氏の次男に生る。資性溫厚篤實至誠天に通ずの意を持つ氏は又公共自治に貢献するところ多く村民の衆望を荷へり、その一端を伺はんに先に小原田村々會議員、郡山市會議員、小原田區長、第一回國勢調査委員等の任にあたり業跡亦甚大なり、尚現安積疏水議員、耕地整理組合評議員に任じ日夜その勞を惜しまず、一面又東北飲料株式會社の監査役にあげらる、尚又敬神の念深き氏は村社香久山神社の氏子惣代をも勤めて先年その故を以て感謝狀をも受けたることあり、かく自治に業界に並びに神事にすべて衆の爲人の爲めに心身を捧ぐる氏や又仁潔の士とや謂はざるべからず、家庭は妻女サユ氏の間に男子四人女子一人ありて共に圓滿和氣藹々模範的なりと羨まるゝところたり。

元村會議員、盤梯組合會議員

長谷川寅太郎氏

明治元年一月十三日生
福島縣河沼郡日橋村大字南高野

中央議政壇上に國家國政の侃諤を高唱しつゝある代議士八田宗吉氏を生みたる日橋村に村會議員として二十四年間勤續し八田氏をして自治界に名を爲さしめたる裏面に於ける長谷川氏等の努力は忘るべからざるもあり、氏は多年自治産業教育に意を致しその功又尠からず、夙にその令名は近隣に謳はれたり、當長谷川家は當主にして尚二代目にして日尚淺しと雖も先考平六氏は篤農家として聞へたり。氏は二十三歳の若冠を以つて父に死別し爾來家督を繼承して今日に到る。明治三十三年區長に推され、次に村會議員に推されて二十餘年間盡瘁したり、舊村會議員中の最功勞者と云ふも敢て過言にあらず、是を辭するや又盤梯組合會議員に推擧され、又社寺總代として敬神思想の指導に盡せり、政事に趣味を有し政友會の闘士たり。

元村長
勳八等

星嘉内氏

明治十一年三月十五日生
福島縣北會津郡大戸村大字西屋丁二百五十番地
士族

當星家は北會津郡大戸村に十數代、代々素封家として連綿として今聞高し氏は幼にして先考の長逝にあひ爾來人知れぬ辛酸苦勞をなめたりと云ふ。明治三十年軍隊に入營し、除隊後日露戰役に召集せられて出征し二〇三高地に於て連戰名譽の負傷を負いてその軍功により勳八等を賜る。氏常に意を自治の發展向上に用ひて倦むことなき努力を致せり、氏は明治四十年若松税務所に勤めよく勤續し、これを退くや大正二年村役場書記を拜命し、以來克く衆庶の輿望を綴く一身に集めて助役となり、且つ村長に推されたり、かくて大正十一年一月當小學校の火災に遇ひ直ちに議會の協賛を得て復興に着し臨時建築費七萬五千圓を以て幾多の難關を突破し建築せり。工成るや交通産業上に熱意を抱き又席溫まる間もなく會津鐵道線延長の爲私財を投じ八田代議士の後援を乞い運動し今や是も完成に近きつゝあり。

農林主事

本田信市氏

明治二十一年十月十五日生
福島縣河沼郡金上村字海老澤西屋敷甲四番地
農業

同家は十數代連綿として農業を繼續せる家柄なり。氏は同郡若宮村に生れ大正元年本田家の囑を容れて養子となり以て家督を繼ぐ。養父幸次郎氏は村内に信用厚く疾くに村會議員、區長等を勤めて令名あり、其の區長時代功績の著しきを以て村より表彰を受けたる地方の有力家なりとす。幸次郎氏の眼光炬の如く信市氏を迎へたるが、果然氏も亦其の選に入りしの實力充分なるものあり郡聯合整理會に勤務し、大正七年九月縣耕地整理農村主事として今日に至れるの精勤家なり。資性極めて溫健にして嘗て人と爭はず、名譽四隣に響くの聲望家なりとす。
家庭は頗る圓滿トミ子夫人との間に三男二女あり、長女靜代十七歳にして坂下女學校在學中の才媛と謂はる。同家の將來の多幸なるは世人の等しく謳むる所なり。

消防組頭

鈴木盛雄氏

明治二十年十二月二十四日生
福島縣河沼郡若宮村大字牛川三五六九番地
農業

同家は村内に冠たるの舊家たるは何人も之れを知る。既に十數代を經て今日に至れるの名門なり。氏の父民彌氏は學務委員、水利組合議員等の公職を擧して熱心努力する所ありし德望家なり。且つ町村制施行以來の納税善行者にして其筋より表彰せらる、氏は大正十年四月三十日消防組頭代理を拜命し專心之れに盡瘁し同十三年四月消防組頭を拜命現在に至りつゝある同十四年坂下人事相談所委員を囑託せらる。氏は多年消防の要職に就き部員組員及ばず指導宜しきを得、又居常之れが訓練を怠らず、即ち火災豫防は言ふに及ばず一般施設計畫に綿密周到なる功勞は一種の頭腦を以つて遍ねく共に事業に稗益する外縣消防發達に關するの名譽職鑑になり且つ爾餘の公共團體に奉職して福島縣知事より表彰を受くるの榮譽を擔ふ。其他數の名譽職にあり、タミ子夫人との間に二女あり長女マツ子は坂下女學校を出で養子武千代氏は學校に教鞭を執りつゝあり。

消防副組頭

長谷川庄平氏

明治二十八年七月二十一日生
福島縣河沼郡金上村大字東原
農業

長谷川家は初代庄左衛門氏以來十五代四百年と傳ふるの舊家なりとす、氏は父君澤吉氏の長男に生れ、農學校を半途退學し大正元年青年團支部長に推され、同二年消防に參與し七年十二月消防小頭より第四部長を拜命し、同十五年副組頭に擧げらる。氏は大正四年若松六十五聯隊に入營し同九年伍長に昇進し大正十二年以降現に在郷軍人副分會長を執掌しつゝあり、又會津米穀同業組合檢査員として大正八年以來十ケ年間其の職に在り、昭和元年より實行組合長としに今日に至る等苟くも同地方の公共公益に關するものに一として努力せざるなき純正なる愛郷家なりとす。資性沈毅にして磊落、眞情を流露して交誼を重ぬる精神家なりとす。夫人クメ子との間に一男あり隆夫君と呼び家庭は最も圓滿にして風波なし。

前村會議員（福島日々新聞社長 東北自動車會社々長）

渡邊信任作

明治二十八年十月七日生
福島縣安積郡丸守村大字下伊豆島字和久嘉十二番地ノ二
醤油醸造業

同家は十數代連綿として農業を繼續せる家柄なり。氏は同郡若宮村に生れ大正元年本田家の囑を容れて養子となり以て家督を繼ぐ。養父幸次郎氏は村内に信用厚く疾くに村會議員、區長等を勤めて令名あり、其の區長時代功績の著しきを以て村より表彰を受けたる地方の有力家なりとす。幸次郎氏の眼光炬の如く信市氏を迎へたるが、果然氏も亦其の選に入りしの實力充分なるものあり郡聯合整理會に勤務し、大正七年九月縣耕地整理農村主事として今日に至れるの精勤家なり。資性極めて溫健にして嘗て人と爭はず、名譽四隣に響くの聲望家なりとす。
家庭は頗る圓滿トミ子夫人との間に三男二女あり、長女靜代十七歳にして坂下女學校在學中の才媛と謂はる。同家の將來の多幸なるは世人の等しく謳むる所なり。

年少にして既に特異の地歩を占むると共に、更に縣下樞要の業界に進出して絢爛の多彩を謳はれつゝある渡邊信任氏は天資英髮透達にして爛眼先見の明ある敏腕家なり、當地の舊家古河鹿之助氏の四男に生れ、大正十五年七月分家すると共に自ら醤油醸造の業を創始し、天稟の才華と不斷の努力を以て業運を拓き後合資組織に新め發展更に見るべく現に資本金二十五萬圓渡邊合資會社の代表者として信望高く、又縣下操觚界の權威たる福島日日新聞社長、交通文化の樞要機關たるべき東北自動車會社々長等を兼ぬ。然も氏は一面自治公共に貢献し多大の寄與を爲して衆望遍く冀に村會議員として三期、消防組頭、國勢調査委員、安積水利組合議員其の他に選る、未だ年齢而立を超えて五歳氏の前途こそ刮目に價すと云ふべし。

前村長、前郡會議員

中村吉重郎氏

慶應二年六月二十四日生
福島縣信夫郡平野村大字平塚字八龍地神十九番地
農業

中村家は由緒ある武門に出で連綿二十餘代土地草分けの舊家にして、名主を勤むる事十代苗字帶刀御免の家柄なり、先代善右衛門氏は名主戸長を勤むる事多年又用係としては明治九年の地租改正當時まで參與されたる功勞者たり、氏は卽ち其の長男に生れ歷世の農耕に加へるに新に中村果樹園を創始し其の優良なる品質は各地に亙りて聲價を高めつゝあり、一面公共自治に躍出し町村制實施と共に學務委員、村會議員として五期又助役、消防組頭、村長、郡會議員三期、郡參事會員、信夫郡聯合會議員、三郡共立病院會議員として幾多赫燿の記錄に富み當地自治界の元勳として重きを爲す家庭は內助の功高きサイ子夫人との間に四男四女あり、長男旭氏專ら果樹園の經營に任じて卓勤の才華を傳へ令孫何れも農蠶學校に研學中なり。

村會議員

坂內佐吉氏

明治五年一月十五日生
福島縣河沼郡日橋村大字廣田二六五
雜貨兼瓦製造業
電話廣田九番

祖先は伊豆に起りし武門に榮へたるの家柄なりとす。氏の父の代迄は若松に住し氏幼少の頃父に逝かれ、母の生家坂下町に移りて生長し、材木商に入りて深く實業界の人たらんと志し明治四十一年同村に日本化學工業會社工場創立に際して其の建設に大なる努力をなし遂に拔きんでられて東電第一第二發電所工事に携はり、行くとして氏の好評を博せざるはなく令名嘖々として傳はるものありき。大正五年更らに瓦製造工場を繼承して其の經營の任に當り、爾來會社の爲めに成績を擧ぐる所あり年額十萬餘圓に及ぶの盛況を來せり。大正十年以來村會議員に當選し現在に及ぶの德望家にして廣田合同運送會社監査役たる外信用組合理事、納稅組合長として信用を博し、よし子夫人との間に二男一女ある圓滿の家庭なりとす。

正七位勳七等

山田安藏氏

明治七年一月十日生
福島縣大沼郡旭村大字無量百三十七番地
農業 殖林事業

當家は蒲生飛彈守家臣山田美明氏を祖とし、其子美明氏の代に於て現住所無量郷に移り、村長として五十三石を領して、以來代々名主或は肝煎役を勤め、維新迄苗字帶刀を許されたる家柄也、先代甚彌氏は耶麻郡上利根川村大堀家より入りて山田家を繼ぐ、性溫厚の人にして、舊戸長時代より樞要の職に在り、明治二十二年町村制布かるゝや推されて旭村助役或は村長となり、多年殖產興業に力を致し、道路溜池耕地整理等幾多の施設完成村民の利益枚擧に遑あらず、明治三十七八年戰役の功に依り旭日章を賜はる安藏氏は同郡東尾岐村川島家より入り、幼にして學業を勵み小學校教員及び郡役所に奉職、明治三十二年文官普通試驗合格、後稅界に入り司稅官となり、大正十二年官を辭し、鄕里に悠々自適植林事業に從ふ。

元村長

上野爲一氏

明治十三年二月三日生
福島縣大沼郡尾岐村大字西尾

當家は約十數代に亙る舊家にして氏は先代品造氏の長男に生る。品造氏は人も知る自治界の功勞者にしてその重なるものを見るに尾岐村々會議員より更に助役村長にと常に村民の衆望を荷ひて擢ばれその村治に對する熱誠と快腕はよく村內を統治するを得たるを見ても知るべし。外學務委員を長年勤めて敎育上これ又多大の貢獻をなし尙大沼郡消防本部名譽會員、大沼郡農會長、尾岐信用組合長、大日本蠶絲會福島支會大沼郡部員、尾岐村の納稅組合長となりよく公共の爲に盡力せられたるは實に仁德ある士と言はざるべからず、當主も亦かく嚴父の血を享け先に村長郡會議員として活躍し尙消防小頭十ケ年を勤むる外尾岐信用組合の事務一切を引受け活動しつゝある亦最も恬淡せらるゝ村器たり。

村會議員、水利議員

齋藤虎彦氏

明治十九年十二月十七日生
福島縣北會津郡門田村
年貢町甲七九五番地

當家は五代を閱せる土地有數の素封家として令名高く先考明德氏は郡會議員三期間村會議員等の公職にありて自治に盡瘁し多大の功績を擧げたり、又實業家として會津電力株式會社創立以來十ケ年重役として恪勤したり。氏は卽ち明德氏が嫡男として生を享け會津中學校を卒業後志を實業方面に致して日夜倦む所を知らずよく努力を致せり、先づ明治四十年鐵道省福島營業事務所書記を拜命せしを振出しに明治四十二年旅順水道及電氣に大正二年入山採炭株式會社、大正五年藤田鑛業株式會社、廣田製鋼所、大正十二年會津木材株式會社常務取締役、昭和二年會津酒造株式會社專務取締役等に歷任して多大の功績を擧げたり、尙昭和元年村會議員に昭和三年水利議員に選ばれ現に盡瘁しつゝあり。

村會議員

板橋甚三郎氏

明治二十四年生
福島縣河沼郡日橋村
農業

今日迄、四代を重る連綿たる家柄にして、祖父達八氏は村役人として戶長役場時代の村治に多年貢獻せるの人、當時家產衰へしも父甚太郎氏は篤農家として家業に精勵し家運を挽回し遂に中興の祖たるを得たるの人なるも惜哉大正初年病を得て歿せり。氏は兄姉四人中の末子なりしが長兄早世せし爲め二十七歲にし家を督し、小學校卒業後青年會創立に關しては多大の努力を傾け明治四十四年入營して審さに軍隊の事に服し、除隊後は軍人分會役員として專ら地方在鄕軍人の指導誘掖に盡し、三十一歲にして遂に村會議員に推されて當選し爾來引續き同村會議員として村內に重きをなし而かも村會中の新進者を以て任じ信望頓に厚く、恐くは將來同村の牛耳を執るものは氏たるべきを想察せしむるの有力家なり。

在鄕軍人分會長
勳五等

山田信一氏

明治十三年四月二十七日生
福島縣北會津郡門田村
大字面川丙六六一番地
農業

神護景雲年間筑前國宗像大宮司の孫宗像大和守源朝臣義遠の次弟義澄會津城主葦名修理大夫盛貞に從ひて紋田庄花阪邑に知行五百石を領す。後山田吉左衞門內尉源義隆と稱して武門に榮えしも葦名氏亡びて歸農し、鄕士として近鄕に勢力を張り大肝煎役として連綿として勤續せるの名門の流を汲む。同氏の父君信義氏は夙に頭腦の明晰、穎悟を以て人に知られ、壯なるに及んで期せずして一村の信望を双肩に擔ひ、維新後は戶長聯合戶長として名聲を馳せ、町村制の實施後は村長に當選し自治基礎の確立には殆んど不眠不休の盡瘁をなし、一片耿々憂國の至誠を常に心に藏し、其の人格の閃きと識見の高邁なる所或は郡會議員、縣會議員に當選し、會津地方に於ける政治家としては山田信義氏と云へば自他共に許す同地方の大人物なるは周知の事實に屬す。氏は會津中學を卒へ東京帝國大學駒場實科を卒へ明治三十九年一年志願兵として入營し、功を以て勳六等を賜はり、歸來多年間の造詣と蘊蓄を實地に活用すべく後進誘掖指導の爲めに敎壇上の人として藤枝農學校敎諭に任ぜられ、後香川縣技師秋田縣技師を歷任し、大正七年新潟縣技師として農務課長に任用せられ、高等官五等に昇任し、更に勳五等に叙せらる、而も其の間任地の農業開發には絕大の努力を拂ひ事績の見るべき多きは悉く知らるゝの事實なり、大正十三年家業繼承の爲め辭して歸鄕し、專ら心を鄕黨の爲に傾け、在鄕軍人分會長として引續き今日に至り、氏の分會を主體として分會貯金組合を起し、着々實績を擧げつゝあるが氏の抱負は將來全村に亘るの信用組合たらんとするに在りて劃策の宜しきを有しつゝあり、父君は花坂山森林組合組織に專心努力し今や曙光燦然として輝き漸次理想的の進涉を見つゝあるが氏は父祖の志を繼くべく同組合に推され居るは勿論適材適所、下世話の餅屋の餅なるものにして多年の經驗に基き其の施設肯綮に當り縣下に稀なるの組合として其の發展は他の追隨を許さざるものありと云ふ。氏は性極めて磊落不羈、斗酒を辭せざるの酒豪なるも近來聊か健康勝れざるの慨あり之を愼むもの如し、多年官界に在りし爲め感狀賞賜尠少ならず。令閨つね子氏又淑德の譽れ高く、二男あり長男信盛君は農學校卒業後專ら家事を監督し、青年團支部長として重視せられ、次男信雄君は會津中學在學中なりとす。

若宮組第一部長

小池豊喜氏

明治二十八年十一月十三日生
福島縣河沼郡若宮村大字牛川五一三番地
酒類業

同家は連綿十數代に亘る土地の舊家にして明和の昔より酒造業を營み同村の需要者は勿論一手に集め、業運日に日に隆々たりき、父傳次氏は明治三十六年若宮消防組を組織し、ポンプ購入等に努力し第一回組頭となり功勞多大なるは村人の年記する所なり。氏は傳次氏の長男に生れ坂下農學校卒業後專ら家業に精勵し、銘酒萬代芳を發賣し家運の隆昌を極め、人をして驚嘆せしむるものありき。而かも一人一己の爲めに圖らざるの君は心を公共の事に寄せ、公共自治の爲めに奮鬪努力何人も許さゞるの貢献を敢てするの風格あり。即ち大正十四年消防組員を拜命し同十五年四月小頭に昇格次で若宮組第一部長に推され、昭和三年鐵骨大火見櫓の建設を劃する等、努力の跡歴然たり、今や消防一部長として活躍傍人を驚嘆せしむ。

元郡會議員

長谷川義夫氏

明治二十年三月二十一日生
福島縣大沼郡新鶴村大字鶴野邊
農業

同家は現代に至る迄二十代の舊家、連綿として地方の重きに任じ肝煎役を努めたるの最も由緒ある名家なるが、其の祖先は大和國より起りて此の地に土着したり。氏の嚴父常次郎氏は佐瀬家より入りて家を督し、或は戸長として又或は村會議員、村長として、其他六郡聯合會議員として重視せられ大正十五年八月縣會議員たる等幾多村治縣政施設に貢献したる人。氏は會津中學校卒業後、笈を負ひて上京し、鄕に歸り地方教育の爲めに教鞭を執り、辭して消防組頭たること實に七ケ年、大正八年郡會議員に當選し、郡制廢止と共に退職、又郡農會議員、村農會副會長として牛耳を握り、耕地整理其他地方産業界の一大恩人なり。令閨ミツ子の間に二男二女あり。

金上尋常高等小學校訓導兼校長

佐瀬三郎氏

明治二十一年九月二十日生
福島縣河沼郡金上村大字福原九一〇番地

當祖は元和年間以前に遡り連綿十有數代を閲する舊家にして祖の佐瀬嘉左衛門德正は存命中一寺を建立し福壽山德正寺と號す。次代緣藏は北會津郡神指村に生れ養はれて佐瀬家を繼ぐ性簾直夙に一鄕の望む處なり明治三十四年選ばれて村長となり此間區長村議、學務委員、農會委員、諸般の公職を兼ね、克く一村自治の發達を圖り力を教育の普及に竭し多年の宿題たる小學校の新築、役場廳舍の改築公共機關の建設等枚擧に遑なく亦個人として學校敷地等の寄附を始め功勞頗る多く又明治二十七八年事件の功により勳七等青色桐葉章及金一封を賜る。

當主三郎氏は明治四十二年會津中學校卒業、同四十四年福島師範第二部卒業爾來若松市第五訓導坂下小學校訓導、河沼郡牛川小學校長を經て同郡金上小學校長となり同學業組習學校長同村青年團長、並に河沼郡教育部會幹事を兼ね。

在鄕軍人分會長

川島賢伍氏

明治三十二年一月十八日生
福島縣大沼郡旭村大字松原
農業

川島家は當村草分けの舊家にして代々庄屋を勤めて幾多の記錄を止む、抑も此の地は因御藏入と稱し德川幕府直轄の領地たりしが、數代前の當祖の甥與五右衛門氏は先蹤的の明見に富み當地唯一の物産たるローの私に藩吏に奪取されんとするを憂へて直訴したるため犧牲的憤死を遂ぐ辭世の歌に「とれるときうれしと木の實と思ひどもいましめられてろうの身となる」と蓋し後世氏の名を殘し村民の崇高極めて深きもの故なきにあらず、氏は同郡藤川村字富岡福田與三郎氏の三男に生れ會津中學校卒業後、更に進んで福島師範第二部に入學し卒業後、一年現役兵として歩兵第六十五聯隊に入り大正十四年陸軍歩兵少尉に任ぜられ、滿期歸鄕後は藤川を經て永井野小學校に教鞭を執りて專ら子弟の教養に任ずる傍ら、軍人分會長として奉公の至直を傾けつゝあり、性精悍にして濶達且仁俠にして議氣に富む年齢漸く而立を超えて一歳蓋し向後の活躍こそ瞠目に價せん。

若松金粉金箔商組合長
勳七等
功七級

菊地喜平氏

明治十年十一月十五日生
福島縣若松市原ノ町五番地
工業（金粉金箔製造工業）

本家は若松市特産品として著名なる沿革を有する金粉金箔の製造工業を以て立ち五代目喜右衛門氏某村名主の名家より入り以て菊地家を興し現業を始めたり。當時は蒔繪用金粉を業とせしが維新後金箔業を盛大にし、數軒の同業者の失敗廢業を後にして本家唯一家のみ隆々として斯界に鳴れり。氏は卽ち先代喜平氏の長男にして普通學を了へ、嚴父病弱の故を以て早く家業を繼承し孜々として業務に務む。一度照役後日露の戰に加はり凱旋して勳七等功七級を賜はりしが爾來益々業績成り工場を建設し職工六十人を使役して東京、北陸、關西方面にその製品販路の開拓を爲しつゝあり。氏又同業組合長の職にありて同業の發達向上に專心なること多大なり。家庭には愛妻むめ氏、養子建治氏、別に三男一女あり。

若松指物商組合長

大關和吉氏

元治元年七月六日生
若松市融通寺町三十五番地
指物業
電話五九七番

氏は夙に製産事業に從事し、其の前途の發達を計り斃て止ざる孜々の努力を以て今日あるを得氏の努力や大なる也、先代廣松氏の代より現業に從事す、先代の頃より單に指物をして將來に輕視せず父子協力して斯業の研究技工に晝夜を別たず、殊に氏の青年時代の努力は今日の大堂を爲す原動力ともなりたるなり、同業組合の發展を計るに於て組合を組織し氏之が會長に推さる、事業並に組合の爲常に努力せる結果何れの品評會にても第一位を占め、技術の優秀本縣下に鳴り、大正天皇御大禮紀念品の御下命に接す之縣下組合及び氏一家の名譽たり、大正三年高松宮家、大正六年皇后陛下御調度品の御下命等を重ね氏感激して益々事業に努力す、一家は和吉氏妻ハル女の間に一男二女にて長女イノの養子金四郎氏に讓る。

林紡織合名會社
代表者

林平藏氏

嘉永六年十月十五日生
若松市老町二十九番地
縫目なし酒醬油搾袋水壓用丸織
製造販賣元
電話四五九番

當家は一說に舊葦名氏時代より在りしとも云ふ、中興會津藩中約六代連綿として、代々平藏氏を名乘り領主の御用達等務めし時代も有と云ふ、先代平藏氏時代より味噌釀造業を營み傍ら質業をも兼ぬ、當主平藏氏相續の後、明治二十年會津物産織物業に轉じたり、木織綿業として斯界の先驅者として其改善に努力し一方釀造用搾袋の改良製織に力を注ぎ、明治三十年縫目なし丸袋織搾製織考案に成功して廣く同業者に認められ獨專的事業として爾來改良に研究せり現在六百坪の工場を一族を以て合名會社として經營せり又職工數百人使用せると云ふ、氏の今日迄でに於ける幾多の努力は中央産業界の認むる所となり、賞狀數回授けられたり、氏は今年七十有餘歳なるも令息及び令孫と共に當産業發展の爲め鋭意努力しつゝある。

町會議員

渡邊春雄氏

明治七年三月二十五日生
福島縣小濱町大字上長松字日向
農業

氏の家系を遡りて尋ねば、相當に由緒ある舊家たる事は證するに足るも、其の餘は文獻の證となるべきものなきは遺憾なり。然し當渡邊の總本家たる事は事實なり。代々農業を以つて其の家業となし、現に父の丑次郎氏は寺の地方委員を務め地方の宗教心向上の大役を果しつゝあり。氏は現在町會議員の要職に在りて日夜町政に盡力又た消防方面にも力を盡し小頭となり其の方面の元老にて二十年以上も其の職の爲めに盡す事は稀れに見る事にして氏の功や又た沒すべからず。夫人との間に五男四女ありて其の家庭は實に賑かなり長男一雄氏も未來を矚望さるゝ材器にして天禀的に父の英氣をうけ將來を期待せらる。併して常に農事にいそしみ古への聖人にも比すべきの境にあり。

帝國在鄉軍人會
若松市中分會長

松山良純氏

明治二十六年十月二十日生
若松市馬場名子屋町十三番地
住職

氏は文祿年間玄海上人を開基とする本願寺派福證寺の第十五世現住にして會津中學を卒業後京都佛教大學に五年間學び、大正七年卒業して歸鄉するや一年志願兵として步六五に入營して步兵少尉に任官退營後は專ら本願寺派布教師として縣の內外に亙りて思想の善導と宗意の宣傳とに努め、傍ら分會長として精神的指導の下に分會の改革と發展とに腐心せられて殆んど寧日なし、氏は分會長外、同宗若松組々長、會津佛教各宗同盟會長、會津佛教慈善會副長等數多の要職に在りて地方の信望頗る厚し、氏の父若照氏祖父若冲氏は今や亡きも、俱に教育功勞者として名をなし、氏の令室芳野夫人は、現西本願寺法主大谷光昭猊下の教育主任脇谷揭謙氏の長女にして一男三女あり。因に氏の令兄は市內に齒科醫を開業して榮ふ。

會津高等女學校々長
正六位

小關清吾氏

明治十八年二月一日生
福島縣若松市榮町一〇五番地
教育家

氏の生家は近隣に聞えし舊家にして當主を以て十一代目となす、遠祖は淺野家の舊臣なり、小關家初代より伊達家岩出山藩に仕へ祖父雄次郎氏迄武家として榮ふ。先代は維新後家業として土木建築請負業を創始し篤實溫厚の人格者として夙に令名を謳はる。氏は先代雄之助氏の次男にして家督を繼承す、明治三十七年縣立第三中學校卒業在學中は特待生たり、四十一年廣島高等師範學校を卒業し同時に教員免許狀を受く、同年東北中學校教諭を拜命し翌年築館中學校に轉任す、後大正二年青森師範學校教諭となり舍監を兼務す、八年福島中學校奏任教諭に轉じ、昭和三年福島縣立會津高等女學校々長兼教諭を拜命す、此間小學校教員檢定試驗委員、普通文官試驗委員專檢並に高檢委員等を曆任せらる。

力神堂整骨院主
大日本精神醫學研究會長
東京心理學士
勳八等

鈴木清美氏

明治二十年四月五日生
若松市中六日町十七番地
接骨師
電話九三八番

南朝忠臣橋本正茂贈正五位の正統を受け、其晩年の地片曾根村の住人橋本家の一族たり、氏の實父留次氏橋本家を出て丶其一族にして鈴木家を起して鈴木姓を名乘る。土地の豪農にして鄉士たる家柄にて幾多古記事及寶物とも云ふもの有り。氏は長男にして普通學後明治四十年會津若松聯隊に入營再役して大正二年第一回學生として陸軍戶山學校に入學、卒業後士官學校助教、大正六年特務曹長に進級六十五聯隊附、大正九年豫備役其後中等教員檢定試驗及普通文官にパス、福島縣立工業學校教諭たりしも教育界を退き思想善導に志し、精神醫學は靈の方面より肉の上からは透術に研究心を持現在の關整骨院に至る、氏の頭腦明晰は地方に於て稀に見る人物として尊敬を受く、氏の趣味は刀劍生花行く〳〵は軍人精神を志守す。

有限責任
信用組合

若松庶民金庫

福島縣若松市博勞町二三番地
電話三七二番

由來本市に於ける金融梗關は概ね有產階級の利便に供せられ、中小產階級は依然資金の調達に惱み自然高利の資金に賴り、其產業並に經濟の發達に困難の狀著しきものあるに鑑み、中小產階級の相互的庶民金融梗關の必要を痛感し、有志相謀りて本金庫を設立せり。大正九年設立當時に於ける出資總額四二〇〇圓爾來數年業績振はず、大正十三年當市德望家たる山口儀平氏組合長に就任以來內容の充實を謀り、主旨の宣傳に努めたる結果急激なる發展を遂げ、現在加入總口數一萬九百餘、出資總額二十一萬八千餘圓諸預り金十四　五千餘圓、諸積立金二萬九千餘圓、諸貸付金四十一萬五千餘圓の數字を見るに至れり。今や益々時代に適應せる庶民金融機關として中小產商工業發展に努力し、社會的組合事業の遂行を企圖しつゝあり。

町會議員、鹽川實業株式會社取締役
會津繊業株式會社々長
勳八等

深田佑助氏

明治十一年七月十七日生
福島縣耶麻郡鹽川町一八三八
呉服太物、小間物雜貨商
電話四一・三五番

氏の生家は約二百年來由緒ある酒造家なりしが維新の變革以來家運衰微し釀造を廢業するに至れり、七才にして父を失ひ幼時貧困の內に人となり、長するに及んで專ら家運の挽回に努力せり、氏は日露の役に參加して功により勳八等に叙せられ恩賜金給はり、是を資金として織物業を開始せり、始め令閨と共に賃織を爲し、傍ら在若松市縣立工業學校の夜間講習に毎夜三里餘を通學し、夜半一時乃至二時に歸宅し翌日も亦一日の作業を終り夜に入り若松へ通勤し、常に實地と學理との研鑽を怠らず、刻苦精勵業務に努力し、一途の機業家となれり。後に株式組織となし己が社長となり、業蹟益々擧りて現今會津木綿の覇を爲せり。而かも明治四十年五月以來町會議員たる事又十八年、克く町治に盡瘁せられたる功勞を認められ今回自治功勞者として表彰せられたり。

耶麻郡鹽川町長

田邊精一郎氏

明治六年九月十五日生
福島縣耶麻郡鹽川町字勝木田屹
農業

氏は其の性素より溫順英邁にして地方自治の發展に携はり、正に當村要路の第一人者也。其の父は八郎氏と云ひて多年笈川村々長たり。且は其の他の公職として貢献する處頗る大なりし人物にして、名聲高かりし人なり。氏はかゝる偉勳者の長子として生れ、其の父志を繼ぎ明治三十八年鹽川町姥堂村組合役場書記に推されしを始めとし大正十三年組合村解除後直ちに助役に薦められ、一途財產處分の問題其他大ならざる町の單獨經營に精勵せしが越えて十四年遂に町長の職に擧げられるに及んでは氏の全力は專ら幾多重要なる施設に注がれ、以て之を遂行して止まず、一路大鹽川建設に孜々たり。されば氏の人望は彌々高まり一度は笈川村々會議員として令名を馳せ又本年御大典記念事業として小學校講堂を建設せり。

會津一市四郡蠶種同業組合長

北村兵庫氏

明治四年五月十一日生
福島縣耶麻郡鹽川町一九六一
蠶種製造業

氏は鹽川町に於ける酒造家に生れたるも幼より養蠶を好み十八才の時蠶種製造の業を創め、爾來四方を遍遊して蠶業大家の門を叩き、斯業の研究に努め、東北一と稱せらるゝ三百有餘坪の大蠶室を築造し、模範的桑園を拓き以て基礎を固め、蠶種は愈よ良好を加へ販路は益々擴まり、今や數萬の蠶種常に製造期間內に前金拂の注文者殺到して悉く賣れ盡すの盛況は斯界稀に見る成功にして同業者羨望の的となれり　是氏が多年苦心の結晶と云べし。氏は如斯蠶業に努る傍ら一般產業の爲に盡す所多く、其郡農會議員たること數次、又町會議員、町農會長等數次、而て政治的には青年時代自由黨の闘士として活躍し大に將來を囑望せられたりしが、政界の腐敗墮落に赴くや斷然斯界の關係を絶つに至れり。妻かつ子との間三男三女あり。

町會議員

皆川久三氏

明治二十一年一月十五日生
福島縣耶麻郡鹽川町新町一八〇〇
米穀輸出業
電話三番

氏は二十三才にして父久三氏を失ひしが其後一途父志を繼ぎ身を以て米穀業の發展に努め、東京方面へ輸出を企圖し、單身構須賀市に到りて專ら會津米の宣傳と販路擴張とに苦心したり。されば氏の努力酬ひられてか爾來輸出額は年々に增加し來りて、既に數年以前に於ては其の成績實に郡內第一に上りしが爲、氏の業運日々に隆盛に赴き前年の如きは又四萬俵の多額を敥へたり。氏は又地方產業の改良に專心し夙に組合を創立し以て之が役員たる事多年、而もその間僅か二十五才にして町會議員の要職に推され、連々として今日に至るもの也。且つ又土地建物賃貸價格調査員・當會津米穀組合代議員、產米改良組合評議員、鹽川信托會社取締役等の要職に在り家庭は愛妻タツ女及五男三女あり。

元鹽川町々長現姥堂村長
勳七等
森田勇氏
安政二年生
福島縣耶麻郡姥堂村
農業

當家は五百年來の大庄屋たる由緒ある家柄にして其の祖は紀州田邊城主田邊義元氏に始まる。勇氏は元慶德村たる森田磯之進氏の長男に生れ二十四才を以て一度田邊家に入りしも其後森田家の相續者缺けるが爲め再び舊姓を名乗り、其の三男を以て田邊家を繼がしめたり。氏は素より其の資性溫和高潔なりしかば夙に當村自治の爲め活躍し、十七才の折戸長役場書記となるを振出しに、三十二年助役に、而も其後町長に推され、大正六年迄二十年間其の職にありて幾多公益事業に盡瘁し、且つ又大正十三年には再度姥堂村々長に推されしが其後辭して現今一途讀書に己が老後を樂しみつゝあり。氏今年七十二才、家に三男二女を持ち、内、長男は日露の役に戰死し、次男耕馬氏亦軍籍を出で今當村在鄉軍人分會長を務む。

前村長
前田瀨平氏
福島縣耶麻郡堂島村
篤農

福島縣下に自治教育産業の先覺者功勞者として令名ならびなく、且つ自治公勞によりて勳七等をおくられし前田耕作氏を出だせる當前田家は遠祖を菅原道眞公となす。爾來綿々代を重ねること六十二代にして今日に至る。先考耕作氏は白河町の産なりしも當家に入りて養嗣子となり、まもなく戰端開け戊辰の役となりこれに參加せしも利あらず鄉に歸りて爾來戶長地頭等を勤め明治十一年民會議員續いて十四年縣會議員を兼ね十五年會津北部聯合會議員に推され遂に二十二年村長に推されて三十七年迄在職し、其間教育産業に持に意を用ひ、耕地整理の業蹟は縣下の先鞭をなす。瀨平氏は耕作氏の嫡男にして家業を繼ぐや大正十一年村長に推され一期間此間學校役場改築を完成し産業組合を起し之に長たり現に信川組合長を兼ぬ。

若松市長
從六位
穴澤義弘氏
明治十四年六月二十四日生
若松市槻木町廿四番地
電話若松七三番

國家國政に侃諤の言を高唱する者尠からず、されど其の家治まらずば國治まらず、竝に縄黨に忠ならずして邦家を思ふものなし。一滴の水は馳て大海となり一握の土は大山の分子なるが如く、個人の集積は村をなし郡をなし、縣となり國を作るのであるから、若し邦家が個人の健全なるものを以て集ければ其の國家榮ふ、この意味に於てか邦家はその一人一人の健全分子を欲するのである。之れに相當する人に穴澤義弘氏を見出すのである。氏は明治十四年六月南會津郡檜澤村穴澤民江氏の長男に生れた、當家は會津藩にして、檜原穴澤領主として、連綿としたる武門の出なり、代々醫業に從事す。氏は土地の小學校を經て、明治三十三年縣立會津中學校卒業同年東京早稻田大學、高等予科を經て大學部政治經濟科同四十年七月卒業す同時に信達軌道株式會社創立に際し、入社會計課長として勤務す。四十一年七月同社大日本軌道株式會社合併後書記として勤務し、四十二年四月退社四十四年八月信夫郡役所書記拜命、北會津郡、耶麻郡の勤務を經て、大正四年縣屬内務部勸業課勤務、大正八年八月内務部蠶絲商工課勤務同九年縣理事官、高等官に昇進し農商課長拜命兼物産陳列館長、商業會議所特別議員等に就任、同十年七月、從七位に叙せられ、福島縣商品陳列所長、釀造試驗所長、事務取扱、大正十二年九月迄で兼任、大正十三年三月信夫郡々長となり、從六位高等官五等に叙せられ、大正十五年十月依願免官、昭和二年二月若松市々會議員の決議に依り招かれて若松市々長に就任、現在に至る、氏は今日迄で幾多の公職に在り傍ら關係役員は左之通り、蠶種課長時代農工銀行監理官、農商課長時代、東宮殿下行啓に際し設備係長、兼展覽會審査長、引續き縣會參與員、大正十二年四月氏が現在に至る迄での功績は多大にして、産業組合中央會より綠綬功章を賜る氏は大正十二年の關東大震災當時救護部物品配給委員として活動されたり、氏は市長就任以來關係役員として、市農會顧問、産業組合若松市部長、教育會支部長、青年團長、其他二三の役を務めり、氏は將來計畫事業としては都市計畫、近村併合大若松市完成、市上水道の建設、公立病院設置等を實現するを期待し大きくは國家の爲め、市の爲め、否社會公共の爲め努力せり、氏の趣味は讀書にありて博學治智の聞え實に大なり。

陸軍三等主計
在鄉軍人會分會長
石橋正德氏
明治二十六年十一月十二日生
福島縣若松市片柳町三十番地
酒釀業
電話若松三一三番

當家は地方屈指の舊家にして、舊幕時代麴製造を爲す、祖父の代より酒釀業を爲し父是を繼ぎ以て氏に到る、父德治氏區長、町會議員等に任す、氏は會津中學卒業、早大商科を大正六年卒業同年一年志願兵として仙臺廿九聯隊入營歸鄉後より分會役員たり、十一年少尉任官十二年分會長に推され現在に及ぶ。氏は溫厚篤實にして會員指導者の適任と認められ地方の人より尊敬さる、氏又退營後、大正八年より、十一年迄で、東洋汽船會社構濱支店に勤務す、其間勤務勉勵に付他事務員の模範となり依て會社より賞狀を受けり、現在酒釀業に餘念なく、羽衣と云ふ銘酒を造出し縣下一般は申迄もなく他縣に渡り販賣を擴む、縣より賞を受く事數回に及ぶ逸品、氏の一家は母堂外二男一女にして子息は在學中なり。

縣立會津中學校々長
正六位
小笠原敬三氏
明治十四年二月十五日生
福島縣若松市天寧寺町四番地
教育家

當家は南部家臣として鎌倉時代より綿々として續ける舊家也。維新後祖父三郎兵衛氏の代に分家して一家をなす、先考正脩氏自治制創始前より町村事務に從ひ名譽職に在る事四十餘年、前年七十九才を以て逝去す。氏は正脩氏の二男に生れ中學卒業後明治三十六年に第二高等學校を經て三十九年東大文科哲學科を卒業、其後四十二年師範學校、中學校、女學校修身科教員免許狀を受く、同年宮城縣立農學校教諭兼舍監を拜命、四十五年盛岡中學校教諭大正二年高農林校講師囑託兼中學舍監となり、九年山形新莊中學校長を拜命し從六位に叙せられ十二年岐阜縣大垣中學校長に補せられ十四年現校長に轉ず、同年叙正六位高等官四等を以て待遇さる。

縣立會津學校々長
從六位
正木遊方氏
明治十七年六月二十八日生
福島縣若松市栄町西分六七六
教育家

氏は早くより學界に入り、明治三十九年第四高等學校を卒業するや續いて京都帝國大學理工科製造工業科に學び四十二年これを卒ふ。續いて學界の人となり、即ち同年八月京都高等工藝學校囑託たり。四十四年六月同校教授を任命され從七位を賜る。大正元年これを依願免官なし染色法研究の爲め歐州に留學し、獨逸との戰端開かるゝや歸朝し、京都染織學校教授を拜命しこれに盡瘁す。八年には京城工業專問學校教授兼總督府中央試驗所技師たり。十四年これを依願免官なし、福島縣立工業學校長兼教諭を拜命しこれにおもむく。十五年地方商行技師兼任亦福島縣商行技師たり。昭和二年社會教育指導會囑託、三年には縣漆器工藝研究所々長を拜命し、業界に教育界に至る所に於て節々匪窮の誠を致してその功蹟を輝かせつゝあり。

一心閣（花）無想庵（茶）
小武山華枝女史
明治二十六年十二月二十六日生
福島市杉妻町二十四番地
華道、茶道教師

甲州武田の家臣主家の沒落と共に當地方に隱せいし鄉士となれる者卽ち當家の祖なり。當主安之助は十四代目にして他家より入りて主となる。女史は令兄の沒後傾く家運の再興を念とし當地高等小學校を卒へたる後米澤市に於て修業し早く十五六才にして華道に志し十八才の時上京して吉村華芸師に就きて池坊龍生派を平一鸞師に就きて小原流瓶華盛華を修め研鑽二年有餘師範の資格を得て大正二年歸鄉爾來當地に於て龍生會を設け一心閣華枝と稱して教授に當らる、傍ら無想庵華枝の名の下に茶道の師範たり。女史の門下に集まる者多くは當市一流家庭の婦人令孃にして、歴代長官、縣高官の令婦人皆女史の教を受く、女史は又二本松實科高等女學校川俣女學校、虎蹊高等女學校に講師たり其教を受けたる者既に千名に及ぶ。

町會議員

栗村千代吉氏

慶應二年一月十六日生
福島縣耶麻郡鹽川町新町一八四六
菓子製造業（九重本舗）
電話 四五番
振替東京七五六〇二番

今當主栗村氏は其の初め織物染物業を以て正業となせしが不幸同業者間の競爭に累せられ遂に廢業の止むなきに到れり。氏素より其の性英邁の風格ありしか、茲に志を立て一度越後津川に菓子製造の見習となり苦心する事數年、遂に名菓九重の製法を工夫し歸鄉して以て斯業を始め、資金少きが爲に仙臺市に共營者を求むる等その努力頗る大なりき。然して偶々當地に大演習行はれ明治大帝御統監の光榮あるに當り、氏の名菓九重は殊の外其の風味大帝の御感に入りしが爲め茲に一躍名聲揚り爾來宮内省の御用と共に益々其の販路を擴張し、以て今日その盛大計るべからざるものあるに到れり。されば當家は現時當鹽川町一流の富を齎したり。氏は又大正十一年以來町會議員に推され家庭に愛妻つね女と令甥あり。

帝國在鄉軍人會
若松市聯合分會長
從七位
勳六等

林清五氏

明治十四年三月十三日生
若松市材木町六十三番地
醬油釀造業
電話（營業用二二三番
自宅用三四四番）

當家は藩祖保科正之公に從ひ會津に移住し代々領主の御用掛りを勤む先代賢藏氏分家して醬油釀造を創め奮勵努力今や釀造石數不而已品質に於ても東北第一位を占む然して先代は市會議員縣會議員を勤むる事數次、其間全く自己を空して社會公共に盡瘁し賞を受くる事數回故に氏の歿後有志相謀て其功績を永遠に記念せんが爲、西若松驛頭に銅像を建設され又市會議事堂に氏の肖像畫を揭ぐ。當主は卽其長男に生れ日露の役には步兵中尉として各地に轉戰し歪頭山に於て貫通銃創を受け功に依り勳六等に叙し功五級金鵄勳章を賜ふ現に推されて聯合分會長たり、耐て軍人會總裁閑院宮殿下より有功章を賜ひ又陸軍大臣より銀盃を賜ひて功勞を表彰せらる實業方面に於ては株式會社會津銀行會津電力株式會社會津製氷株式會社等各取締役市產業界併に經濟界に重きをなす。因に令弟健次郎君は砲兵少尉にて現業は兄弟合名組織を以て益々發展しつゝあり。

村會議員

角田善四郎氏

明治十五年十一月二日生
福島縣河沼郡若宮村牛川西村
中三千五百八十一番地

當家は同村鈴木家の分家にして角田家を再興し爾來綿々五代を閱せる舊家なり。氏は嚴父善七氏の次男として生を受け家督を繼承して今日に到る。氏は高等小學校を修め後明治三十五年仙臺二十九聯隊に入營し現役のまゝにて日露戰役に出征し、奉天其他の戰爭に轉戰して特筆すべき軍功をたて三十九年歸省す。四十二年消防小頭を拜命されしを振出しに其後組頭代理となり大正九年遂に組頭を拜命す。かくて基本金の增蓄及第五部の設立等顯著たる功績を致せり。大正九年耕地整理組合評議員となり昭和元年村衆の興望を得て遂ひに村會議員の榮職に推され村政に參與し村政を改革して能く盡瘁しつゝあり。二年耕地整理組合會計係として勉々能く勤務しつゝあり。卽ち村民の景仰を受くる事厚く壯歲第一位の人望を荷ふ。

玉木隣祥師

明治四年十一月十三日生
福島縣福島市清明町
鷹峯山常光寺住職

當山十一代萬明師は加賀金澤市天德院祖聯師の徒なりしが行脚して此地に留まり後ち當寺に住職す、當寺四世の代一ケ寺、五世の代二ケ寺六世七世に各一ケ寺づゝを開創す八世の傳髓師は當寺を改築して大いに寺門の興隆を計る爾來連綿として大いに敎筵を敷く師を以て第二十一世となす先代隣芳師は在住二十五年間社會事業に盡瘁せられたる所大にして現福島育兒院の創設者、同時に會長として多年實地の經營に當られたり。其他免囚保護事業に君の關係せしもの多數にして枚擧に暇なし。隣祥師は幼より先代に師事して法を修め三十一才茲に住持となり今日に至る五十年其の先代の後を繼ぎて社會事業に專心し殊に育兒院長及び會計等の任に當る。因に今上陛下御成婚に際し多年育英事業に貢獻せる功により、御紋章付銀盃及金二百圓を賜はれる大人格者なり。

昭和五年八月三日印刷
昭和五年八月十二日發行

不許複製

編輯者　岩瀨治兵衛　東京市本鄉區湯島天神町三丁目一番地
發行者　星野儀兵衛　東京市本鄉區湯島天神町三丁目一番地
印刷者　石川了一　東京市神田區三崎町三丁目九十五番地
印刷所　邦秀社印刷所　東京市神田區三崎町三丁目九十五番地

發行所　東京市本鄉區湯島天神町三丁目一番地
東京日日通信社

終